

## 太宰府市文化遺産情報 2

— 文化遺産からはじまるまちづくり —

平成 25 年  
(2013)

太宰府市教育委員会

## 太宰府市文化遺産情報 2

— 文化遺産からはじまるまちづくり —

平成 25 年  
(2013)

太宰府市教育委員会

## 序

平成16年度に策定しました『太宰府市文化財保存活用計画』にて、本市のまちづくりの方針として「文化遺産からはじまるまちづくり」を表明し、その後実務計画として策定した『太宰府市民遺産活用推進計画』と併せて、『太宰府市歴史文化基本構想』を立ち上げ、平成22年度から実践へと移してきました。これら全ての計画の基本には、太宰府市民が未来の市民に伝えていきたいと思う「文化遺産」が基礎にあり、市民の皆さんが自らの力で集めてきた情報が、全ての出発点であると考えています。

本書に収録された文化遺産に関する情報は、太宰府市民遺産を構成する上で、最も基礎的な情報で、なによりも平成20年度より文化遺産調査ボランティアとして参加された市民の力で収集されたものです。併せて、現在の「太宰府」を語る上で、多様で貴重な情報であるということが誇れる成果と言えます。

「文化遺産からはじまるまちづくり」を進める上のキーワードとして、太宰府市民遺産の取り組みを促進するために、本書が基礎的な情報となり、多くの方々に活用していただけることを願います。

結びに、本書を作成するにあたり、太宰府に関わる多様な文化遺産を収集していただいた文化遺産調査ボランティアの皆さん、そして情報を提供いただいた市民の皆さまに心より感謝申し上げます。

平成25年3月  
太宰府市教育委員会  
教育長 木村 甚治

## 目次

1. 本書の説明	1
a. 目的	1
b. 文化遺産情報の見方	1
2. 文化遺産情報	3
3. 文化遺産調査	4
a. 文化遺産調査	5
4. 文化遺産情報	6
A 地区（北谷・内山・御笠）	9
B 地区（太宰府・三条・宰府・連歌屋）	15
C 地区（白川・五条・石坂）	19
D 地区（石穴・青山・梅香苑）	23
E 地区（国分・水城）	27
F 地区（観世音寺・坂本）	35
G 地区（朱雀・通古賀・都府楼南・宰都）	69
H 地区（吉松・青葉台・長浦台・向佐野・大佐野）	85
I 地区（四王寺山）	93
附編	103
1. 文化遺産調査ボランティアの活動	103
2. 基本文献一覧	105
索引	109

## 1. 本書の説明

### a. 目的

本書は、平成20年度より開始し、平成24年12月までに収集できた太宰府市の文化遺産に関する調査報告です。ここに収録した文化遺産に関する情報は、市民有志による文化遺産調査ボランティアを結成し、多様な感性で、未来の市民に伝えたいモノを収集していただきました。そこには、市役所が主動しつくり出した偏った見方から抽出されたものではなく、参画された市民の方々の様々な思い、未来の市民に伝えたい「今」を表現した多彩な文化遺産の情報です。

本書に収めた内容は、市域を8つの地域に分け、各々に所在する文化遺産に関する説明を記しています。8つに分けた方法は、7つの小学校区を基本としつつも小学校区の範囲、町名、大字界など様々な要素を考慮した上で分けています。それぞれの範囲は、図2に明示していますので、そちらをご参照ください。

### b. 文化遺産情報の見方

#### ●地図表記

**地区割線：**地図内の青色線は、8つの地区割りを表現した線です。

**町名線：**地図内の赤色の線は、町名ならびに丁目境界を表現した線です。

**寺社表記線：**地図内の橙色の線は、寺社の境内を表現した線です。

**文化遺産：**『文化遺産情報1』に掲載されたものは黒色で、本書に新たに掲載されているものは緑色の点で表現されています。

**文化遺産番号：**以下の要領で表現しています。

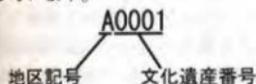


図1. 文化遺産地図の見方

**文化遺産解説：**文化遺産調査で収集されたものの中、個人所有など公開できないものを除いた情報を掲載しています。また、解説内容は、可能なかぎり多くの文化遺産を掲載したいため、概略の説明に留めています。更に詳細な情報をお知りになりたい場合は、太宰府市文化財課にお尋ねください。

問い合わせ先 太宰府市教育委員会 文化財課  
電話：092 - 921 - 2121 (内線 470)

#### ●記載事項

文化遺産調査で収集された情報には、物件名称、所在地、由来・経緯、概要・特色・現状、関連文献など5項目にわたります。その中から、名称(文化遺産名称)、登録番号(地図番号と一致)、時代区分、所在場所、文化遺産写真、文化遺産情報を掲載しています。文化遺産情報の解説文章は、収集された5項目の情報を集約し、物件を表現していると判断される内容で表記しています。

各情報の見方については、以下の要領をご参照ください。

**時代区分**：物件を表現するに相応しいと判断される時代を表記しています。文化遺産個々によって代表する年代に、築造年、使用年、廃絶年、継承年など様々な捉え方があるため、そのものの時代性を最も表現していると判断される時代で表記しています。

概ね、時代区分は、以下のように捉えて表記しています。

**原始**（人の出現から飛鳥時代まで）、**古代**（奈良時代から平安時代中期まで）、**中世**（平安時代後期から戦国時代まで）、**近世**（織豊時代から江戸時代）、**近代**（明治時代から昭和時代前期【第2次世界大戦まで】）、**現代**（昭和時代後期以降）。自然物については、植樹時期などが明らかな場合を除き、特記していません。なお、現代に造作された溝でも、施工時期が異なる可能性があるものは、明らかになった施工時期を記していますが、由来不詳などのため明らかにできないものは「-」表記をしています。

**所在場所**：自然物で、場所特定を避けた萌芽望ましいと判断されるものもあるため、丁名表記で留めています。

●収集された情報

**写真情報**：文化遺産調査ボランティアの活動で収集された写真は、太宰府市教育委員会文化財課ならびに（財）古都太宰府保存協会にて保管しています。また太宰府市史資料室ならびに太宰府市文化ふれあい館が収集したものは、両機関にて保管しています。なお収集された写真情報の貸出は、文化遺産によって異なりますので、上記機関までお尋ねください。

**文化遺産情報原本**：文化遺産調査ボランティアの活動で収集された調査に関する情報は、全て文化遺産カードとして記載され、その原本は（財）古都太宰府保存協会にて保管しています。なお記載された諸情報は、可能な限り文化遺産情報としてデータ化され検索することができるように情報処理されています。また太宰府市教委文化財課、市史資料室、文化ふれあい館が収集した諸情報については、個々の機関にて管理保管されていますが、全ての情報は、先述した文化遺産情報として統合され、閲覧することができます。その際には、下記手続きが別途必要となりますので、あらかじめご了承ください。

■閲覧手続き

文化遺産情報には、個人に関する情報が記載されているため、文化遺産によっては全ての情報を開示できない場合があります。また開示できるものについても、閲覧者の氏名、住所、連絡先、使用目的などをお尋ねした上でご覧いただきます。

■本書の制作

本書は、文化遺産調査ボランティア活動の事務局である（財）古都太宰府保存協会と、文化庁の受託事業として実施した文化財総合的把握モデル事業の受託団体であった太宰府市教育委員会文化財課ならびに、関係課として太宰府市都市整備課の三者で作成しました。制作にあたった各団体の組織は、以下のとおりです。

【太宰府市教育委員会】

総括	教育長	關 敏治（平成24年12月24日まで） 木村甚治（平成24年12月25日から）
庶務	教育部長 文化財課長	古野洋敏 井上 均（平成24年6月30日まで） 菊武良一（平成24年7月1日から）
	文化財課副課長	城戸康利（平成24年7月1日から）

保護活用係長

菊武良一（平成24年6月30日まで）  
友添浩一（平成24年7月1日から）

調査係長  
事務主査  
主事

山村信榮  
橋川史典  
古川あや  
中島恒次郎（平成24年6月30日まで）  
井上信正

調査

主任主査

技術主査  
主任技師

高橋 学 宮崎亮一  
遠藤 藤（編集総括）

【太宰府市】

総括 市長  
庶務 建設部長  
都市整備課長  
景観・歴史のまち推進係々長

井上保廣  
神原 稔  
今村巧児  
城戸康利（文化財課併任）（平成24年6月30日まで）  
中島恒次郎（文化財課併任）（平成24年7月1日から）  
河野貴之  
大塚春菜

主任主査  
主事

【（財）古都太宰府保存協会】

総括 理事長  
庶務 事務局長  
嘱託職員

佐藤壽郎  
重松敏彦（調査総括）  
鶴浜京子 中村由起  
山本典子（調査担当） 星原めぐみ（調査担当）  
猿渡克己 森 靖幸 桑野満典  
高橋史子 田中健一（文化遺産情報整備）  
武石智恵 雨森史枝

本書の作成は、文化遺産調査ボランティアの統括を重松敏彦、山本、星原が行い、収集された文化遺産情報の基礎整理を山本、高橋史子、田中が行いました。その後、文化遺産データベースの追補訂正については、重松ならびに高橋史子、田中での議論をもとに遠藤をはじめとする文化財課で議論を行い、本書掲載の文化遺産情報としました。

本書記載の文化遺産情報は、高橋史子、田中のほか尾花純子、宮崎由季が整備作成し、その他の文章ならびに編集は遠藤が行いました。また、文化遺産情報の整備にあたっては、太宰府市文化ふれあい館学芸、太宰府市市史資料室の協力を得ました。

なお、文化遺産データベース原本である文化遺産情報（文化遺産カード、写真情報など）は、先述したように文化遺産調査ボランティアの統括事務局である（財）古都太宰府保存協会にて保管しています。

2. 文化遺産情報

市内の7つの小学校区を基本とし、小学校区の範囲、町名界、丁目界、さらには所在する文化遺産数などを考慮し、8つの地区に区分しました。また太宰府に関わる文化遺産は、特別史跡・史跡・跡地をはじめ近代初期に周辺各地に避難のため持ち出された太宰府天満宮の仏像など市域の外に広がるものも多々存在しており、本来は太宰府に関わる文化遺産情報としては、これらを含めたものを掲載する必要があります。しかし、市域外の太宰府に関わる文化遺産については、十分整理がしていないこともあり、四王寺山を除いては掲載していません。

文化遺産調査ならびに文化遺産情報に使用している地区区分は次のとおりです。

## a.A地区

市域北東部、大字北谷・内山、そして御笠地区を対象地区とします。なお宝満山に所在する文化遺産については、未収録です。今後収録していきます。

## b.B地区

市域東部の太宰府天満宮を含む地区で、大字太宰府、三条、宰府、連歌屋を包含します。

## c.C地区

市域東部で五条ならびに白川地区を指します。

## d.D地区

市域南東部で、昭和40年代以降に宅地化された地域ですが、昔ながらの景観を留めた場所も残されています。高雄、梅ヶ丘、梅香苑地区を包含します。

## e.E地区

市域北部、水城、国分、吉松地区が包含されます。

## f.F地区

市域中央部北寄り、大宰府行政跡など主要な大宰府関連史跡群を含む地域です。坂本、観世音寺を含み、通古賀、五条地区が僅かに入ります。

## g.G地区

市域中央部南寄り、朱雀、通古賀、都府楼南から主に構成され、坂本ならびに観世音寺が僅かに入ります。

## h.H地区

市域南西部に位置し、吉松を含みつつ、多くは向佐野、大佐野という佐野地区から構成されます。

## i.I地区

特別史跡大野城跡を包含する四王寺山を対象としています。市外(宇美町・大野城市)も含まれます。

## 3.文化遺産調査

平成16年度に策定した『太宰府市文化財保存活用計画』において、市域に点在する文化遺産を、九州芸術工科大学(現九州大学)の協力のもと悉皆調査が実施され、ほぼ5,000件近くの文化遺産に関する情報がデータ化されました。この時の調査は、文化財保護法に規定されない市域に点在する様々な「古そうなモノ」全てを対象に情報収集が行われ、その結果として多様な「記念物」的遺産が拾い集められました。モノだけでなく行為の産物である行事も併せて市史編纂の際収集された情報を基礎に拾い集められました。細部に渡る情報が収集されましたが、ひとつの課題が残されました。それは、文化遺産を見守る行為が生まれなかったことでした。その課題を克服するために、平成20年度から再度開始された文化遺産調査は、①市民ボランティアによって調査者を構成する。②自らが未来の市民に伝えたいモノを調査対象とするという二つの考えを掲げ調査に着手しました。①については、昭和60年に発足した大宰府史跡解説員制度というボランティア活動の原点がある太宰府ゆえに、100名近い参加者を得ることができました。一方、調査対象物については、一部の人間の意図による拘束を避けるため、あえて対象物を与えず、参加者自らが未来の市民に伝えたいモノという漠然とした表現で調査をお願いしました。しかし結果として、不明確な対象物という印象を参画された調査員の方々に抱かせ、調査開始当初は意思の浸透に相当な時間を要してしまいました。時間の経過とともに、調査対象物に関する意図が次第に浸透し、昭和40年代に造成された団地では、文化遺産は無いと困っておられた班で、自治会活動の記録の中に、市民図書館設立の基礎となった出来事が記されたり、日々の散歩道からみる宝満山の「雄姿」を見ることのできる場所が記載されるなど、文化財課職員の狭い技量では計り知れない多種多様なものが集まってきました。

## a.文化遺産調査

平成20年度から市民参画型の文化遺産調査活動は、当初100名近い参加者を得、スタートしました。その後、事務局の説明不足から講義型の文化遺産講座と認識された方々の欠席を招きましたが、平成22年度まで86名の方々が参加していただきました。その後、平成23年度を迎えるにあたり、文化遺産調査の今後のあり方を議論していただいたところ、積極的な継続要望が出され、平成23年度も62名の方々の参加がありました。

文化遺産調査は、ボランティア参加していただいている方々の身近な文化遺産を調べていただくことを目的として、市内在住者の方々は、住んでいる小学校区を調査範囲として活動を御願いしました。市外から参加いただいた方々は、適宜班編制の人数バランスを考慮して各班へ割り振りをを行い参加していただきました。

それぞれの年度ごとの参加者は、以下のとおりです。

## ■文化遺産調査ボランティア参加者【平成22年度 86名】

荒井慶子 飯野昭夫 石川富美江 石黒加枝子 井土善博 稲田和子 井上和代 井上俊子 今泉美子 大浦健児 大河内トシ子 大田和子 大坪久仁子 大場 明 大藪善治 奥野 悠 尾沢 勝 尾仲博子 鬼丸康治 川瀬満知子 川野隆生 神宮祐雄 北原雅子 草場徳生 工藤泰泰 久保田久美子 小沼秀人 近藤佐代子 齋田恒子 齊藤マチ子 齋藤喜徳 佐伯 誠 酒匂輝昌 猿渡節子 清水康子 白石常雄 菅原靖子 杉谷朝雄 関 久江 高木保幸 田島哲生 堤 克哉 寺田七郎 徳光芳文 富田サナエ 富田 進 中西武史 長尾多重子 中澤雄二 中島伊佐子 長野瑞子 中村 昭 中山虎夫 菜畑健治 西岡文敏 西田省三 二宮正美 野中美由喜 萩原圭司 橋口郁朗 八谷知子 濱晋一郎 林きよみ 早瀬ひろ子 姫野英一 深川勝重 深野容子 藤田百合子 藤丸 健 本田 圭 増野芳枝 松尾セイ子 松尾満子 松尾保伸 松岡良一 松田良治 迎 明子 村山哲勇 奎尾幹雄 森田敏博 森山幸美 焼山正憲 矢野文夫 八尋千世 山崎俊治 山田乃ぞみ

## ■文化遺産調査ボランティア参加者【平成23年度 62名】

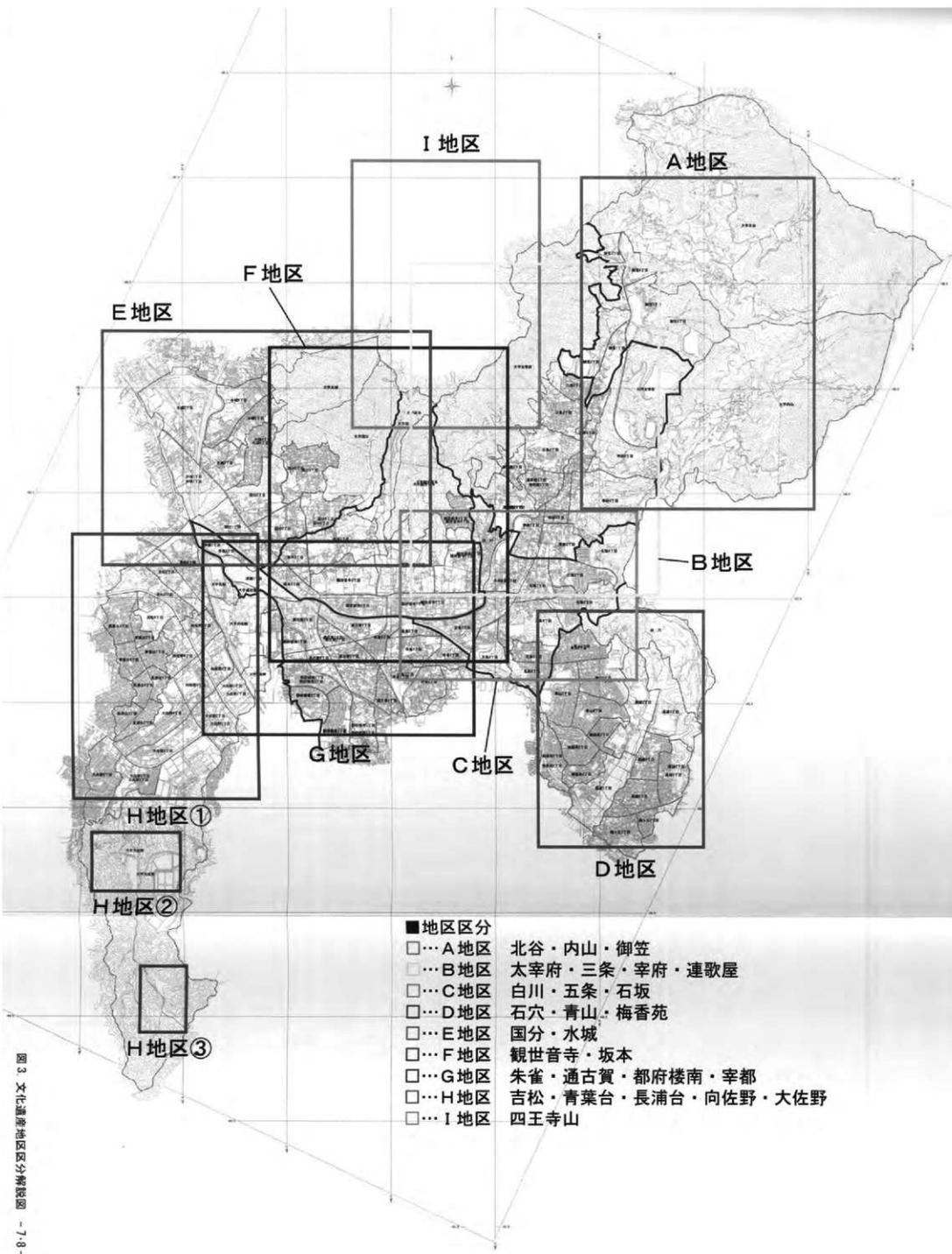
相野久枝 荒井慶子 飯野昭夫 石川富美江 石黒加枝子 井土善博 井上和代 井上俊子 内村桂典 大浦健児 大坪久仁子 大場 明 大藪善治 尾沢 勝 鬼丸康治 川瀬満知子 川野隆生 工藤泰泰 久保田久美子 小沼秀人 近藤佐代子 齋田恒子 佐伯 誠 酒匂輝昌 猿渡節子 白石常雄 杉谷朝雄 岡山真弘 関 久江 田島哲生 堤 克哉 寺田七郎 富田サナエ 富田 進 中西武史 長尾多重子 中澤雄二 長野瑞子 中村 昭 菜畑健治 西岡文敏 西田省三 二宮正美 野中美由喜 橋口郁朗 林きよみ 早瀬ひろ子 姫野英一 深川勝重 深野容子 藤丸 健 本田 圭 増野芳枝 松尾セイ子 松尾満子 松尾保伸 松岡良一 松田良治 村山哲勇 森田敏博 焼山正憲 山崎俊治

## ■文化遺産調査ボランティア参加者【平成24年度 55名】

相野久枝 荒井慶子 荒木治徳 飯野昭夫 石川富美江 石黒加枝子 井土善博 内村桂典 大浦健児 大田和子 大坪久仁子 大場 明 大藪善治 尾沢 勝 鬼丸康治 川瀬満知子 川野隆生 久保田久美子 小沼秀人 齋田恒子 佐伯 誠 酒匂輝昌 猿渡節子 杉谷朝雄 岡山真弘 関 久江 堤 克哉 寺田七郎 富田サナエ 富田 進 中西武史 長野瑞子 中村 昭 菜畑健治 西田省三 二宮正美 野中美由喜 橋口郁朗 林きよみ 早瀬ひろ子 姫野英一 深川勝重 深野容子 藤田百合子 藤丸 健 比田勝スエ子 本田 圭 増野芳枝 松尾満子 松尾保伸 松岡良一 松田良治 村山哲勇 焼山正憲 矢野文夫

#### 4. 文化遺産情報

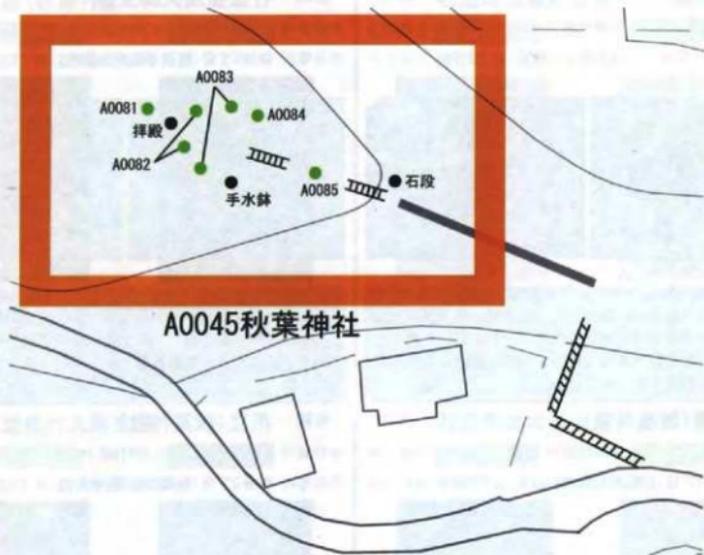




- 地区区分
- A 地区 北谷・内山・御笠
  - B 地区 太宰府・三条・宰府・連歌屋
  - C 地区 白川・五条・石坂
  - D 地区 石穴・青山・梅香苑
  - E 地区 国分・水城
  - F 地区 観世音寺・坂本
  - G 地区 朱雀・通古賀・都府楼南・宰都
  - H 地区 吉松・青葉台・長浦台・向佐野・大佐野
  - I 地区 四王寺山

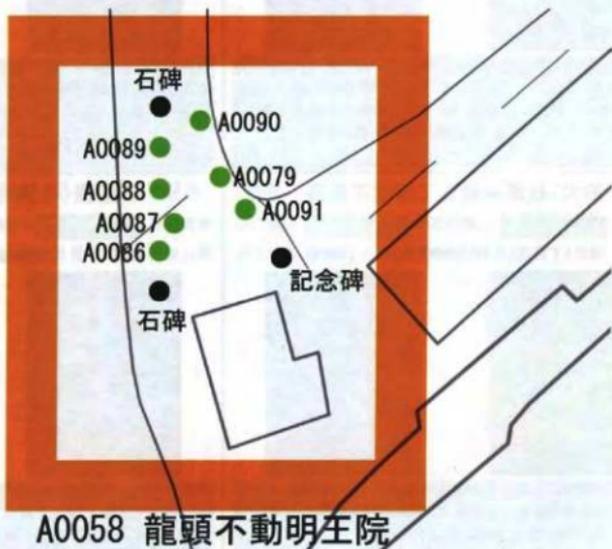
图 3 文化圏地区区分解図 7-8-





A0045秋葉神社

图 4. 秋葉神社境内文化遺產配置圖



A0058 龍頭不動明王院

图 5. 龍頭不動明王院文化遺產配置圖

A 地区 (北谷・内山・御笠)

名称 観音堂

登録番号 A0067 時代区分-

所在場所 内山 本谷



内山区にある間口78cm・奥行53cm程の石祠。像高60cm程の石造観世音菩薩坐像、像高60cm程の石造弘法大師坐像、像高30cm程の首が欠けている石造地藏菩薩立像の三体の石仏が祀られている。また、観音堂のある一帯は、中世に活躍した少弐氏の菩提寺釈迦院跡ともいわれている。

名称 本殿(秋葉神社)

登録番号 A0081 時代区分近世

所在場所 御笠3丁目(秋葉神社境内)



松川(まつごう)の氏神である秋葉神社の本殿。間口96cm、奥行91cm程の石造祠であり、元治2(1865)年4月吉日に建立されたものである。祠内には高さ40cm程の石で作られた火之遊具土神(ひのかぐつちのかみ)が御祭神として祀られている。

名称 狛犬(秋葉神社)

登録番号 A0083 時代区分近代

所在場所 御笠3丁目(秋葉神社境内)



秋葉神社拝殿前に二基一対で位置する高さ58cm程の狛犬。古城戸房吉の古希を記念して昭和12(1937)年4月に奉獻されたもので、世話人6名の氏名も刻まれている。

名称 石造弘法大師坐像

登録番号 A0079 時代区分-

所在場所 御笠5丁目(龍頭不動明王院内)



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある石造の大師像。高さ50cm程で、微笑むかのような穏やかな顔が印象的である。この弘法大師坐像と修行大師立像には帽子が丁寧に被せられており、大切にされている様子がうかがえる。

名称 花立(秋葉神社)

登録番号 A0082 時代区分-

所在場所 御笠3丁目(秋葉神社境内)



秋葉神社拝殿前に二基一対で位置する石造の花立。台までめると高さ76cm程の大きさである。

名称 石燈籠(秋葉神社)

登録番号 A0084 時代区分近世

所在場所 御笠3丁目(秋葉神社境内)



秋葉神社にある高さ145cm・台高50cm程の石燈籠。「永代新燈 宿坊涌盛院 八月吉日 ■■■■■■亦四郎」の銘が刻されており、本来所在していた場所から秋葉神社へ移動してきたものと判明する。また、移動された年代は文化13(1816)年とも言われている。

名称 鳥居(秋葉神社)

登録番号 A0085 時代区分 近世

所在場所 御笠3丁目(秋葉神社境内)



秋葉神社参道にある石造鳥居。明治15(1882)年4月に建立されたもので、製作に携わった石工谷川藤三郎の名が刻まれている。

名称 石造地藏菩薩立像

登録番号 A0086 時代区分 分-

所在場所 御笠5丁目(龍頭不動明王院内)



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある地蔵菩薩立像。像高は52cm程である。

名称 石造修行大師立像

登録番号 A0087 時代区分 分-

所在場所 御笠5丁目(龍頭不動明王院内)



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある修行大師の石仏。像高は103cm程である。この修行大師立像と弘法大師坐像には帽子が丁寧に被せられており、大切にされている様子がうかがえる。

名称 石造釈迦如来坐像

登録番号 A0088 時代区分 分-

所在場所 御笠5丁目(龍頭不動明王院内)



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある釈迦如来の石仏。像高は58cm程である。

名称 石造弘法大師坐像

登録番号 A0089 時代区分 分-

所在場所 御笠5丁目(龍頭不動明王院内)



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある弘法大師坐像。像高は46cm程である。

名称 石造不動明王立像

登録番号 A0090 時代区分 分-

所在場所 御笠5丁目(龍頭不動明王院内)



龍頭不動明王院(松川集会所)の裏庭にある石造不動明王像。像高は110cm程である。

A 地区（北谷・内山・御笠）

名称 石造弘法大師坐像

登録番号 A0091 時代区分-

所在場所 御笠5丁目（龍頭不動明王院内）



龍頭不動明王院（松川集会所）の裏庭にある石造のお大師様。像高は25cm程で、周囲のものより一回り小さめの石像である。

名称 九重原のビューポイント

登録番号 A0092 時代区分

所在場所 大字内山



宝満山裾の九重原に開けている田園風景。田園越しから太宰府市内や脊振山系を望むことができる。

名称 有智山城跡

登録番号 A0093 時代区分 中世

所在場所 内山



宝満山西側山腹にある中世山城跡。鎌倉時代後期に武蔵少弐氏が築いたとされ、『太平記』や『梅松論』には「内山ノ城」とみえる。九重原と呼ばれる地区には、多くの段造成があり、その一面には土塁・空堀・石垣が残る。



秋葉神社



龍頭不動明王院

B地区 (太宰府・三条・宰府・連歌屋)

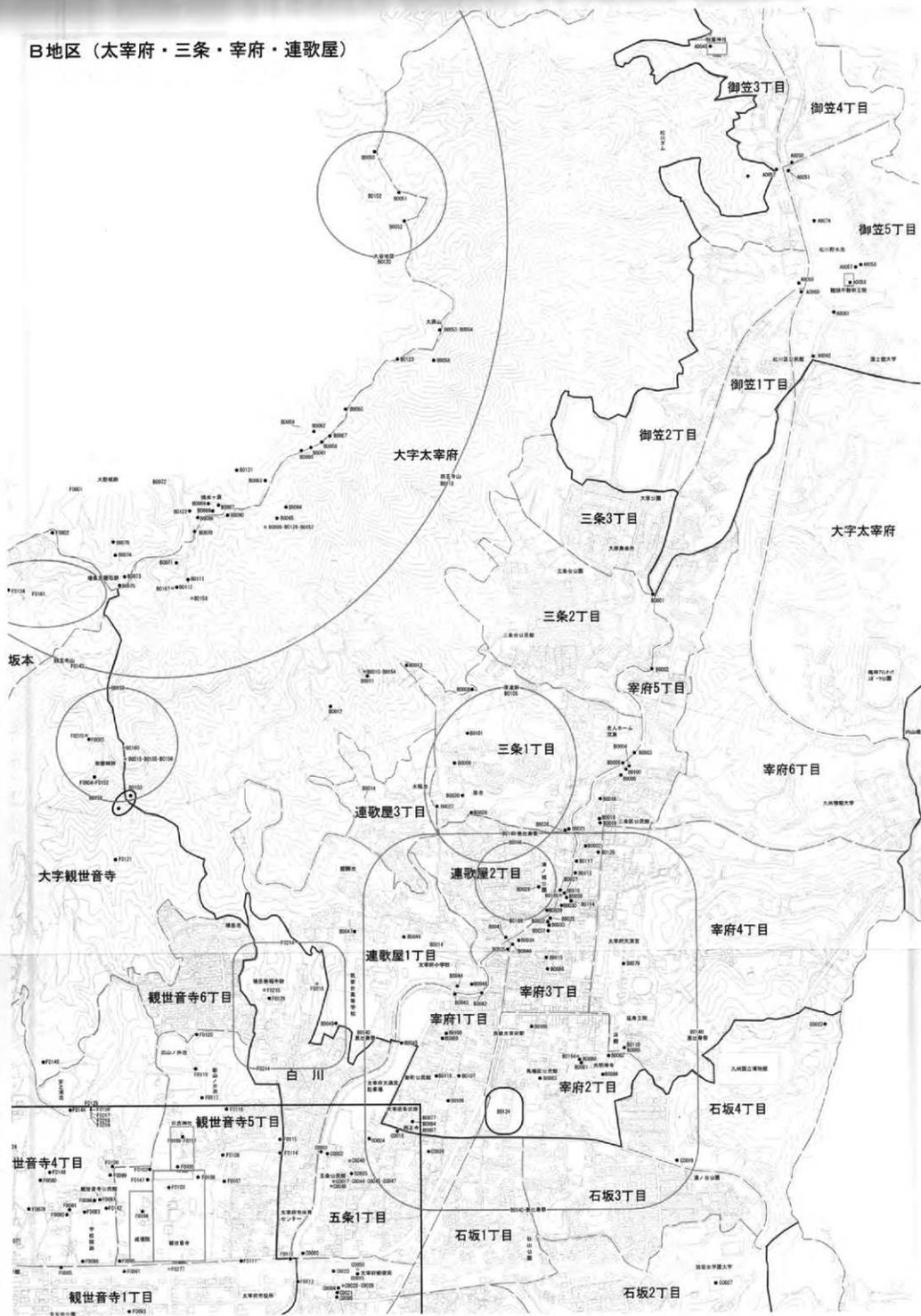


図 6 B地区文化景観位置図 - 15-16 -

## (太宰府・三条・宰府・連歌屋) B 地区

## 名称 恵比寿祭(宰府地区)

登録番号 B0140

時代区分-

所在場所 宰府



天満宮の門前町として栄えた大町(三条・連歌屋・馬場・大町・新町・玉糸)では生業を守り財福をもたらす神様として恵比寿が多く祀られている。宰府地区では商売繁盛を願い毎年12月3日の早朝から祭祀・参拝客への接待が行われる。前日の2日夜に小島居小路の恵比寿では、宵恵比寿が行われている。

## 名称 四王寺山のビューポイント 4

登録番号 B0155

時代区分現代

所在場所 太宰府(四王寺山 岩屋城本丸跡)



遠く正南面には基山、西に青板山、東に宝満山、それらの山並みを背景に左から水瓶山・太宰府天満宮の森・九州国立博物館・学園都市太宰府を象徴する校舎・観世音寺・大宰府政庁跡・水城跡等太宰府が一望出来るビューポイント。政庁跡の三本の石碑もはっきりと見ることが出来る絶景地点である。

## 名称 由来不詳の石造遺物(3)

登録番号 B0157

時代区分-

所在場所 太宰府(四王寺山)



四王寺山三十三石仏4番札所前にある石造遺物。人工的に加工された半円状のクサビ跡が残っており、何らかの用途に用いられたものと思われる。

## 名称 法華曼荼羅板碑

登録番号 B0154

時代区分中世

所在場所 太宰府(水瓶山)



水瓶山山頂に位置する高さ1.6m程の花崗岩製の板碑。判読困難な部分があるが、正面上部の方形枠内に梵字による法華曼荼羅が彫られている。下部には南朝方の年号「正平八癸巳七月」があり、正平8(1353)年に建立されたことが分かる。

## 名称 岩屋城址の碑 岩屋城合戦 關連石造物 4

登録番号 B0156

時代区分現代

所在場所 太宰府(四王寺山 岩屋城本丸跡)



岩屋城合戦戦死者の子孫である粕屋郡の關治良吉が、昭和30(1955)年に本丸跡に建立した石碑。表面には「嗚呼壯烈 岩屋城址」、裏面には「昭和三十歳乙未仲秋 關治良吉萬種謹書」の銘がある。平成17(2005)年の福岡西方沖地震で土台が不安定になった為、土台のみ組み直されている。

## 名称 水ハコビミチ・太宰府町道

登録番号 B0158

時代区分-

所在場所 太宰府(四王寺山)



「大野城太宰府旧蹟全図北」では太宰府口城門から真直ぐに下る道を「水ハコビミチ」と記す。明治期以降は「太宰府町道」として四王寺山における幹線道路であった道である。かつては「水手」の水を要所に運ぶために利用されたことにより、このように称されていたのではないかと考えられる。



B 地区（太宰府・三条・宰府・連歌屋）

名称 **コクウゾウノダイ**

登録番号 **B0159** 時代区分-

所在場所 **太宰府（四王寺山）**



「大野城太宰府田蹟全図北」では、岩屋城本丸跡から二ノ丸跡付近を「コクウゾウノダイ」と記す。岩屋城に関する古絵図等では、二ノ丸跡の上方や大手門付近などに「虚空臺」があったとする。また『福岡県地理全誌』では二ノ丸に虚空臺があり堂内の仏像は後に原八坊の六度寺に移されたという。

名称 **藍染川梅壺侍従誕生之碑**（あいでのめがわらむつぼにじゆうそせいのおひし）

登録番号 **B0164** 時代区分-

所在場所 **宰府2丁目**



光明寺の前を流れる藍染川のほとりに建立されている自然石の石碑。中務頼澄と梅壺との恋愛恋話に因むもので、頼澄の妻の対応に悲願して藍染川に身を投げた梅壺を見て、頼澄は梅壺が息をふきかえすよう一心に天満天神へ祈ると、天神様が現れて梅壺は無事に息をふきかえしたといわれている。

名称 **浦ノ城跡**

登録番号 **B0165** 時代区分 中世

所在場所 **連歌屋2丁目**



筑前国の守護であった少弐氏の居城と伝えられる城跡。構造の詳細は不明であるが、昭和44(1969)年、開発に伴う発掘調査が行われ、コの字形の急斜面を持つ丘陵と御笠川を巧みに利用して築城されていたことが判明した。現在、跡地には連歌屋地区の町並みが広がり、公園等が整備されている。

名称 **岩屋山**

登録番号 **B0160** 時代区分-

所在場所 **太宰府（四王寺山中腹）**



岩屋山は大野山中腹に位置する高さ281mの花崗岩質の山で、中世には山全体に岩屋城が築かれた。山頂は岩屋城本跡で、眼下に大宰府政庁跡や観世音寺の史跡をはじめ、筑平野一帯を見渡せる絶景地点である。

名称 **岩淵**

登録番号 **B0165** 時代区分-

所在場所 **宰府3丁目・宰府5丁目**



天満宮の北西、御笠川に岩踏橋が架かる所を通称岩淵という。昔はこの辺りの兩岸に大岩があり、溪水の走り流れる景勝地として有名であった。『筑前国統風土記』では名所とされており、太宰府参詣に訪れた長崎奉行や日田郡代など多くの人が立ち寄った記録が残る由緒ある地である。

名称 **石こづんばば伝説地**

登録番号 **B0167** 時代区分 中世

所在場所 **四王寺山**



天正14(1586)年、高橋紹運が籠る岩屋城が攻められた際、黒津勢は星の欲深い老婆に金を与えて案内させ、城の大手を斬り切った。合戦後、里の人々は裏切り者の老婆を捕え、石を積み重ねて生き埋めにしたという伝承がある。大野城太宰府口城門跡そばの小高い箇所がその場所だという。

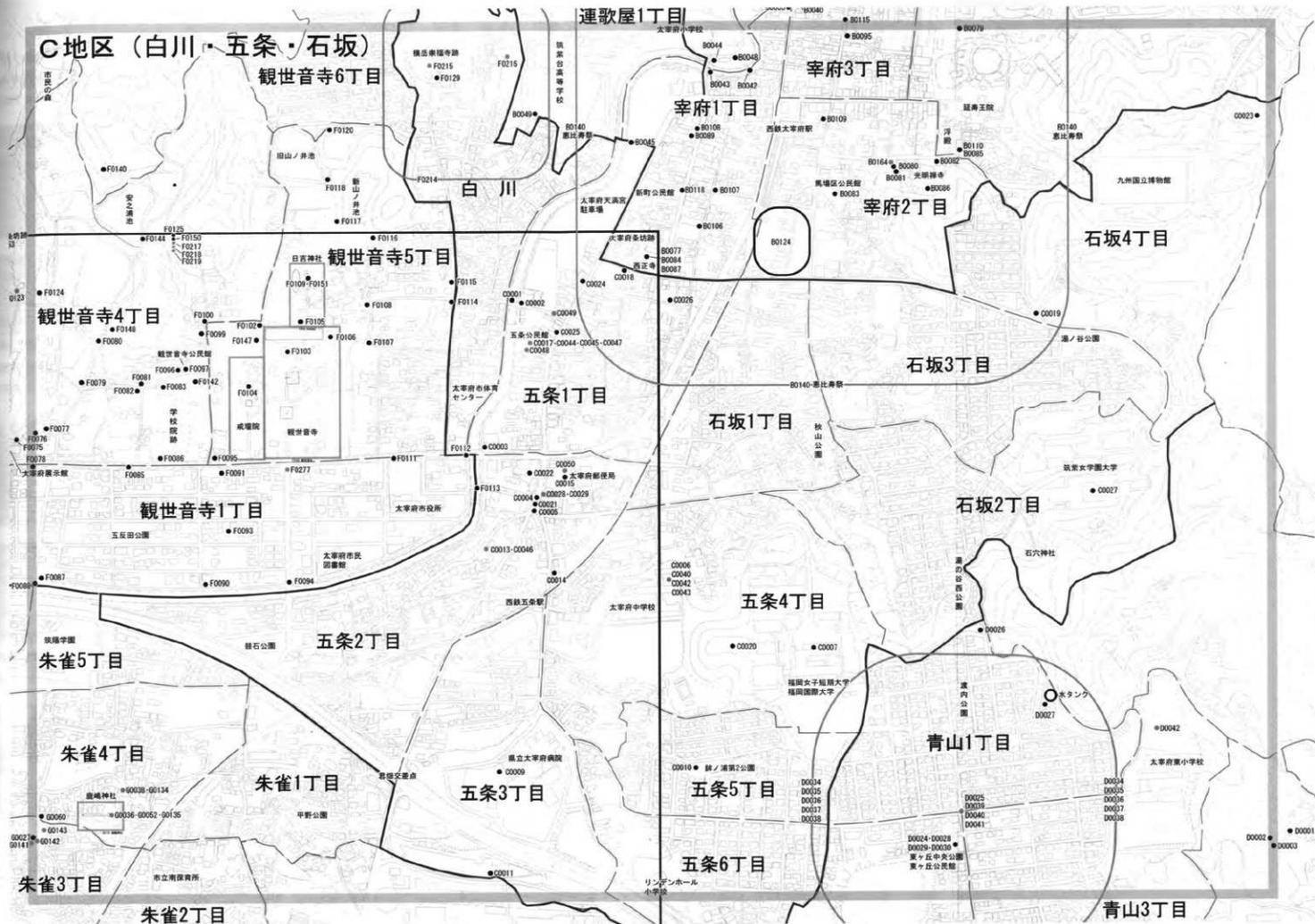


図7. C地区文化遺産位置図 - 19-20 -

名称 庚申天

登録番号 00028 時代区分 近世

所在場所 五条2丁目



五条溝口跡、五条小橋のたもとに板碑と共に所在する庚申天。江戸時代の天明元(1781)年に吉塚喜四郎・吉塚喜助らが地主となって建立されたもので、表面には大きく「庚申天」と刻まれている。平成14(2002)年、ビル建設に伴って現在地へと移設されている。

名称 薬師堂

登録番号 00040 時代区分-

所在場所 五条4丁目(太宰府中学校内)



太宰府中学校敷地内の中庭にある薬師堂。塚の上に生える大杉の根元に位置しており、ブロック造りの御堂内には50cm程の石造薬師如来像が祀られている。

名称 古川家発祥の地碑

登録番号 00043 時代区分-

所在場所 五条4丁目(太宰府中学校内)



太宰府中学校敷地内に所在する、中世太宰府の六座や金掛の地の幸徳で知られる五条古川家発祥の地を記念した石碑。石碑には明治・大正時代に太宰府町長を務めた古川勝臣の記名が刻まれている。

名称 文明拾八年銘梵字板碑

登録番号 00029 時代区分 中世

所在場所 五条2丁目



五条溝口跡に所在する花崗岩製の板碑。上面が欠損しているが残存高1.06m、最大幅0.74m、奥行0.19mの大きさで、前面に月輪と種子(ウーン)が彫刻されている。3行にわたって彫られている銘は風化などにより読みづらい部分があるが、文明18(1486)年に建立されたものであることが分かる。

名称 五穀神

登録番号 00042 時代区分-

所在場所 五条4丁目(太宰府中学校内)



太宰府中学校敷地内にある五穀神。昭和12・13年頃までは地区の祭礼として、お籠りや子供相撲が行われていたと伝えられている。

名称 大師堂

登録番号 00044 時代区分-

所在場所 五条1丁目(五条公民館)



五条公民館入口の脇に所在する御堂。堂内には中央と右手に石造弘法大師像、左手に板碑が祀られている。中央の大師像台石には銘が残っており、明治18(1885)年11月10日に建立されたことが分かる。また、左手の板碑は小像が共に祀られており、台石には梵字らしきものも確認される。

C地区(白川・五条・石坂)

名称 旗立石

登録番号 00045 時代区分-

所在場所 五条1丁目(五条公民館)



五条公民館の入口付近、公民館建設記念碑や力石と並ぶように所在する旗立石。公民館入口側の表面には大きく「當組合中」の銘が彫られ、裏面には「従是右 博多ふくをか 道」と残されている。

名称 五条公民館建設記念碑

登録番号 00047 時代区分現代

所在場所 五条1丁目(五条公民館)

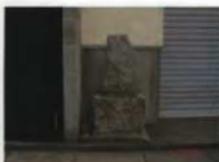


五条公民館の入口付近に旗立石や力石と並ぶように所在する石碑。五条公民館の建設を記念して建立されたもので、公民館入口側の表面には「五条公民館建設記念」、裏側には「昭和四十四年五月吉日 五条区 森林組合」の銘が彫られている。

名称 石碑

登録番号 00049 時代区分-

所在場所 五条1丁目



白川地区から白川橋を渡り、五条1丁目へと東進する小道沿いにある石碑。由来など詳細は不明である。

名称 血方持(ちけもち)さまのエノキ

登録番号 00046 時代区分-

所在場所 五条2丁目



神幸祭の行列が通るどんかん道沿いにある榎の大木で、樹高13.25m・幹周り3.4mある。根元には婦人病に靈験あらたかであるという血方持姫音が彫られている。

名称 土地寄贈碑

登録番号 00048 時代区分現代

所在場所 五条1丁目(五条公民館)



五条公民館の敷地内に所在する石碑。表側には「寄贈 土二十一平方米 吉塚勇敏」、裏側には「昭和四十四年五月 五条 寄贈者の往来を承認」とあり、公民館建設に際して地を寄贈された事と隣接する寄贈者宅への往来を承認する旨が記されている。

名称 歌碑(三条実美)

登録番号 00050 時代区分近世

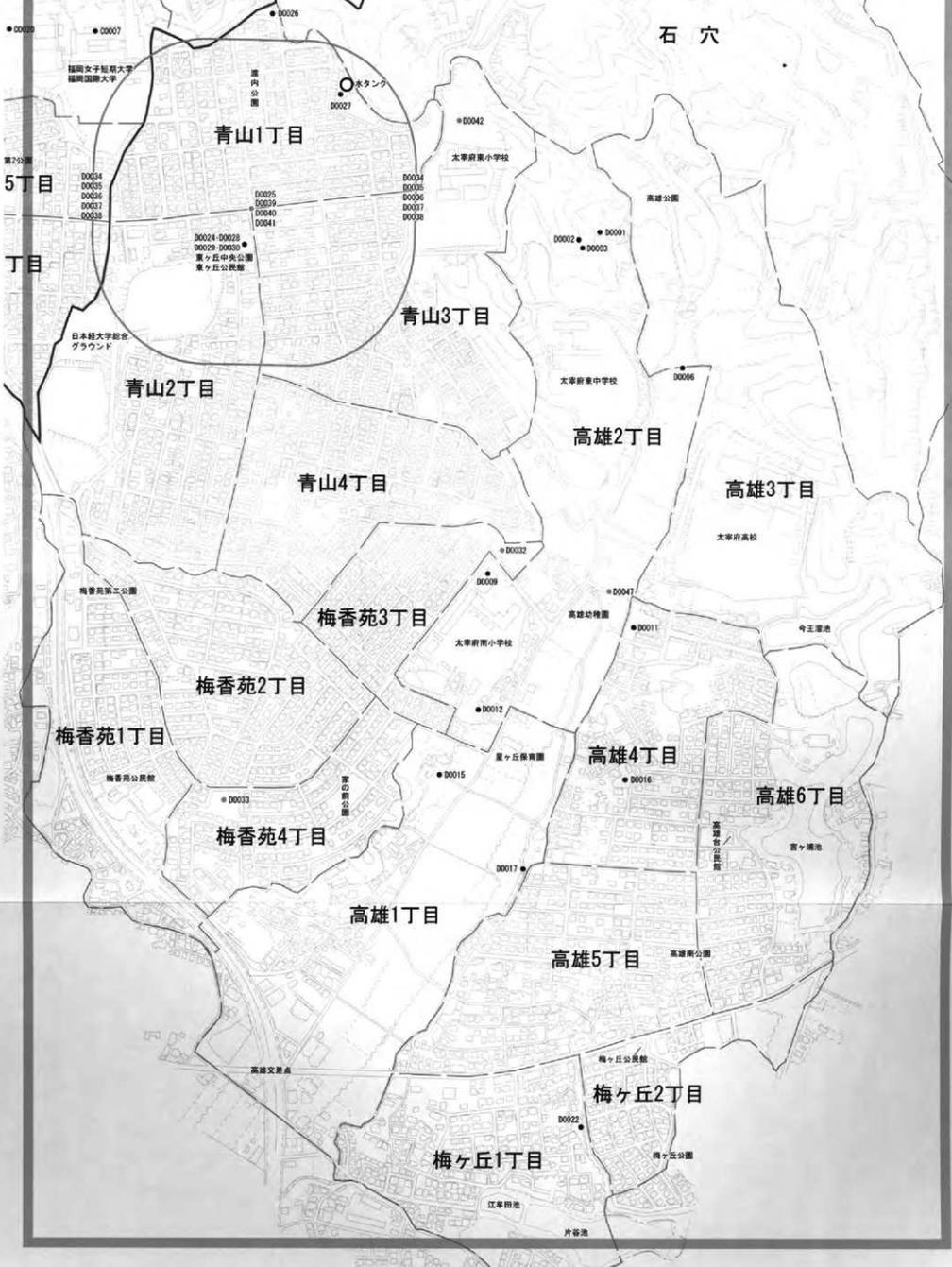
所在場所 五条2丁目



金掛天満宮境内にある歌碑。三条実美は幕末に活躍した公卿で、京都より都落ちし太宰府延寿王院に逗留していた際に、金掛梅の伝承をもつ古川家を訪れ、「梅ヶ枝にかかる黄金花もまた 根にかへりてや咲き出づらん」と詠んだ。

D地区 (石穴・青山・梅香苑)

五条4丁目



名称 緑台区の年中行事

登録番号 D0032 時代区分 現代

所在場所 梅香苑3丁目



緑台区は住民増加により昭和54(1979)年度に高雄区から分離して発足した区。住民の親睦を図るために8月に夕涼み会を開催したが、地域での行事開催のきっかけであった。以来、どんど焼き・花見・七夕会・夕涼み会・敬老会・運動会などの年中行事が住民の多くの参加で盛況に行われている。

名称 ひまわり会(東ヶ丘区)

登録番号 D0034 時代区分 現代

所在場所 青山2丁目(東ヶ丘公民館)



ひまわり会は各地で福祉活動を行うボランティア団体の名称で、その名前発祥の地は東ヶ丘である。平成3年夏に自主活動として発足以来、施設見学・老人会との交流・老人介護の学習・見舞いのお手伝い等と活動の輪を広げていき、現在も高齢者が住みやすい町である為のお手伝いを行っている。

名称 敬老会(東ヶ丘区)

登録番号 D0036 時代区分 現代

所在場所 青山2丁目(東ヶ丘公民館)



昭和54(1979)年1月の東ヶ丘公民館完成までは、7組(青山1丁目)の杉の木で開催されていた。その後、運営や制度が整えられと共に祝宴内容も充実し、最近では東ヶ丘の有志劇団による寸劇やフラダンス・ひょうとこ踊りなど盛り沢山となり、招待される高齢者の方にも楽しい集いとなっている。

名称 梅香苑区の夏祭り

登録番号 D0033 時代区分 現代

所在場所 梅香苑4丁目梅香苑第一公園



昭和50(1975)年頃から毎年8月に盆踊りが実施されるようになり、現在も区が主体となり「夏祭り」大会として区内の公園で行われている。基には「子供みこし」が区内をねり歩き、梅香苑区の文化部をはじめとした各部による出店も行われるなど、賑やかに開催されている。

名称 育成会・子供会(東ヶ丘区)

登録番号 D0035 時代区分 現代

所在場所 青山2丁目(東ヶ丘公民館)



昭和51(1976)年に太宰府町子供会連合会が発足、同年に東ヶ丘区でも子供会に入っている子供達の親の会「育成会」が発足。毎年6年生の親が全員参加で子供達の健全な育成のために1年間の計画を立て、様々な行事を実施している。発足以来、途切れる事なく受け継がれている大事な活動である。

名称 区民旅行(東ヶ丘区)

登録番号 D0037 時代区分 現代

所在場所 青山2丁目(東ヶ丘公民館)



平成2(1990)年6月から平成5(1993)年3月まで、東ヶ丘区は市から貯蓄生活推進地区に推薦され普及地区としての委託を受けた。その中でひまわり会の発足と共に、区民旅行の開始が大きな成果であり、友好都市である大分県耶麻溪町への表敬訪問など、各地への研修旅行が現在まで行われている。

D地区(石穴・青山・梅香苑)

名称 団地バス(東ヶ丘区)

登録番号 D0038 時代区分 現代

所在場所 五条・青山など



誘致当初は狭い道路幅や採算性の問題でなかなか折り返いがつかなかったが、最終的には当時の太宰府市長が西鉄本社との交渉に働きかけ、昭和58(1983)年7月に開通した。当初の運行は五条から梅香苑までであったが、現在(平成24年)は二日市まで延長され多くの住民や学生に利用されている。

名称 青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色

登録番号 D0040 時代区分 現代

所在場所 青山通り・東ヶ丘通り 交差点



青山通りと東ヶ丘通りの交差点は、東ヶ丘地区の中心点である。交差点から西へは、坂の町に相応しい急な下り坂が続いている。住民は五条地区に出かけ、銀行・薬局・買い物等の日常の用事を済ませた後、今度は急な坂を登らねばならず大変であった。バスの開通で負担が減り、行き来が楽になった。

名称 どんと焼き(東ヶ丘区)

登録番号 D0042 時代区分 現代

所在場所 青山3丁目 太宰府東小学校横広場



東ヶ丘区では平成3(1991)年1月16日に初めてどんと焼きを開催。当初は東ヶ丘公園で行っていたが、後に安全のため小学校横の広場へと移った。育成会・子供会を中心に、役員・有志が全員一致団結して準備を行い、当日はぜんざいを振る舞うなど、正月の一大イベントとして盛大に行われている。

名称 青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色

登録番号 D0039 時代区分 現代

所在場所 青山通り・東ヶ丘通り 交差点



青山通りと東ヶ丘通りの交差点は、東ヶ丘地区の中心点である。交差点から南に向かうと区唯一の商店や郵便局・中央公園・公民館等があり、人の集まる通りである。

名称 青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色

登録番号 D0041 時代区分 現代

所在場所 青山通り・東ヶ丘通り 交差点



青山通りと東ヶ丘通りの交差点は、東ヶ丘地区の中心点である。交差点から北へ向かうと静かな住宅が広がっており、この一帯が東ヶ丘で最初に住宅街を形成した場所である。奥に見える山は四王寺山である。

名称 宝満山を眺めるビューポイント

登録番号 D0047 時代区分 -

所在場所 高雄2丁目



高雄から眺める宝満山は大変美しく、神奈備山形のきれいな稜線は市内の他の場所から眺めるのとはまた違った趣である。四季折々に美しさがあるが、初夏の頃、田植えのために水が張られると水面に宝満山が映りこみ、素晴らしい情景が映し出される。







**E0026 老松神社**

图 10. 老松神社境内文化遺產配置圖



**E0050 衣掛天満宮**

图 11. 衣掛天満宮境内文化遺產配置圖

E 地区 (国分・水城)

名称 国分寺東側境界線の小道

登録番号 E0094 時代区分一

所在場所 国分4丁目



筑前国分寺跡周辺は古い地形がそのまま残っている場所が多い。この小道は国分寺跡東側を南北に走る道で、往時の面影を偲ばせる旧道である。道に沿って数度の発掘調査(筑前国分寺跡第14次・23次・28次辻遺跡第2次調査)が行われており、国分寺外郭線に関連する溝跡や櫓列の跡が確認されている。

名称 筑前国分寺跡

登録番号 E0195 時代区分古代

所在場所 国分4丁目



奈良時代に聖武天皇の発願で諸国に建立された国分寺のひとつである筑前国分寺は、その重要性から大正11(1922)年10月12日に国史跡に指定された。幾度も行われた発掘調査では、七重塔基壇・講堂・回廊等の建物跡が判明しており、金堂・中門等の跡も確認されている。

名称 祭事(国分天満宮)

登録番号 E0197 時代区分一

所在場所 国分4丁目



国分天満宮の年中行事・祭事は氏子によって執り行われている。氏子組織は5軒から7軒で構成される組が5組あり、この5組で当番を持ち回りにして春籠り・夏祭り・宮座・初詣などの行事が行われている。

名称 小夜神(賽神)の手洗鉢

登録番号 E0183 時代区分近代

所在場所 水城1丁目 賽の神祠横



賽の神祠の傍らに所在する手洗鉢。大正4(1915)年に寄進されたもので、側面には磨耗して判別しづらいが寄進者の名前が彫られている。

名称 西ノ池の景観

登録番号 E0196 時代区分一

所在場所 国分5丁目



西ノ池からの眺望は国分區を一望出来るもので、国分區に在る昔の風情を垣間見ることが出来る。また、湖畔にはクスノキの大木をはじめ豊かな自然が広がっており、散策コースとして地域の人々に愛されている。

名称 伝薬師如来坐像(国分密寺)

登録番号 E0198 時代区分古代

所在場所 国分4丁目 龍蔵光山筑前国分密寺本堂



筑前国分密寺に安置されている本尊。像名は諸説あるが、ここでは奈良時代の名僧行基作の薬師如来として信仰されている。高さ212cm程の大柄な像で、肩幅が広く、顔立ちがふっくらとしており静かな表情を表している。国指定重要文化財。

## 名称 水城東門跡

登録番号 E0199 時代区分 古代

所在場所 国分2丁目



古くは664年に築造された水城の東門跡。現在も水城3丁目交差点のそばに門の礎石が残されている。東門から出る道は西海道の幹線道で、井相田遺跡や板付遺跡を経て博多遺跡群に至るルートであった。現在は県道112号線が通っており平坦だが、明治期には東門付近はやや坂道であったという。

## 名称 祭事(衣掛天満宮・衣挂天神)

登録番号 E0201 時代区分 -

所在場所 国分2丁目(衣掛天満宮・衣挂天神)



衣掛天満宮の大祭は10月第3日曜日に行われる宮座である。その他、孝籠り・夏籠り・およど・秋籠り・千灯明・お注連縄打ちなど氏子のみで執り行われている祭事や、古都の光・焼納殿などの行事が行われている。平成23(2011)年度は、19軒で構成される氏子によって運営されていた。

## 名称 旧小字標石 衣掛(きぬかけ)

登録番号 E0204 時代区分 -

所在場所 国分2丁目(衣掛天満宮・衣挂天神境内)



四王山南西麓に位置する国分の旧小字名。地名は、大宰府に渡された菅原道真が長旅の末ようやく水城に到着し、大宰府に入る前に旅衣を脱いで傍らの松もしくは石に掛け、新しい衣に着替えた場所であることに由来するという。現在、衣掛天満宮入口に旧小字を記した石標が建立されている。

## 名称 花立(衣掛天満宮・衣挂天神)

登録番号 E0200 時代区分 -

所在場所 国分2丁目(衣掛天満宮・衣挂天神境内)



衣掛天満宮(衣挂天神)の本殿脇に所在する二基一対の石造花立。表面には「献」の銘が残されている。

## 名称 宮座記録(衣掛天満宮・衣挂天神)

登録番号 E0202 時代区分 近世

所在場所 国分2丁目(衣掛天満宮・衣挂天神)



宮座は年に一度行われる神事であり、氏子の總會の意味を持つ行事。現在は、氏子總會、神事、奉納、御神酒、謡曲、会食という流れで行われている。お供え・料理・持ち回りの道具などについて記載してある記録が、宮座帳として昭和30(1955)年から代々受け継がれている。

## 名称 水城

登録番号 E0205 時代区分 -

所在場所 水城1丁目～6丁目・大字水城



四王山南西麓に位置し、水城跡に由来する地名。古くは「水木」「見木」とも書いた。江戸時代は福岡藩領に属しており、明治22(1889)年に周辺9か村が合併し水城村が成立。昭和30(1955)年に太宰府町と合併し現在に至る。

E 地区 (国分・水城)

名称 恵比寿神

登録番号 E0206

時代区分-

所在場所 国分2丁目(衣掛天満宮・衣柱天神境内)



衣掛天満宮境内に祀ってある、高さ135cmほどの恵比寿神。江戸時代後期の弘化4(1847)年11月に建立されたものである。平成23(2011)年に、氏子によって恵比寿神のための覆屋が設けられている。

名称 拝殿(老松神社)

登録番号 E0208

時代区分 現代

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



太宰府市水城1丁目にある老松神社の拝殿。昭和47(1972)年10月に建立されたものである。

名称 宮座(老松神社)

登録番号 E0210

時代区分-

所在場所 水城1丁目(老松神社)



宮座は毎年10月16日と決まっており、当日は幟を立てる。宮座は氏子による当番制で行われており、開催に先立って10月1日に御注連打ちを行っている。宮司によって神事が執り行われた後、お茶事・巫事・当流し等のしきたりを経て直会が行われている。

名称 本殿(老松神社)

登録番号 E0207

時代区分 近世

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



老松神社の本殿は高さ2m程の石垣積基壇上に、ほぼ東北向きに建てられている。背面壁板には陰刻が残されており、慶応(1867)年4月に石殿が造立された事や、国分村の石工吉田弥と芦屋次一郎が造立に携わったことが分かる。

名称 宮座記録(老松神社)

登録番号 E0209

時代区分 近世

所在場所 水城1丁目(老松神社)



水城村の氏神である老松宮の宮座の記録は、天明3(1783)年、明治44年、大正5年、昭和4年、昭和7年、昭和23年と改正されるごとに帳面が改められ、その間の年ごとの当番などが記されている。今日まで連続とした記録が残されており、宮座の変遷を知ることができる貴重な資料である。

名称 成屋形古墳

登録番号 E0211

時代区分 原塚

所在場所 水城2丁目



四王寺山から派生する丘陵群先端部に位置する古墳。昭和5(1930)年より数回調査され、平成7(1995)年に九州自動車道太宰府IC拡張工事のため本格的な調査が行われた。その結果、5世紀の築造と推定される2段築成の帆立貝式前方後円墳である事が判明し、円筒埴輪等の出土品が確認されている。

名称 成屋形遺跡出土箱式石棺

登録番号 E0212 時代区分 原始

所在場所 園分4丁目(文化ふれあい館)



箱式石棺は弥生～古墳時代に用いられた墓の1つで、石を並べて小部屋を作り、その中に遺体を埋葬し複数の石で蓋をしたもの。成屋形遺跡から発掘後、福岡市立三宅中学校校庭に移設復元され、昭和63(1988)年に佐野発掘事務所へ移設。現在は文化ふれあい館に移設復元されて展示されている。

名称 御神井碑

登録番号 E0213 時代区分 近代

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



水城の老松神社には手水鉢が3か所に設けられているが、そばにある手水鉢の脇にこの石碑は建立されている。表面は「奉獻 御神井 昭和七年十月吉日 菊池善七 花田繁 花田輔吉」とあり、昭和7(1932)年10月に建立されたこととなる。

名称 水神

登録番号 E0214 時代区分 ー

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



水城の老松神社には手水鉢が3ヶ所に設けられているが、拝殿そばにある手水鉢の脇にこの石碑は建立されている。高さは約100cm程で、表面には「水神」の銘がある。

名称 猿田彦大神

登録番号 E0215 時代区分 ー

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



水城の老松神社境内で祀られているもので、高さは約100cm程。碑には北側面に「猿田彦大神」、南側面に「庚申天」と銘があり、両者が合わさった庚申信仰の様子がうかがえる。

名称 遙拝所碑

登録番号 E0216 時代区分 近代

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



水城の老松神社境内に祀られている石碑。碑面には大きく「遙拝所」と、「明治九年丙子八月建立 水城村」の銘があり、明治19(1886)年8月に水城村の人々による建立と分かる。地元では遥山の遙拝所と言われている。

名称 観音堂

登録番号 E0217 時代区分 ー

所在場所 水城1丁目(老松神社境内)



水城の老松神社境内に位置する観音堂。間口145cm・奥行190cmの御堂内には高さ60cm程の石造観世音菩薩立像が祀られている。また、観音堂は西国第三十番札所になっており、堂内は札所を示す木札が掲げられている。

更新情報

名称 大宰府正門礎石(朱雀門礎石)

登録番号 F0063 時代区分 古代

所在場所 観世音寺2丁目



昭和57(1982)年、政庁正面付近の御笠川改修工事により発見された礎石。大きさは2.42m×1.82mで、上面に径66cmの円形柱座を造り出す。重さが約7.5トンあるこの巨石は、その出土地から、大宰府政庁朱雀門の礎石であると考えられる。



朱雀門礎石の移転

平成24年11月2日、これまで大宰府政庁跡前の広場一角の植え込みに置かれていた礎石が、昭和57年の発見地に近い朱雀大橋北側の市有地に移されました。



礎石移設作業のようす

大型クレーンで吊り上げ、トレーラーに乗せて移動しました。

このとき、礎石の重さが約7.5tであることが判明しました。



F地区(観世音寺・坂本)

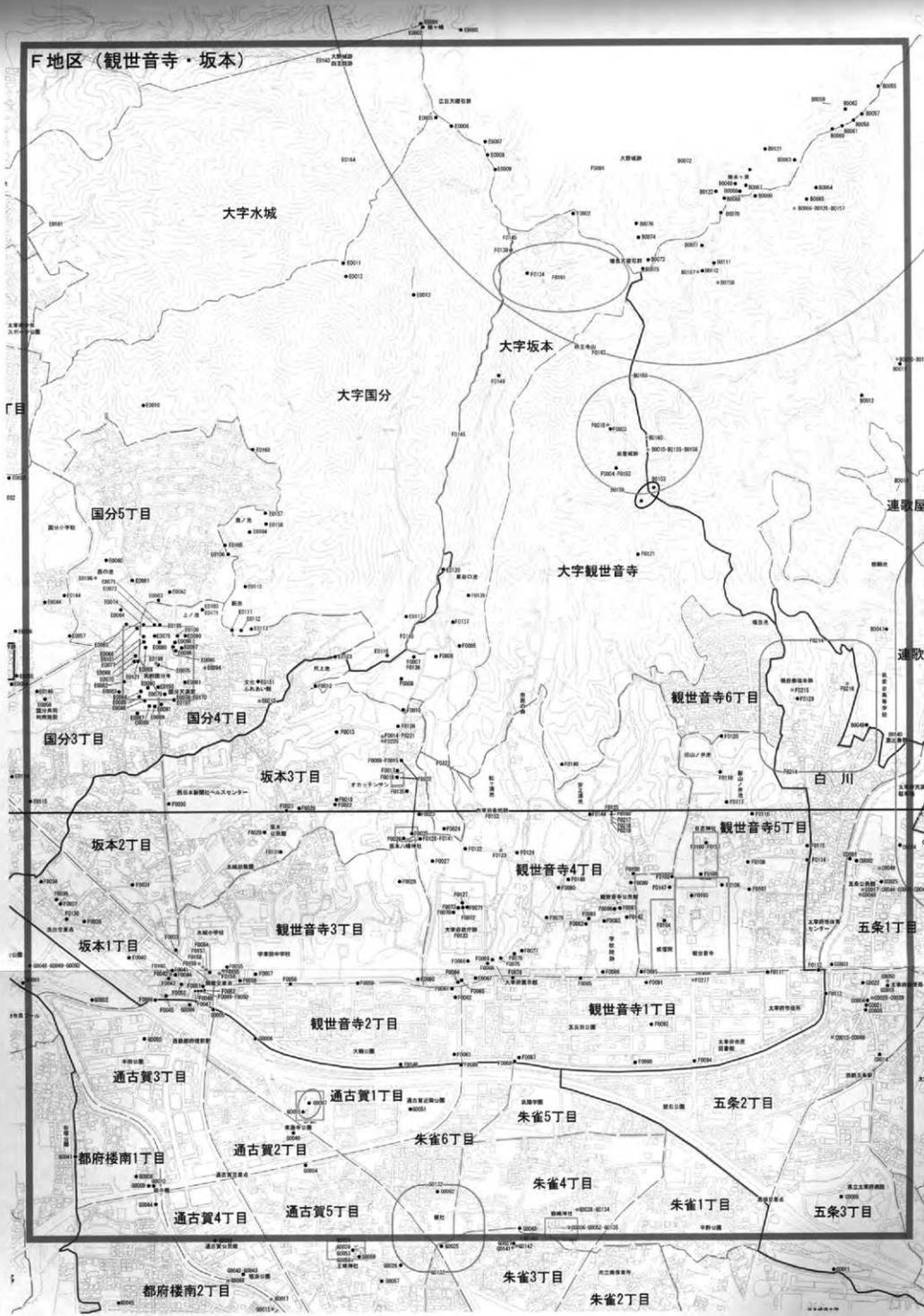


図12 F地区文化遺産位置図



図 13. オカッテンサン文化遺産配置図

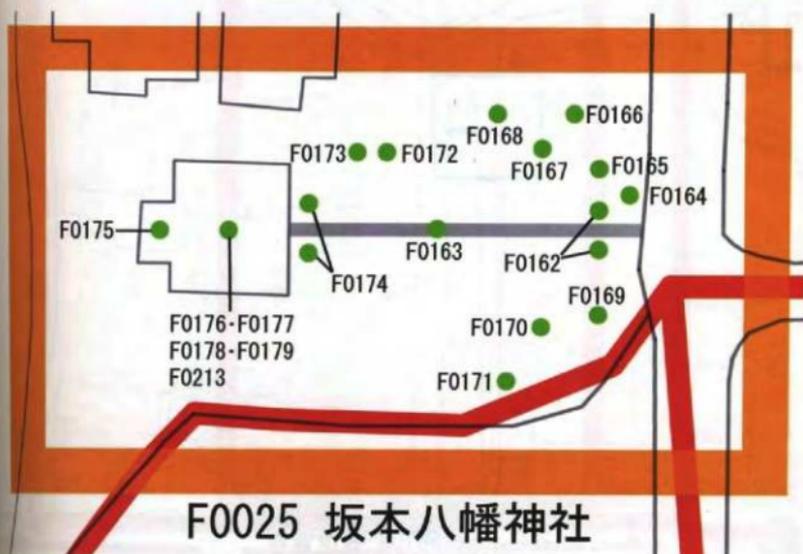


図 14. 坂本八幡神社境内文化遺産配置図







图 16. 戒壇院境内文化遺産配置図

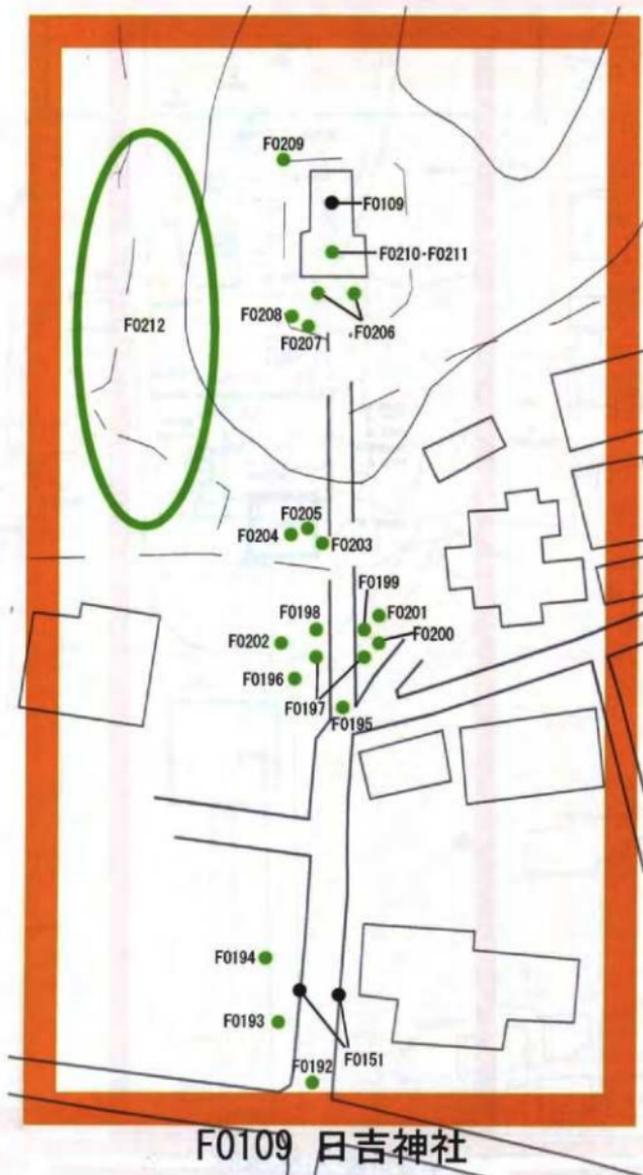


図 17. 日吉神社境内文化遺産配置図

## 名称 旧小字樺石 松ヶ浦(まつがうら)

登録番号 F0123

時代区分 現代

所在場所 観世音寺4丁目



太宰府市が平成5年(1993)8月に建立した、旧小字を示す石碑のつ。現在も池の名前などに「松ヶ浦」の名が残っている。地名の由来については詳細不明である。

## 名称 サカモト道・車道

登録番号 F0145

時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)・板本地区



板本から四王寺山へ登る道として古来より利用されてきた。「大野城太宰府旧蹟全図北」では「サカモト道」と記され、「此スジ昔ノ大道也」と注記がある。太宰府が盛んな頃、府官や備後が車に駕して往来したため「車道(くるまみち)」と付けられたという伝承があり、現在も通称、車道と呼ばれている。

## 名称 小学校移転記念碑

登録番号 F0155

時代区分 近代

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校校庭)



水城小学校移転を記念して大正3(1914)年に建立された石碑。水城尋常小学校の校地校舎の増築計画に際して、多くの人々の寄付により実施出来た事を記念して水城村が建立したもので、台座には水城村長をはじめ、助役、学務委員、議員、書記、区長、使丁など功労者29名の氏名が刻まれている。

## 名称 小学校設備費寄付者芳名碑

登録番号 F0156

時代区分 近代

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校校庭)



水城小学校の設備に対する寄付者名と金額を書いた石碑。昭和3(1928)年7月に建立されたもので、高さ3m以上の大きな石の裏面には数多くの氏名が書かれている。題字は春日日出で日清戦争・日露戦争に従軍し活躍した陸軍中将白水淡によるもの。

## 名称 頌徳碑

登録番号 F0157

時代区分 近代

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校校庭)



福田徳太郎の徳を顕彰するため、明治43(1910)年に建てられた石碑。柴田徳太郎は明治13(1880)年から明治42(1909)年までの29年間、水城小学校校長を勤めた人物。建立当初は松倉にあった水城尋常小学校に建てられ、大正3(1914)年の学校移転の際、共に移転したと考えられる。

## 名称 創立百周年記念碑

登録番号 F0158

時代区分 現代

所在場所 観世音寺3丁目(水城小学校校庭)



水城小学校の校庭にある大きな石碑で、水城小学校創立百周年を記念して昭和49(1974)年に建立されたものである。石碑正面の右下には制作に携わった人物として「揮毫 筑山 石工 矢ヶ部」の銘があり、書道家城戸筑山の書であることが分かる。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 土地寄贈碑

登録番号 F0159 時代区分-

所在場所 観世音寺3丁目（水城小学校校庭）



水城小学校の校庭にある石碑で、創立百周年記念碑や頌徳碑と並ぶように位置している。表面には「一土地十坪」、裏面には「寄贈 武蔵ユクノ」の銘があり、水城小学校に関連して土地が寄贈されたことを記念した石碑と考えられる。

名称 オクノタニ

登録番号 F0161 時代区分-

所在場所 大字坂本



地元の人々が呼称していた大石垣付近の地名の1つ。大石垣の上部東側を「オクノタニ」と呼んでいたという。「オクノタニ」は平たく奥まで続いていることに由来すると伝えられている。

名称 鳥居（坂本八幡神社）

登録番号 F0163 時代区分-

所在場所 坂本3丁目（坂本八幡神社境内）



坂本八幡神社境内に所在する鳥居。高さ290cm程で、「八幡宮」の扁額が掲げられている。また、鳥居の片柱には「奉造立神門一基」の刻銘が残されている。

名称 関屋えびすさん祭り

登録番号 F0160 時代区分-

所在場所 坂本1丁目 関屋えびす堂



商売繁盛を願い毎年12月3日に行われる。前もって注連打が行い、新しい注連縄を恵比寿にかけている。夕方からの祭りでは地元の方が参詣者へ御神酒や豚汁などを振舞い、舞を行っている。当番の自宅で接待を行っていたこともあったが、現在（平成24年）は外にテントを張り対応している。

名称 石幟（坂本八幡神社）

登録番号 F0162 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目（坂本八幡神社境内）



坂本八幡神社境内に所在する二基一対の石幟。毎年10月第1曜日にされる宮座の前には、新しい注連縄が掛けられる。左右それぞれに刻銘が残されており、大正12（1923）年3月に立てられたことや、銘文の書が吉副鉄山によるものである事などが分かる。

名称 旗立石（坂本八幡神社）

登録番号 F0164 時代区分-

所在場所 坂本3丁目（坂本八幡神社境内）



坂本八幡神社に所在した旗立石。本来は八幡神社入口の道路上にあったもので、道路拡張の際に境内へと移動されていた。元の場所に基礎部分も残されていたが、平成24（2012）年の参道・石垣整備の時にどちらも撤去された。

名称 石燈籠(坂本八幡神社)

登録番号 F0165 時代区分-

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に所在する石燈籠。高さ200cm程のもので、「八幡宮」の刻銘が残されている。現在も八幡神社の氏子が順番で、毎夕に灯明を上げている。

名称 猿田彦大神

登録番号 F0167 時代区分近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に所在する。高さ126cm・幅78cm・奥行50cm。置かれた刻銘から明治3(1870)年に建立されたことが分かる。現在は、同じ境内にある石燈籠に灯明を灯した氏子がお参りしている。

名称 ガランさま(坂本八幡神社)

登録番号 F0169 時代区分-

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に所在する高さ160cm程ある大石で、子供の守り神だと言えられている。旧暦4~5月に行われる水神祭「ダブリュウ」の際には、ガランさまにも御神酒を竹筒に入れて供えている。毎夕、石燈籠に灯明を灯した後、氏子の人が参りされている。

名称 道路更正碑

登録番号 F0166 時代区分近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内にある道路延長を記念した石碑。大正10(1921)年に大高道路、大正14(1925)年に花之屋敷道路が延長されたのを記念して建立されたものである。石碑には当時の区長や世話人の人々十数名の氏名が刻銘されている。

名称 寄附記念碑(坂本八幡神社)

登録番号 F0168 時代区分近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に所在する、高さ132cm・幅29cm・奥行23cm程の石碑。残されている刻銘から、金老千円を寄附した武蔵大次郎を記念して昭和9(1934)年7月に坂本区が建立したものであることが分かる。

名称 石塔残欠

登録番号 F0170 時代区分-

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内に残る石塔の残欠。境内の2ヶ所にあるが、由来など詳細は不明である。

## F 地区（観世音寺・坂本）

### 名称 万葉歌碑 大伴旅人(わが岡に…)

登録番号 F0171 時代区分 現代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



平成19(2007)年3月に建立された歌碑。奈良時代の歌人・大伴旅人の歌「わが岡に さ男鹿来鳴 秋萩の花細間ひに 来鳴くさ男鹿(訳 私の住む岡に牡鹿が来て鳴いている。今年初めての萩の花が咲き、牡鹿がやってきて妻間いをしてること)」が記されている。揮毫者は城戸寛山。

### 名称 潮井台(坂本八幡神社)

登録番号 F0173 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内にある潮井台。身を清めるための潮井を置いた台で、地域によっては川水・湧水・砂などを用いて清めていた。台には「奉寄遣」「明治三十四年三月吉日」の銘があり、1901年3月に寄遣されたことが分かる。

### 名称 本殿(坂本八幡神社)

登録番号 F0175 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



本殿は幅93.9cm・奥行75.8cm・高さ144.8cmの規模で、花崗岩が用いられている。内部には木製宮殿が安置されており、応神天皇が祀られている。また、壁面に残された銘には、大正11(1922)年11月に改築されたことや当時の区長や世話人、寄附者や石工の氏名等が記されている。

### 名称 手水鉢(坂本八幡神社)

登録番号 F0172 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社境内にある手洗い鉢。高さ83cm・幅53cm・奥行き5cm程のもので、近年に水道の蛇口が設置されている。

### 名称 花立(坂本八幡神社)

登録番号 F0174 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



坂本八幡神社拜殿前に位置する二基一対の花立。本体の高さが59cm、台座まで含める総高が121cm程ある。残されている銘から、地域の人々が伊勢参宮を記念して明治36(1903)年に奉獻したものであることが分かる。

### 名称 幟(坂本八幡神社)

登録番号 F0176 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社)



明治時代に作られた神社幟を、平成18(2006)年に坂本八幡神社氏子会の人々で修復を実施。長い年月が経ち、ぼろぼろに破れていた幟に、裏打ちを施して修復している。大きいものは長さ9.8m、幅77cm程ある。現在は大小合わせて10数本が、大切に木箱に収納され保管されている。

名称 **神戻し(坂本八幡神社)**

登録番号 **F0177** 時代区分-

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社)**



子供や若者の行事として行われ一時途絶えていたが、昭和49年(1974)頃に坂本親和会により復興された。平成16(2004)年に氏子会を結成し氏子会主催、親和会協賛という形で続けられることになった。月遅れの11月末の土曜夕刻に神事が行われ、氏子会や自治会をはじめ地域の人々で賑わっている。

名称 **注連打ち(坂本八幡神社)**

登録番号 **F0179** 時代区分-

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社)**



坂本八幡神社では宮座に先立ち、注連縄作りを行っている。縄を叩いて柔らかくし、小束に分けて、縄が左になるよう、右側で作り上げていく。完成すると注連立て石などに留め付けるが、その際は奇数の縄でくりつつけるようにしているという。終了後には神社の本殿で直会を行っている。

名称 **薬師如来石像**

登録番号 **F0181** 時代区分現代

所在場所 **坂本3丁目(オカッテンサン境内)**



オカッテンサン境内で祀られている薬師如来石像。お祀りしてある木造瓦葺の御堂は昭和50(1975)年11月に再建されたもの。元々は般若の滝にあったが、昭和48(1973)年の水害で坂本新池に流出してきたものを救い出して、新たにオカッテンサンでお祀りしている。

名称 **ムラの宮座(坂本八幡神社)**

登録番号 **F0178** 時代区分-

所在場所 **坂本3丁目(坂本八幡神社)**



坂本八幡神社では毎年10月1日にムラの宮座が行われていた。宮座は、まつりの座を設けて神を迎え、供物を献じ、神に伊えた供物を皆で頂き、その後直会の宴を持つという行事。ムラの宮座は平成15(2003)年を境に途絶えており、現在は氏子会が主体として行っている。

名称 **龍神祠**

登録番号 **F0180** 時代区分現代

所在場所 **坂本3丁目(オカッテンサン境内)**



オカッテンサン境内にある龍神祠。祠は昭和63(1988)年7月に再建されたもので、向かって右側に龍神、左側に不動明王が祀られている。元々は般若の滝にあったが、昭和48(1973)年の水害で坂本新池に流出してきたものを救い出して、新たにオカッテンサンでお祀りしている。

名称 **天龍祠**

登録番号 **F0182** 時代区分現代

所在場所 **坂本3丁目(オカッテンサン境内)**



オカッテンサン境内にある天龍祠。木造瓦葺の御堂には、向かって右側に三宝鬼神、左側に天龍が祀られている。元々は般若の滝で祀られていたものであるが、昭和48(1973)年の水害で坂本新池に流出してきたものを救い出して、新たにオカッテンサンでお祀りしている。



F 地区（観世音寺・坂本）

名称 供養塔

登録番号 F0183 時代区分 現代

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



オカッテンサン境内にある供養塔で、文字は安岡栢庵の書。台座は坂本楽師堂にあった皮楽師の台座(地輪)を運んで使ったといわれている。周囲には計19体の石像が祀られているが、これは昭和48(1973)年の大水害で般度の滝から坂本新池へ流出した石像群を救い出して祀っているものである。

名称 万葉歌碑 山上憶良(しろがねも…)

登録番号 F0185 時代区分 現代

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



昭和63(1988)年2月に建立された歌碑。筑紫万葉歌連の一人である山上憶良が詠んだ「しろがねもくがねも玉も何せむに優れる宝子にしかめゆも」(訳 銀も金も珠玉も、子どもの愛に比べれば何になろうか。どんな秀れた宝も子どもには及ばない)の歌が刻まれている。

名称 般度の滝行堂表札(オカッテンサン)

登録番号 F0187 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



幅36cm・長さ153cm・厚さ3cm程の木製表札で、上部には掛け穴が設けられている。元々は般度の滝にあった行堂に掛けられていたものであるが、昭和48(1973)年の水害で坂本新池に流出してきたものを救い出して、新たにオカッテンサンに安置している。

名称 弘法大師堂

登録番号 F0184 時代区分 現代

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



木造瓦葺の御堂は平成13(2001)年3月に再建されたもので、内には自然石に彫られた高さ69cm程の弘法大師坐像が祀られている。御堂は筑紫四国一〇一番礼所となっており、平成13年3月に作成された礼所板が掲げられている。また、堂内には金刀比羅宮の木札も一緒に祀られている。

名称 石燈籠(オカッテンサン)

登録番号 F0186 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



オカッテンサン境内の供養塔そばにある石燈籠。幅38cm・行き38cm・高さ109cm程のもので、複数の石材が組み合わさっている。

名称 石垣改築之碑

登録番号 F0188 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



オカッテンサン境内にある石垣改築之碑。大正6(1917)年にカッテン原から現在地へとオカッテンサンを移転した際に作られた石垣改築を記念したものである。高さ88cm程の石柱には建立年月日である「大正六年十月」、当時の区長「太田久吉」や世話人の氏名などが刻まれている。

## 名称 石燈籠(オカッテンサン)

登録番号 F0189 時代区分-

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン境内)



オカッテンサン境内にある風防のついた燈籠。高さ107cm、最大幅38cm程のもので、基部には「奉獻」の文字が刻まれている。毎夕、氏子により当番で坂本八幡神社の石燈籠と恵比須尊、そしてこの石燈籠に灯明が灯されている。

## 名称 夏のヨド(オカッテンサン)

登録番号 F0191 時代区分-

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン)



オカッテンサンの例祭は毎年7月13日。以前は女性と子供達(小学生)の行事で、前日12日オタイヤ(遠夜)のオヨドが最も賑わった。近年は女性だけで昼間に行われている。平成19(2007)年は近隣の女性達が、がめの業機頭など様々な機頭を借りてお供えし、1時間ほど御詠歌の唱和が行われた。

## 名称 庚申天

登録番号 F0193 時代区分近世

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社参道沿い)



日吉神社参道入口にある庚申天の石碑。石碑には「寛政四年三月二十二日」の銘が残されており、1792年3月22日に建てられたことが分かる。台石は礎石の転用とみられる。

## 名称 番帳による掃除番(オカッテンサン)

登録番号 F0190 時代区分近代

所在場所 坂本3丁目(オカッテンサン)



オカッテンサン付近の家々では御堂を集会所として使用しており、「オカッテンサマ」を大事にしている。当番は1週間、御堂内や境内を掃除して、次の家に交替している。当番に渡される番帳は戸主名が書かれた横50cm・縦20cm・厚さ1cm程の木板で、御堂の鍵も付けられている。

## 名称 鳥居(日吉神社)

登録番号 F0192 時代区分近代

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社参道の入口に位置する、花崗岩製の明神鳥居。左右の石柱にはそれぞれ刻銘が残されており、明治44(1911)年4月に建立されたことや、建立に尽力した区長原野百太郎・石工團藤吉・武藤小次郎など二十数名の氏名、書を吉副押山が記したことなどが分かる。

## 名称 原野百太郎記念碑

登録番号 F0194 時代区分近代

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社参道沿い)



日吉神社の参道途中に位置する、原野百太郎の功績を記した碑。原野百太郎は、明治・大正期に村会議員、明治43(1910)年~大正6(1917)年には区長を務めるなどして活躍した人物。その功績を記念して、大正9(1920)年2月に建立されたものである。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 鳥居（日吉神社）

登録番号 F0195 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



参道途中に位置する花崗岩製の明神鳥居。江戸時代後期の文化3（1806）年10月に観世音寺村の氏が奉納したものである。また、残されている銘には観世音寺別当敬栄（りんえい）という人物も見え、当時の日吉神社が観世音寺の鎮守社であったことがうかがえる。

名称 石織（日吉神社）

登録番号 F0197 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社参道途中にある石織。昭和9（1934）年11月に建立されたものである。表面には刻銘が残されており、建立に尽力した十数名の氏名、書を、太宰府生まれの南画家であり「左手押山」とも称される吉岡押山が記したこと等が分かる。

名称 石燈籠（日吉神社）

登録番号 F0199 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社参道の途中、右側に位置する石燈籠。左側に位置する享保15（1730）年に建立された燈籠と対をなすものだが、形状は大きく異なる。また、こちらの石燈籠には銘などは残されていない。

名称 勲八等吉塚寿人之碑

登録番号 F0196 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



吉塚寿人は、大正3（1914）年に陸軍工兵独立第4大隊第2中隊として中国山東省・青島などで戦闘に参加した人物、脚病気療養のため帰郷するが大正4（1915）年に死去。石碑は神社への合祀を記念して、大正7（1918）年5月に建立されたものである。

名称 石燈籠（日吉神社）

登録番号 F0198 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社参道の途中、左側に位置する石燈籠。「享保十五年十一月廿五日」の刻銘が残されており、1730年に建立されたことが分かる。また、同じく残された銘から御原郡三瀬（現福岡県小郡市三沢）の人物が建立に寄与したことが分かる。

名称 石碑

登録番号 F0200 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目（日吉神社境内）



日吉神社参道の石織や燈籠のたもとにある石碑で、石織などと共に注連縄がかけられている。堺側の面には梵字が刻されており、『太宰府市民俗資料編』によると「塩漬の神社」という伝承があるという。

## 名称 軸穴のある石

登録番号 F0201

時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社参道途中、階段下の右側にある石。中央部に軸穴のような穴があり、何らかの用途に用いられていたものと考えられる。

## 名称 神田碑(日吉神社)

登録番号 F0202

時代区分近代

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社参道の途中、左側にある石碑。吉原藤三郎が日吉神社に神田として三畝伍歩寄所を寄進したことを記念して、大正7(1918)年に建立されたものである。現在でも日吉神社氏子会がこの神田を受け継ぎ、耕地として貸し出すなどして神社の維持に充てているという。

## 名称 石燈籠(日吉神社)

登録番号 F0203

時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社参道、階段途中にある石燈籠。この石燈籠と樹木を軸で往連縄が張ってあるのが特徴的である。また、以前は階段を挟んで反対側(拝殿に向かって右側)に位置していたが、近年に現在地(拝殿に向かって左側)へと移動している。

## 名称 五輪塔残欠

登録番号 F0204

時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社の参道、階段途中にある五輪塔の残欠。その他の板碑群と共に一か所に所在しており、これらを祀るように石燈籠と樹木の間に往連縄が張られている。

## 名称 板碑

登録番号 F0205

時代区分近代

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社参道の階段途中、本殿に向かって左側にある板碑。由来など詳細は不明である。五輪塔残欠と共に一か所に所在しており、これらを祀るように石燈籠と樹木の間に往連縄が張られている。

## 名称 花立(日吉神社)

登録番号 F0206

時代区分近代

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社拝殿前に位置する二基一対の花立。残された銘から昭和18(1943)年に奉獻されたものである事が分かる。正月には松竹梅が生けられ、お籠りや宮座、月に一度行われる清掃の際には柴が綺麗に生けられている。

F 地区 (観世音寺・坂本)

名称 潮井台(日吉神社)

登録番号 F0207 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社境内の拝殿前に所在する潮井台。潮井台とは身を深めるための潮水を置いた台で、地域によっては川水・湧水・砂などで深めていた。

名称 手洗鉢(日吉神社)

登録番号 F0208 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社境内の拝殿前に所在する手洗鉢。手洗鉢は神前で身をすすぎ、身を深めるための水を確保するための器のことである。

名称 石碑

登録番号 F0209 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社境内)



日吉神社本願の後方に所在する石碑。表面には「元基趾菩提」の銘が残されている。

名称 七夕籠り(日吉神社)

登録番号 F0210 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社)



太宰府一帯では7月7日に台風除けと稲の出穂祈願として七夕籠りが行われるが、日吉神社では月遅れの8月7日に行われている。神前に鯛・米・塩・野菜・果物を供えて、氏子会、地区区の住民、他参列者の順に拝礼を行っている。2008年より氏子会の主催となり、例年20~30人の参列がある。

名称 宮座(日吉神社)

登録番号 F0211 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社)



日吉神社では昔から神社で宮司を招いて行っている。米、酒、野菜、果物、鯛を神前にお供えて、五串拝礼のあとに御神酒を頂く。その後、直会が行われ、上方、学業、安養寺、月山の各組が輪番で直会の座を担当している。現在は氏子会主催で行われており、例年20~30人が参加している。

名称 日吉神社経塚

登録番号 F0212 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目(日吉神社)



日吉神社境内では、経塚に埋納するために粘土板に経典を転写して焼いた瓦葺が出土している。現在までに破片3点が確認されており、福岡市飯盛山出土瓦葺と同じ1100年代頃のものであると考えられている。近年における研究・発掘成果から、神社辺でも瓦葺を埋納した経塚の存在が推定されている。

名称 拝殿(坂本八幡神社)

登録番号 F0213 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目(坂本八幡神社境内)



以前は茅葺屋根であったが落雷によって焼失し、昭和18(1943)年に再建され現在の姿になったという。拝殿内部には豊島秀山作のものをはじめとする数多くの絵馬が掲げられており、坂本の人々に土地神・産土神として崇拝され大切にされてきた、八幡神社の歴史がうかがえる。

名称 横岳崇福寺(勝禅寺跡)庭園

登録番号 F0215 時代区分 中世

所在場所 白川 瑞雲寺境内



門を入って左側、書院と茶室との前庭となっており、面積は約600㎡。曲水式池庭や滝石組及び護岸石組に室町期のものと思われる様式が残されている。現在は瑞雲寺(ずいいうん)の境内内であり、通常公開はしていない。

名称 武藤経資(むとうつねすけ)供養塔

登録番号 F0217 時代区分 現代

所在場所 観世音寺4丁目



大宰少武藤会が平成3(1991)年5月に武藤経資の七百年遠忌に建立した供養塔。経資は鎌倉時代の幕府御家人で、筑前守・豊前・肥前・肥後・対馬の守護職を務め、北九州の統治に当たった。元寇時には警固体制を整え、元の使者への対応も御家人の指揮、勲功配分や調査などを行っている。

名称 横岳遺跡

登録番号 F0214 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目、6丁目、白川



四王寺山から南へ派生する丘陵に挟まれた谷部分の横岳崇福寺跡に所在する遺跡。発掘調査では崇福寺跡および墳墓群や法堂跡など多くの遺構が検出され、特に五輪塔埋納遺構や圓立柱建物群は中世前期後半から中世後期にかけての葬送儀礼・建築史にとって重要な位置を占めるものと考えられる。

名称 瑞雲塔(横岳崇福寺)

登録番号 F0216 時代区分 中世

所在場所 白川



大志国師の分骨塔である「瑞雲塔」と伝えられる石塔。大志国師没後、延慶元(1308)年に弟子達により建長寺と崇福寺に分骨され、それぞれ「天淵塔」「瑞雲塔」と称されたという。総高は133.6m、低形形の塔身が蓮台の上のっており、特徴から伝承に近い14世紀前半頃の造立と考えられている。

名称 武藤経資(むとうつねすけ)顕彰碑

登録番号 F0218 時代区分 現代

所在場所 観世音寺4丁目



大宰少武藤会が平成3(1991)年5月に建立した武藤経資の顕彰碑。経資は鎌倉時代の幕府御家人で、元寇時には元の使者への対応や九州御家人の指揮、石築地の築造工事の統括、勲功配分などを行った。表面には漢詩が刻まれており、台座の石組は防塁をイメージしたものである。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 少貳資能(しょうにすけよし)顕彰碑

登録番号 F0219 時代区分 現代

所在場所 観世音寺4丁目



昭和56(1981)年の元寇700年祭時に建立された顕彰碑。少貳資能は鎌倉幕府の有力御家人で、幕府鎮西奉行を務め、元の使者への対応も行った。元寇直前に出家し家督を長男の経資に譲ったが、老齢の身ながら弘安の役にも出陣。その傷がもとで84才で死去したという。

名称 玄清法印墓所の御世話

登録番号 F0221 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目



玄清法印の墓所がある場所は個人の敷地であったが、後に玄清法印ゆかりの成就院へ寄進されたという。一帯は墓碑建立以前から土盛りをして木柱が建てられており、鳥居もあったという。日常の御世話は土地の寄進元宅が現在でも行っており、御飯をあげ、清掃をしている。

名称 松ヶ浦池からのトンネル導水

登録番号 F0223 時代区分 近代

所在場所 坂本3丁目



松ヶ浦池から東谷口川へと導水するために築かれたトンネルで、大正時代に宇美から炭坑夫の応援をあいおいで完成したという。完成以来、水路として使用されていたが、昭和48(1973)年の水害で川底の高さが変わってしまい使用されなくなったという。

名称 観音像

登録番号 F0220 時代区分 -

所在場所 坂本3丁目 玄清法印墓所



坂本に所在する玄清法印墓と並ぶようにして祀られている観音様。高さ102cm程の石造観音像である。隣接する玄清法印と同様にきれいに整えられ、大切に祀られている。

名称 番帳による灯明番

登録番号 F0222 時代区分 -

所在場所 坂本花屋敷地区



坂本八幡神社の氏子で毎夕、恵比寿・オカッテンサン(石燈籠・坂本八幡神社の石燈籠への灯明上げとオカッテンサン)の掃除が行われている。灯明番は1日、掃除当番は1週間交代で当番しており、氏名等が記載された番帳札が回される。現在の番帳は昭和30(1955)年に引写したものである。

名称 寺号碑(観世音寺)

登録番号 F0224 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺入口に建つ高さ2.6mの寺号碑。大正3(1914)年4月に建立されたもので、碑面に記されている「観世音寺」の寺号は張堂大龍の揮毫によるもの。張堂大龍は福島県須賀川妙妙寺の住職で、中華寺金色堂欄柱の揮毫をしたことで有名な人物である。

## 名称 三十三観音碑(観世音寺)

登録番号 F0225 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺の入口に所在する高さ115cm・幅36cm・奥行21cmの横立石碑には「西国三拾三番、國中三拾三番、郡中三拾三番」と刻銘があり、三十三観音巡りにおける最後の札所を示している。建立年月日など詳細は不明だが、観音信仰の場としての観世音寺を示す貴重なものである。

## 名称 石碑

登録番号 F0227 時代区分 近代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺の祇園社跡に所在する石碑。大正8(1919)年3月に建てられたもので、太宰府町長を務めた古川勝隆が碑文を撰み、観世音寺住職であった石田琳樹師が揮毫。石碑の周辺一帯は明治期以降には竹藪となっており、「ギオンヤネ」と呼ばれていたという。

## 名称 天智院(観世音寺)

登録番号 F0229 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



現在は観世音寺の茶室で、太宰府天満宮にあったものを紀元前200年祝賀の後、観世音寺に移築したもの(昭和初期)。移築前には、江戸期に築かれた水城の木櫓が一部扁額等に描かれている。庭には宝篋印塔や長塚節や清原樹里らの歌碑も所在している。

## 名称 観世音寺参道の大石

登録番号 F0226 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺参道入口の左右に一個ずつ所在する大石。

## 名称 南大門礎石(観世音寺)

登録番号 F0228 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



本堂に向かって右側に2個、左側に6個の計8個が現存しており、中には柱を据えた円形の柱座が確認できる礎石もある。寺の伽藍は1辺が200m近くあったと考えられ、寺南側に位置するこの正門は瓦葺きの壮大なもので、左右から伽藍を囲い込む築地が延びていたと推定される。

## 名称 宝篋印塔

登録番号 F0230 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



天智院の庭に所在する宝篋印塔で上段四面には梵字が刻まれている。また、刻銘から観世音寺再建の年にあたる延宝8(1680)年に建立されたものと推定されている。



F 地区（観世音寺・坂本）

名称 安武九馬句碑（やすたけきゆうま）

登録番号 F0231 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



安武九馬は大正時代の川柳作家で、番傘川柳本社九州総局長として活躍した人物。各地の古刹や仏像をほとんど訪ね歩き、その時の思いを川柳に綴ったという。句碑は番傘川柳本社と各地の川柳作家有志により、昭和44（1969）年9月に建立されたもの。句「まほろばの鐘 天平の雲をよび 九馬」

名称 長塚節歌碑（ながつかたかし）

登録番号 F0233 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



長塚節は茨城県出身の小説家・歌人。結核治療のため九州大学へ入院し、観世音寺の石田半樹師と親交をもち何度か寺を訪れた。碑には亡くなる半年前に詠んだ歌「手をあてて鐘はたふとき冷たさに 爪叩き聴くそのかそけきを」が刻まれている。昭和34（1959）年、福岡の歌人・片山百代が碑を建立。

名称 金堂（観世音寺）

登録番号 F0235 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



8世紀頃に創建されたが、再三の火災や暴風で創建当時の建物は灰燼に帰した。寛永7（1630）年頃の暴風雨で講堂が倒壊したため、藩主黒田忠之は金堂跡地に仮殿を建て仏像を安置した。後に講堂が再建されたため、改めて仮殿を金堂とした。現在、県指定文化財であり不動明王が祀られている。

名称 山崎斌歌碑（やまざきあきら）

登録番号 F0232 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



山崎斌は長野県出身で、高崎藩村に師事し小説家となる。「竹青」と号し短歌や俳句を作り、白秋や牧水とも親交があった。歌碑は昭和49（1974）年に太宰府天満宮近くの料亭月庵に建立したものを、平成9（1997）年に移設した。歌「なる遠の御門の趾どころ かんぜんおん寺の鐘きさも鳴る」

名称 清原枿富句碑（きよはらかいどう）

登録番号 F0234 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



明治15（1882）年柳川生まれの清原枿富は「ホトギス」として活動、九州・朝鮮・満洲の俳人達の指導に尽力し、美野静雲・杉田久女など新鋭の俳人を輩出した。句碑は昭和15（1957）年、ホトギス門下冬野同人の小原善々子らにより建立。句「露の道 観世音寺の鐘きこゆ 枿富」

名称 講堂・本堂（観世音寺）

登録番号 F0236 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



かつての伽藍は、再三の火災や暴風で失ったが、講堂は元禄元（1688）年に福岡藩主黒田忠之や博多の豪商天王寺屋浦平右衛門らによって再建。本尊は別名杵島観音像とも呼ばれる木造観音菩薩立像が祀られている。現在の平面規模は創建時の5分の2程度で、礎石が周辺に現存する。県指定文化財。

## 名称 夢清水

登録番号 F0237

時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



昭和20～30(1945～1964)年代に区内の青年達が建造したものの、本堂横にあった井戸から地中樋を通して水の出る施設をつくり、夢清水として話題づくりをしたものであるという。原状のある木造の覆屋と石造の井戸、五角形の井戸枠が現存している。

## 名称 五重塔心礎(観世音寺)

登録番号 F0239

時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



柱を据えていた礎石。高さ1m・径1.9mの大石の中央に、内径10cm・深さ20cmの柱穴が彫られている。創建時、心礎の周囲には高さ約1.5mの基壇があり、発掘調査の結果、15m四方の基壇であったことが分かった。貞観13(871)年の大嵐などで中破するも修復されたが、康平7(1064)年の大火で焼失した。

## 名称 清水記碑(せいすいきひ)

登録番号 F0241

時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



貞享5(1776)年、黒田藩士加藤一純が由緒あるこの地が荒廃しひびくのを嘆き、後世に永く伝えるため建立した石碑。観世神の山号「清水山」の由来となった講堂の北に湧き出る清らかな水と「源氏物語」玉鬘の巻に「清水の御寺、観世音」と記されていることにも言及している。

## 名称 伝北門礎石(観世音寺)

登録番号 F0238

時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内に所在する軸穴のある礎石。塔跡の南西に位置しており、直径30cm・深さ28cmの穴が中央部に残っている。

## 名称 五重塔跡(観世音寺)

登録番号 F0240

時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



心礎の周囲の礎石9個と塔基壇の石列は、四天柱や側柱など、その他の柱の礎石の一部である。創建時には高さ約1.5m・15m四方の基壇があった。塔は康平7(1064)年に焼失後、再建されることはなかった。

## 名称 空屋素心大姉地蔵菩薩

登録番号 F0242

時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内に所在する地蔵菩薩。江戸時代、観世音寺再建に尽力した博多の豪商天王寺屋浦了夢の妻を祀るものである。台石には「空屋素心大姉」の銘と供養の碑文が刻まれており、その上に頭部を欠く石造地蔵菩薩像が鎮座している。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 梵鐘（観世音寺）

登録番号 F0243 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



7世紀末頃に鑄造された日本最古の梵鐘の一つ。国宝。京都妙心寺の梵鐘（国宝）は兄弟鐘と言われる。二つの鐘の陽鈔銘と陰刻に北部九州の地名がある。寛永8（1631）年に暴風で仏殿が大破・廃寺寸前となり、落命にて梵鐘も安楽寺（天満宮）に移されたが、神仏分離令により明治3（1870）年に復帰。

名称 玉石垣（観世音寺）

登録番号 F0245 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



観世音寺に所在する玉石垣。現在は2本が残るのみである。昭和30（1955～1964）年代の宝蔵地設に伴って行われた境内の整備に関連するものではないかと考えられている。

名称 線刻地藏菩薩像

登録番号 F0247 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



観世音寺境内にある線刻地藏菩薩像。写真右側のもので、「延命尊」「宿坊検校坊」の他に明和9（1772）年の紀年銘が残っている。

名称 軸穴のある礎石

登録番号 F0244 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



観世音寺に所在する軸穴のある礎石。鐘楼付近の芝生上に設置している。奈良～平安時代の遺構とされる市の上（いちのえ）遺跡（現在の都府楼団地あたり）から出土したものとされている。

名称 河野静雲句碑（こうのせいうん）

登録番号 F0246 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



河野静雲は太宰府在住で時宗僧の傍ら俳句を作りホトトギス派同人として活躍、句誌『冬野』を主宰した人物。昭和24（1949）年、大宰府政庁跡の東に仏心寺を創建し、昭和49（1974）年に87才で没する。句碑は昭和45（1970）年建立のもので「秋訪へば妹（秋）の心に観世音」の句が刻まれている。

名称 阿弥陀三尊梵字板碑

登録番号 F0248 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



観世音寺境内にある梵字板碑。写真左側のもので、阿弥陀三尊の梵字が陰刻されている。

## 名称 石碑を利用した石橋

登録番号 F0249 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内に所在する石橋で、寄進された石碑4本を石橋に転用したものである。そのうち2本には銘が残っており、1つは本城村大字通古賀の世話人が寄進したもの、もう1つは京都府の女性が寄進したものであることが分かる。

## 名称 ノダフジ

登録番号 F0250 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内で見られるノダフジ。樹の木に絡みつくようにノダフジが這っており、木の上部まで達している大変珍しい姿である。毎年5月の開花時期には、紫色の美しい花を咲かせている。

## 名称 天智塔

登録番号 F0251 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内に所在する石造九重塔。昭和30(1955~1964)年に行われた観世音寺整備に尽力した博多の事業家・河内卯彦が、観世音寺ゆかりの天智天皇を記念して昭和36(1961)年に建立したものである。

## 名称 万葉歌碑 沙彌滿誓(しらぬひ…)

登録番号 F0252 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



沙彌滿誓(しゃみまんぜい)は奈良時代活躍の僧で、養老7(723)年より造観世音寺別当として来府し、多くの歌を残した。歌碑は昭和59(1984)年に福岡ロータリークラブが寄贈したもので、万葉集「しらぬひ筑紫の綿は身につけていまだは著ねど暖かに見ゆ」の歌が刻まれている。

## 名称 ナンキンハゼの林

登録番号 F0253 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内にあるナンキンハゼの林。昭和30(1955~1964)年の整備で植えられたもので、現在は樹高10m以上に生育したものもみられる。紅葉した秋頃の風景は大変美しいものである。

## 名称 巨石

登録番号 F0254 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺の境内に2個の巨石がある。万葉歌碑のそばに位置している。その形から、礎石として使用されていたのではないかと考えられる。

F地区(観世音寺・坂本)

名称 石塔群

登録番号 F0255 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



講堂に向かって左側手前、モチノキのそばにある石塔群。全て南北朝以降、室町時代前後のもので、五輪塔の残欠、梵字や縁刻が刻まれた板碑、羅漢像など計37基が集められている。これら石塔群は、ほとんどが墳墓の標識であったもので、後世に移転されたものだと考えられる。

名称 礎石

登録番号 F0257 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内、金堂の横にある礎石。詳細は不明である。

名称 庚申尊天

登録番号 F0259 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



寛保元(1741)年九月吉日に建立された太宰府市内で最古と言われている庚申塔。笠石の前面に瑞雲を伴った月と太陽が刻まれているのが特徴で、「日待ち・月待ち」といった民間信仰と庚申信仰が習合したものと考えられる。

名称 碾礮(てんがい)

登録番号 F0256 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



「天平の石臼」と伝えられている直径1m程ある大型の石臼。『日本書紀』によると、推古18(610)年に高句麗の僧曇首が初めて碾礮を造ったとされ、この石臼がその実物とも伝えられている。真偽のほどは定かではない。

名称 石燈籠(観世音寺)

登録番号 F0258 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内)



観世音寺境内に所在する石燈籠。この石燈籠は一对で寄進されたもので、本堂前に一基、鐘楼前の樹の木の下一基置かれている。上部には「観世音寺」、下部には「普明燈」と銘されている。

名称 坊主山

登録番号 F0260 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目



観世音寺境内に建つ収蔵庫から延びる木道沿いにある土盛り。高さ1.6m程の小高い土盛りで、坊主山と呼ばれていた。その位置や形状などから、何か埋蔵しているのではと推定されたが、発掘調査では遺構や出土物は確認されていない。

## 名称 猿澤池跡

登録番号 F0261 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺境内東北隅)



観世音寺5丁目にあった池の跡。観世音寺境内の東北隅にクスの木があるが、その根元付近が猿澤池跡である。1980年代頃まで付近の田圃への用水池として活用されていたという。現在は水は無く、跡地が広がるのみである。

## 名称 観世音寺伽藍絵図

登録番号 F0264 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



紙本彩色で、寸法は縦162.1cm・横164.3cm。左右に二枚、上下四段に、長方形の紙八枚をつぎ、朱と墨を主体にして大和絵と裏面の技法を織り交せて描かれている。失われた旧軸木の謄写から大永6(1526)年に制作されたと推定される。その裏巻たびの修補を受けて今日に至っている。

## 名称 木造十一面観音立像

登録番号 F0266 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



109cmの巨像で、桧材の一木造。頭部部を通じて、正背面・両側面中央で縦に刻いだ四村刻に内列を施している。肩・両足を別材で造り、寄木造に移る木取りの細かさをみれば、右手は垂下し左手は水瓶を持っている。観世音寺を代ける巨像としてよく知られている。

## 名称 僧房跡(観世音寺)

登録番号 F0262 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺北側)



観世音寺で学ぶ僧達の宿舎である僧房の跡。規模は南北10m・東西100m程で、内部は隔壁で仕切られ、居室に分けられていたと推定される。また、屋根のかかった廊下の馬道屋(めどうや)によって、観世音寺講堂と連結されていた可能性が指摘されている。礎石は復元の為に据えられたものである。

## 名称 木造不空羂索観音立像

登録番号 F0265 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



観世音寺の巨像群の中でも最大の像高517cmで材は樟。大正3年の解体修理の際、胎内銘文及び心木等が発見された。それらによると康平7(1064)年の火災でも崩れず残っていたが、承久3(1221)年7月12日夜に突然に倒壊したので、翌年に清水寺妙見御前の樟を伐って木影で再興したと記されている。

## 名称 木造十一面観音立像

登録番号 F0267 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



観世音寺に現存する三体の十一面観音のうち一番新しい鎌倉時代作のもの。像高303cm、桧材の寄木造で(面部のみ樟)、体部両側を短く前後二材刻を基本とし、内列を施し、首部・両肩等をつける一木造風の古い寄木法である。鼻や目・唇等鎌倉時代の雄健な作風を表している。

F地区(観世音寺・坂本)

名称 木造十一面観音立像

登録番号 F0268 時代区分 古代・中世

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



観世音寺の仏像群の中でも、変わった感じの菩薩で、おそらく客仏であったと考えられる。後高103cm、寄木造の直立した観音で全体に平安後期の繊細でおだやかな調子に造られているが、微妙な動きはなく、硬さが目立つ。平安時代末期、あるいは鎌倉時代の初期の像とみられる。

名称 木造馬頭観音立像

登録番号 F0270 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



寺伝によると大治年中(1126~1131)に大宰大貳経忠の誓願によって造立されたといわれる。後高503cmの桧材の寄木造で、頭部は三眼の忿怒形が四面あり、髻頂に馬頭をいただいている。平安時代にさかのぼる丈六の大作は唯一の遺例であり、12世紀の彫刻基準作として全国的に良く知られている。

名称 木造地藏菩薩半跏像

登録番号 F0272 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



後高123.6cm、樟の一木造である。頭部部は両肩まで一木で、膝前・両袖口、背面の一部は後補で別木で削ぎついでいる。顔は伏目がちで鼻・唇も小振りであるが彫りが強く、すっきりした印象。全体にどっしりと構え古様な一木造の作風を伝えるが、印象から平安時代後期の造りと考えられる。

名称 木造観音菩薩坐像

登録番号 F0269 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



旧講堂の本尊は像高321cmの豊かな観音坐像であった。樟の一木造で、彫影・漆箔の丈六坐像で、頭部部を通して縦四角割り、内刺を施した後削ぎ付け、両肩・膝前等を別材で彫り付ける古い技法。穏やかではあるが張りのある顔をはじめてする特徴は平安後期の典型的彫刻である。

名称 木造四天王立像

登録番号 F0271 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



阿弥陀如来坐像の四隅に安置される四天王像。四軀とも樟の一木造で、頭部部通して一木、内刺し背板をつけ、肩・肘・手・袖を削ぎ付ける基本的な造りで、二体ずつ対照に姿勢を反転した形で、康治2(1143)年の金堂火災にて前像が失われ、平安時代末期頃に再興されたものと考えられる。

名称 木造地藏菩薩立像

登録番号 F0273 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)

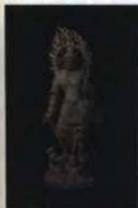


像高136.3cm、もとは樟の一木造。顔は損傷がはなはだしく、右側はほとんど姿を止めていなかった。首部も朽ちて離れていたのを、大正期の修理で差首に改め全面的に補修されている。厚く重々しい衲衣、腰高で全体を静かな印象でまとめている。平安時代後期に造られたものと考えられる。

## 名称 木造毘沙門天立像(兜跋毘沙門天立像)

登録番号 F0274 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



兜跋毘沙門は、西域から伝わった王城国土の守護神。観世音寺には、像高160cm、棟の一木造で、内刺がなく古様である。彫りを感じさせる丸味をおびた彫り方、重々しく力強い姿勢、10世紀頃の制作と考えられる名品で群像の中でも最古のものとして際立っている。

## 名称 木造大黒天立像

登録番号 F0276 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



観世音寺の大黒天立像は像高172cm、棟の一木造で、内刺のない彫りのまま足まで造ってあったが、両足は後補でつぎ足している。種々かで軽やかな印象は、古い大黒天が、豊穡の神である大黒様に移りかわる過渡期的のもので、平安時代後期作品と考えられている。

## 名称 玄奘供養宝篋印塔

登録番号 F0278 時代区分 中世

所在場所 観世音寺5丁目



観世音寺の西北にあり、奈良時代の僧玄奘の墓と伝える。塔の北側の片面を平坦にし、宝篋印塔を半内に彫出したもので、高さ85cmを測る。基礎の上面に反花座を表現し、塔身に観音大日の種子(パン)を陰刻している。銘はなく造営時期決定は困難であるが、14世紀中頃の建立と考えられる。

## 名称 木造吉祥天立像

登録番号 F0275 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目(観世音寺)



吉祥天は福祥を司る女神として奈良時代から造られ全国に数多く残る。本像は像高216cm、棟の寄木造で、頭部は前後二材で差首にし、体部は縦四材を焼ぎ、肩・袖・手・背を寄せている。衣文が浅く、形も意匠化され、全体に溫和にまとめ平安時代後期の作風を示している。

## 名称 観世音寺

登録番号 F0277 時代区分 -

所在場所 観世音寺



太宰府市中央部に位置する地名。四王寺山脈の南に位置し、御笠川が流れる。地名の由来は観世音寺があったことによる。

## 名称 玄奘墓入口の石柱

登録番号 F0279 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目



戒壇院北側に所在する玄奘墓への入口にある石柱。高さ55cm・幅39cm・奥行32cmの大きさで、以前は道側の方に文字らしき跡が見えていたが現在は判読不明である。





## 名称 石塔群

登録番号 F0286

時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内に所在する33個からなる石塔群。本来は戒壇院各所に所在していたと思われるが、平成6(1994)年頃に行われた戒壇院の修復にともない境内も整備され、石塔群も現在の1ヶ所にまとめられたという。

## 名称 板碑

登録番号 F0288

時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内に所在する板碑。計4基が並列に位置しているが、具体的な詳細は不明である。

## 名称 鑑真和尚供養五輪塔

登録番号 F0290

時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



和名に成律を伝えた鑑真和尚の供養塔。宝篋印塔と並ぶようにして戒壇院境内に位置している。五輪塔の屋根型部分(大輪)には「開山大唐國」と陰刻されている。

## 名称 大西真応和尚墓

登録番号 F0287

時代区分現代

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院住職を務めた大西真応和尚の墓。大西和尚は大分県大分市にある万寿寺で高崎山の猿に御付けしたことで知られる人物で、昭和31(1956)年3月より戒壇院住職となり来住し、僅んだ寺院の修理などに尽力した。昭和62(1987)年12月26日、75歳にて入寂。

## 名称 天王寺屋浦了夢供養塔

登録番号 F0289

時代区分近世

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院再建に尽くした博多の豪商天王寺屋浦了夢の供養塔。高さ約3.5mの砂岩製で、貞享2(1685)年に建立されたもの。建立当時は戒壇院境内の南東にあったことが東長寺文書の絵図から分かる。昭和61(1986)年に行われた石塔積み直しの際に、塔身の刺り込みから舍利や文書等が発見された。

## 名称 宝篋印塔

登録番号 F0291

時代区分近世

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



鑑真和尚供養塔である石造五輪塔と並ぶように位置する石造宝篋印塔(ほうきょういんとう)。塔身には観音像の押き彫りが施されている。また、塔の裏側には銘が残されており、天明7(1787)年7月18日に山崎勝重によって奉納されたことが分かる。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 石燈籠（戒壇院）

登録番号 F0292 時代区分 現代

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院境内のほぼ中央、本堂前に位置する石燈籠。中台には干支が彫刻されている。平成7(1995)年頃に寄進されたものであるという。

名称 手洗鉢（戒壇院）

登録番号 F0294 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院境内の鐘楼そばに所在する手洗鉢。

名称 石造地藏菩薩立像

登録番号 F0296 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院境内にある地藏堂に安置されている石造地藏菩薩立像。左手に宝珠をささげ、錫杖を右手に立てて持つ姿で、穏やかな面相と衣文の襷の丸みのある彫出が印象的である。また、台座正面の蓮華に陰刻銘が残されており、元禄11(1698)年、中興第四世運照律師の頃に造立されたことが分かる。

名称 石燈籠（戒壇院）

登録番号 F0293 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院境内の鐘楼そばに所在する石燈籠。複数の古い部材を組み合わせて建てられている。

名称 井戸（戒壇院）

登録番号 F0295 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院境内に所在する井戸。石積みで組まれており、上部は覆いが設けられている。

名称 石仏

登録番号 F0297 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院境内にある地藏堂の横に安置されている石仏。3体がぶように祀られているが、由来などの詳細は不明である。

## 名称 石臼

登録番号 F0298 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内の1ヶ所にまとめられている石臼で計3個確認されている。それぞれの作成時期や用途など詳細は不明である。

## 名称 石臼

登録番号 F0300 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内の庭に置かれている石臼。由来など詳細は不明である。

## 名称 結界石(戒壇院)

登録番号 F0302 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院東門前)



戒壇院東側の入口にあたる東門(裏門)のそばに位置する結界石。結界石は寺域や修行場など宗教上特別な意味をもつ地域を示すために建てられた石で、この石碑も戒壇院境内と俗世を区別するために建立されたものと考えられる。

## 名称 軸穴のある丸石

登録番号 F0299 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院に所在する軸穴のある丸石。中央にある大きな軸穴から何らかの用途に用いられていたものと推定されるが、由来などの詳細は不明である。

## 名称 宝篋印塔

登録番号 F0301 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院本堂の裏手に所在する石塔。複数の古い部材を集めて、宝篋印塔形に組み合わされたものである。

## 名称 ボダイジュ

登録番号 F0303 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



東門のそばに植えられている菩提樹(ボダイジュ)で、奈良時代に鑑真和尚が唐から招来した種子を誇いたといわれている。6月末から6月初めにかけて、とてもきれいな黄色い花を咲かせる。近年は花の季節になると樹下でリコーダーの演奏会なども開催されている。

名称 結界石（戒壇院）

登録番号 F0304 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院裏手に所在する結界石で、表面には「殺生禁断」などの文字が刻まれている。結界石は寺域や修行場など宗教上特別な意味をもつ地域を示すために建てられた石で、この石碑も戒壇院境内と俗世を区切るために建立されたものと考えられる。

名称 石塔残欠

登録番号 F0306 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院裏手にある池の北側に所在する石塔の残欠。由来など詳細は不明である。

名称 宝篋印塔

登録番号 F0308 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院境内にある茶室の南西方向に所在する宝篋印塔。由来など詳細は不明である。

名称 弁財天

登録番号 F0305 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院裏手にある池の傍に祠られている弁財天の石像。由来など詳細は不明である。

名称 池（戒壇院）

登録番号 F0307 時代区分-

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



戒壇院境内の北側に所在する池。茶室の西方に位置している。

名称 茶室（戒壇院）

登録番号 F0309 時代区分

所在場所 観世音寺5丁目（戒壇院境内）



簡素ながら品格のある建物で、桁行き三間・梁行き二間の割造り茅葺きである。昔は旧書院として離れと呼ばれていたという。また、書院と茶室の間にある礎ぎの茶頭寮棟などは昭和40（1965）年頃の新築という。寺伝では聖福寺の仙屋好みの草庵であったと伝えられている。

## 名称 本堂(戒壇院)

登録番号 F0310 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



本堂は五間四面の重層入母屋造りの構造で、盧舎那仏が鎮座する。寛文9(1669)年に黒田藩祿田昌勝が三間四面のものを建立し、博多の豪商天王寺屋浦了夢が五間四面に改築したと伝えられてきたが、東長寺文書より寛保3(1743)年に三間四面の観音堂を増築したものと考えられている。

## 名称 鐘楼(戒壇院)

登録番号 F0312 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内、本堂東南の木立中にある鐘楼。勾配をもつ石積屋上に袴腰と縁を付けた入母屋本瓦葺の建物があり、小屋根中央から梵鐘を吊り下げる。建築年代は棟札に記す宝永元(1704)年と推定されており、袴腰付鐘楼としては県内でも古例である。梵鐘と共に県指定文化財である。

名称 大蔵大般若智神会(だいぼんにちのちとら)・御座屋長興(おせがきくろ)

登録番号 F0314 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院)



毎月7月上旬に稲田の悪疫退散・病魔退散を祈願して行われ、数日は2日間かけて行う程盛況であった。現在は、近隣の町内20名程が戒壇院本堂に入室し、大般若智神会と御座屋長興が行われる。参詣者は堂内で祈願を行い、貰い受けの札と自宅の門口に貼り悪疫退散のお守りとしている。

## 名称 山門礎石(戒壇院)

登録番号 F0311 時代区分 近世

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院境内)



戒壇院境内、本堂前に位置する礎石群。これら礎石は、元禄14(1701)年に建立された山門の礎石である。現在は礎石が名残をとどめるだけであるが、当時の山門の様子『筑前名所図会』『筑前国統風土記附録』などに描かれている挿絵から知ることが出来る。

## 名称 灌仏会(かんぶつえ・花まつり)(戒壇院)

登録番号 F0313 時代区分 -

所在場所 観世音寺5丁目(戒壇院)



通称花まつりと呼ばれる灌仏会は、花御堂の中の金銅製の釈迦像に甘茶をかけお釈迦様の誕生を祝う行事。10年前迄は5月8日頃(月遅れ)だったが、最近子供達が春休み中の4月上旬に行われるようになった。子供達が一本ずつ持ち寄った花は、本堂前の花御堂をはじめ、屋根や竹筒に飾られる。

## 名称 羅漢尊坐像

登録番号 F0315 時代区分 近世

所在場所 観世音寺(四王寺林道)



かつて四王寺林道開設記念碑の横にあった坐像で、現在は文化財課にて保管。江戸時代建立の宝鏡山五百羅漢像群の1体で、寄進者名と百六十五番と彫られてあり、明治の高仏殿祭に際して密かに四王寺山へ移されたと思われる。同類の仏像が宇美町降子佐木村に3体、炭焼原田に2体現存している。

F 地区（観世音寺・坂本）

名称 講堂跡（観世音寺）

登録番号 F0352 時代区分 古代

所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺境内）



観世音寺講堂跡に関して現存する礎石は16個で、そのうち旧位置を保持しているものは15個あり、現存の講堂基礎下に4個が存在する。また、創建時の講堂正面には一間おきに3ヶ所、階段が設けられていた事が調査により確認されている。

名称 木造観音菩薩立像

登録番号 F0353 時代区分

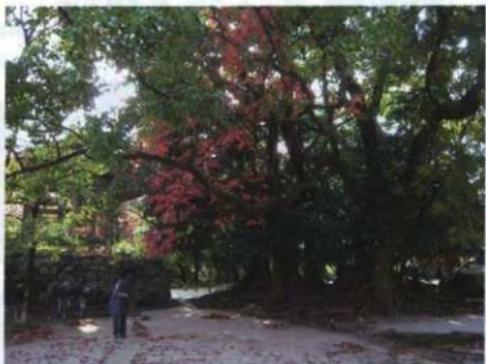
所在場所 観世音寺5丁目（観世音寺）



「杵島観音」とも呼ばれ、像高168.0cm、樟材の一木造で、世紀初頭前後の作と考えられる。胎内の墨書から大仏師・俊・俊頼らの作と分かる。頭部は太めの髻を結び、帯や顔立ちで、衣の折り目など柔らかに美しく整えられ彫刻の特徴を示している。



坂本八幡神社の石灯笼



観世音寺境内の秋

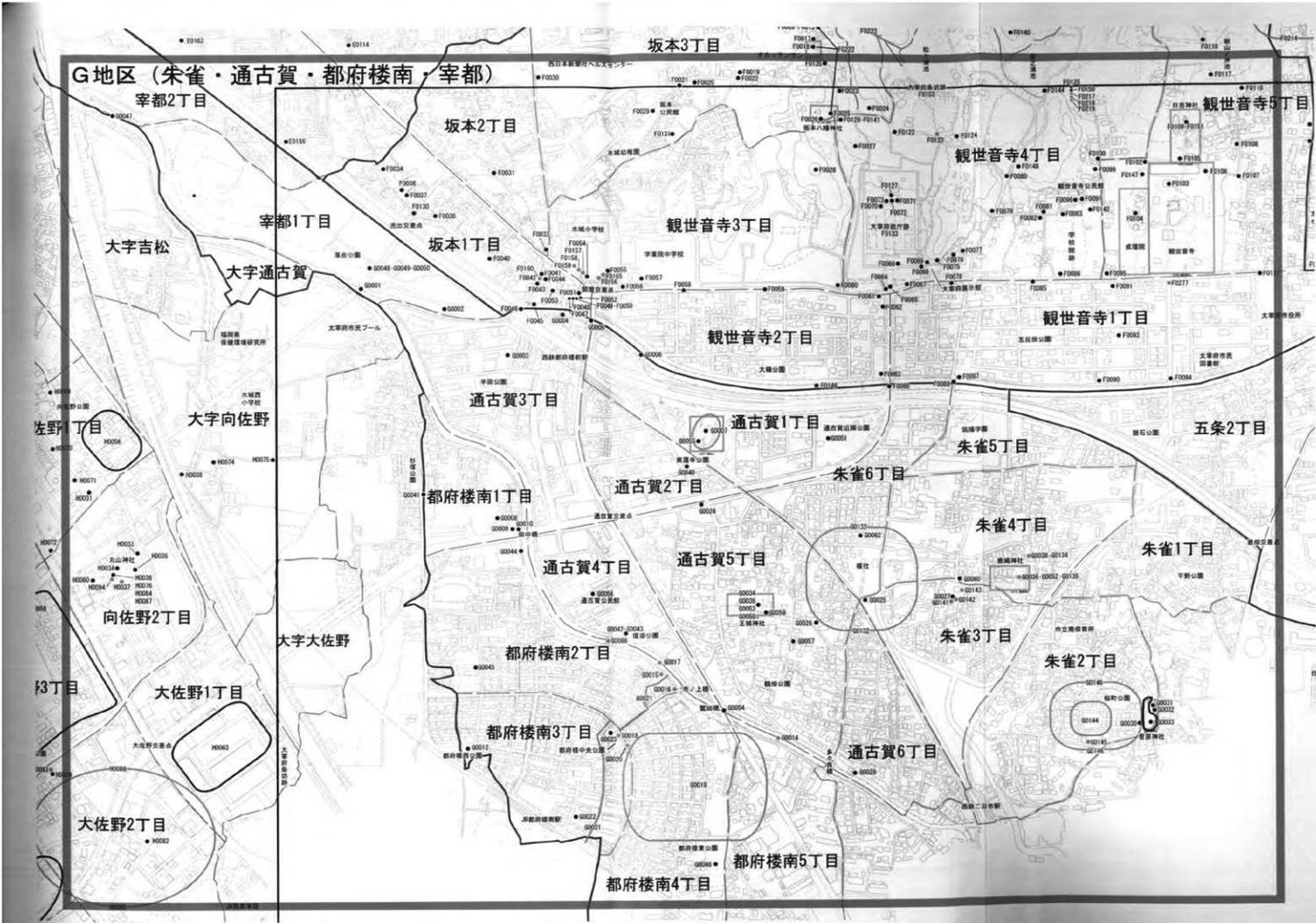
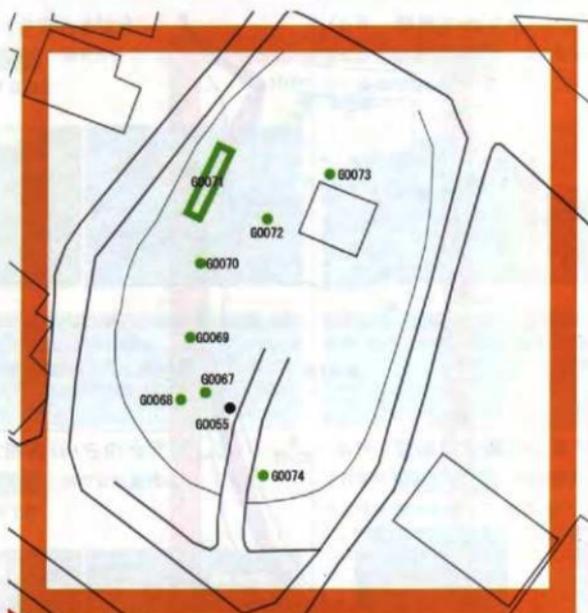


図 18. G地区文化遺産位置図 - 69/70 -





G0007 薬師山

図 19. 薬師山文化遺産配置図



G0034 王城神社

図 20. 王城神社境内文化遺産配置図

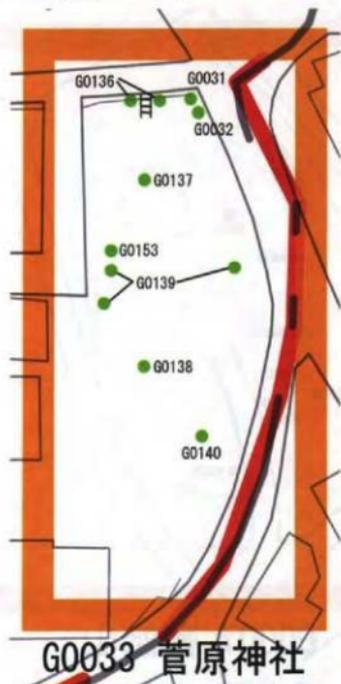


图 21. 菅原神社境内文化遺產配置图



图 22. 鹿嶋神社境内文化遺產配置图

## 名称 鷺田川(さぎたがわ)

登録番号 00014

時代区分-

所在場所 通古賀3丁目ほか



鷺田川は、筑紫野市二日市の迎田橋から太宰府市向佐野の御懸川との合流点までの区間、全長2km程の二級河川の名称。市街を流れる鷺田川は農業用水としても重要であり、川筋には多良井手・赤岸井手・落合井手が設けられて流域の田畑へ水が引かれている。

## 名称 市ノ上橋碑(いちのうえばしひ)

登録番号 00016

時代区分近代

所在場所 都府楼南2丁目



市ノ上橋は通古賀と都府楼団地を結ぶ、鷺田川に架かる橋。この橋の架橋を記念して明治38(1905)年4月に建立された石碑で、橋の傍らに所在している。また、石碑には架橋に尽力したと考えられる陶山源七の名前も刻まれている。

## 名称 「都府楼南駅前通り」の表示塔

登録番号 00018

時代区分現代

所在場所 都府楼南3丁目(都府楼中央公園前)



同地区の大通りには「都府楼南駅前通り」の名称がついている。JR都府楼南駅前と都府楼中央公園前の2ヵ所には、この名称を表示するコンクリート製の塔が設置されている。

## 名称 野鳥のねぐら

登録番号 00015

時代区分-

所在場所 都府楼南2丁目



都府楼2丁目の鷺田川沿いに位置する、こんもりと繁った森。夕方になると近隣の野鳥が集まり、ねぐらにしている。

## 名称 鷺田川の鯉のたまり場

登録番号 00017

時代区分現代

所在場所 都府楼南2丁目(鷺田川)



鷺田川に架かる市ノ上橋の下流約50mほどに位置する鯉のたまり場。子供達が稚魚を放流して大事に育てたもので、平成21(2009)年現在では大きく成長している。「魚を取らないように」の立札も立ててあり、地域で大切に守られている。

## 名称 市ノ上遺跡(いちのうえいせき)

登録番号 00019

時代区分古代

所在場所 都府楼南4丁目



発掘調査により奈良時代の土地を区画した溝や道路の跡、数棟の建物跡が発見された。このことから古代都市太宰府の範囲が、この地域まで広がっていたことが初めて明らかになった。さらに、中国製陶磁器や国産陶器等と共に、大変珍しい平安時代の木製人形が出土している。

G地区(朱雀・通古賀・都府楼南・宰都)

名称 イチョウ・ケヤキの街路樹

登録番号 00020 時代区分 現代

所在場所 都府楼南3丁目(都府楼南駅前通り)



都府楼団地の造成時、福岡県住宅供給公社がメイン通りの両側に植樹して太宰府町に寄贈した。その後何度か植え替えが行われたが、現在はイチョウやケヤキが主体となっている。春の新緑、秋の紅葉時期の光景は大衆的らしく、夏には街を歩く人々に涼しい木陰を与えてくれている。

名称 毘沙門天祠

登録番号 00061 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社境内にある毘沙門天祠。祠内には御神体として、木造毘沙門天立像・金銅塗観世音菩薩立像・金銅塗十一面観世音菩薩立像・木造不動尊立像が祀られている。近世の記録では「氏神 毘沙門天堂」とあり、村の氏神であったことがうかがえる。

名称 梵字岩

登録番号 00067 時代区分-

所在場所 通古賀1丁目(薬師山)



薬師山にある高さ278cm程の自然石。表面には大きく梵字が刻まれており、下部には種子が6文字刻まれている。

名称 漆川(うるしがわ)

登録番号 00021 時代区分 現代

所在場所 都府楼南3丁目



昔は畔の景色も素晴らしく、古歌にも詠まれた由緒ある。平成21(2009)年現在は武蔵台高校方面から九州自動車道・直隼島本線を横切り、都府楼団地を横断して鷺田川へと流し込んでいる。都府楼団地を流れる区間のうち長さ216.5m(両渠となり、昔日の面影はない。

名称 御笠運河跡

登録番号 00066 時代区分 近世

所在場所 都府楼南2丁目(鷺田川)



江戸時代に建設された、二日市の入船から博多の川掘町までを結ぶ運河。後に廃止され、大野城市等では跡地も埋め戻された。流路であった鷺田川では生息する鯉の群れや鴨、コナギなどの水鳥の姿を見ることができ、秋にはコスモスが咲き乱れ、その美しい景観から憩いの散策コースとなっている。

名称 梵字板碑

登録番号 00068 時代区分-

所在場所 通古賀1丁目(薬師山)



薬師山にある高さ112cm程の自然石。表面には大きく胎藏界の大日如来を表す梵字が刻まれている。

## G 地区

## 名称 法華塔

登録番号 80069

時代区分 近世

所在場所 通古賀1丁目(薬師山)



福岡藩第4代藩主黒田綱政に仕えた藩士陶山八之助佶が、宝永(1711)年に寄進したもの。法華塔に書かれた三文字は八之助佶の輩によるもので、先祖であるという田中熊別に由縁する大野城(四王寺)に對面することを配慮して、北向きに立っていると伝えられる。

## 名称 十三仏堂

登録番号 80071

時代区分 近代

所在場所 通古賀1丁目(薬師山)



薬師山に所在する。堂内には十三仏、弘法大師坐像、地藏菩薩立像の計十五仏を祀っている。この他に、十三仏に関連する礎石も所在している。これらは明治後期に建設されたもので、戦後に村中の有志の寄進によって改修が行われている。

## 名称 石造弘法大師坐像

登録番号 80073

時代区分 -

所在場所 通古賀1丁目(薬師山)



薬師山に祀られている像高66cm程の石造弘法大師坐像。御堂に隣接するように安置されており、トタン葺きの屋根が覆っている。

## 名称 薬師堂

登録番号 80070

時代区分 -

所在場所 通古賀1丁目(薬師山)



薬師山にある木造トタン葺きの薬師堂。堂内には、正面に薬師坐像、左に十面千手観音像、右に聖観世音像を祀っている。筑紫四国第九十番札所として、平成17(2005)年まで春と秋のお彼岸に千人詣りが行われていた。

## 名称 地藏堂

登録番号 80072

時代区分 -

所在場所 通古賀1丁目(薬師山)



薬師山に位置する地藏堂。堂内には高さ72cm程の浮彫の自然石地藏菩薩像と、高さ153cm程の石造地藏菩薩立像が祀られている。このうち浮彫の自然石地藏菩薩像は、王城神社境内にある早馬大明神の地藏ともいわれている。

## 名称 手押しポンプ

登録番号 80074

時代区分 -

所在場所 通古賀1丁目(薬師山)



薬師山に所在する手押しポンプ。井戸の上に置かれているが、現在は横に水道が引かれておりポンプ自体は使用されていない。



## 名称 多々良橋碑(たたらばしひ)

登録番号 00081 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内にある石碑。もとは明治38(1905)年4月、鷺田川に架けられた多々良橋につけられていた親柱。その後、昭和33(1978)年3月に河川改修の為に解体され、同年8月に王城神社参道に記念として置かれることとなった。

## 名称 奉寄進碑

登録番号 00082 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内、多々良橋記念碑のそばにある石碑。64cmほどの高さで、碑面には「奉寄進」の銘が刻まれている。

## 名称 旗立石(王城神社)

登録番号 00083 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内にある高さ119cmの旗立石。皇紀2600年(昭和5(1940)年)を記念して青年会が寄進したもの。本来是一对のものだが、片方だけが現存している。

## 名称 石燈籠(王城神社)

登録番号 00084 時代区分 現代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内にある高さ206cm程の二基一對の石燈籠。昭和55(1981)年に再建された王城神社本殿の完成に併せて、同年5月に寄進されたものである。

## 名称 石幟(王城神社)

登録番号 00085 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社拝殿前に所在する高さ3.8mの石幟。残されている銘が、昭和2(1927)年に建立されたものであることが分かる。

## 名称 狛犬(王城神社)

登録番号 00086 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社拝殿前に所在する二基一對の狛犬。明治33(1900)年に職交社員・汎愛社員の方々によって寄進されたものである。また、製作を手掛けた石工は「福岡厳治町河内」と銘が刻まれている。

G地区(朱雀・通古賀・都府楼南・宰都)

名称 花立(王城神社)

登録番号 00087 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社拝殿前に所在する高さ77cm程の花立。明治23(1890)年8月に寄進されたものである。

名称 手水鉢(王城神社)

登録番号 00089 時代区分 近世

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社にある手水鉢。側面に残る銘から元禄15(1702)年9月、氏子によって寄進されたことがわかる。

名称 石燈籠(王城神社)

登録番号 00091 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内の末社前にある石燈籠。明治23(1890)年に建立されたものだが、現在は半壊した状態である。

名称 潮井台(王城神社)

登録番号 00088 時代区分-

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内にある高さ103cmの潮井台。潮井台とは、刻めるための砂を置いた台のことで、砂を潮井として使い、刻めた後に参詣に向かった。

名称 王城神社末社

登録番号 00090 時代区分-

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



本社左奥にあり、縁起に「大神宮・田神・金比羅・早馬大明神の四神を祀る」とある。この内の早馬大明神は、『筑前国純風土記拾遺』には大棟の下に石鉢があり国術につかえた田中熊別の後裔で、官道・駅路の駅を司った人の霊を祀ったものと記されているが、現在その所在は明らかではない。

名称 恵比寿神

登録番号 00092 時代区分-

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内に所在する恵比寿神で、クスノキの大木の根元に祀られている。高さ66cm程の大きさと、表面の「えびす」の表記は「恵比す買(ニスイ+オオガイ)」と刻まれている。



名称 恵比寿神

登録番号 00093 時代区分 現代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内に所在する恵比寿神で、他の恵比寿神や猿田彦大神と共にクスノキの大木の根元に祀られている。昭和45(1970)年3月に建立されたもので、高さ140cm程の石に篆刻で表すが彫られている。

名称 猿田彦大神

登録番号 00094 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内に所在する石碑で、他の恵比寿神と共にクスノキの大木の根元に祀られている。高さ130cm程の大きさで、表面には「猿田彦大神」と刻まれ、注連縄が掛けられている。

名称 板碑と五輪塔残欠

登録番号 00095 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内の一角にまとめて安置されている板碑や五輪塔残欠。それぞれの詳細な由来は不明であるが、なかには昭和八年初老記念」と彫られたものも確認される。

名称 鷺田川更正工事之碑

登録番号 00098 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内に所在する高さ155cm程の石碑。明治41(1908)年9月に行われた鷺田川の改修工事を記念したもので、村長・区長をはじめとする通古賀の人々によって建立されたものである。

名称 井戸跡

登録番号 00097 時代区分 -

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社境内に所在する石造物。近隣の人々の間では昔の井塚だといわれている。大きさは幅99cm・奥99cm・高さ32cmで、側面には奉獻の銘が残されている。

名称 神殿改築記念碑(王城神社)

登録番号 00098 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



王城神社の神殿改築を記念した石碑。幅120cm・奥37cm・高さ254cmの大きさで、吉岡鼓山の書によるもの。大正15(1926)年7月に数多くの人々によって建立されたもので、石碑裏面には寄進者の氏名が書き綴られている。

G地区(朱雀・通古賀・都府楼南・幸都)

名称 田中橋碑

登録番号 60099 時代区分 近代

所在場所 通古賀5丁目 王城神社境内



明治38(1905)年4月鷺田川に架橋され、その記念として海山巖により建立された。その後、橋の架け替えが行われたため、境内の現在地へと移された。幅27cm・奥26cm・高さ156cmの大きさで、石工は吉田友次郎と刻まれている。現在の田中橋は昭和60(1985)年3月に竣工している。

名称 宮座・真魚箸神事(まなほししんじ)(王城神社)

登録番号 60101 時代区分-

所在場所 通古賀5丁目 王城神社



真魚箸神事は神前で鯛に包丁を入れる儀式(座魚の儀式)で、王城神社の宮座で最も重要な儀式とされてきた。押殿で2匹の鯛を真魚箸を使って調理しその後の直会で氏子に振る舞うもので、これには神様のお下りを頂く意が込められている。

名称 旗立石

登録番号 60103 時代区分 現代

所在場所 通古賀5丁目 おうぎ館前



王城神社隣のおうぎ館前にある高さ147cm程の旗立石。明治百年を記念して、昭和43(1968)年7月に建立されたものである。また、台座には古代の礎石と思われる巨石が4つに割られて使用されている。

名称 大麻頒布式(たいまはんぶしき)祭(王城神社)

登録番号 60100 時代区分-

所在場所 通古賀5丁目 王城神社



大麻は古くは「おおぬさ」と読み、祈りが込められる神代文大切な部分(麻串・ぬさくし)に由来する。毎年12月5日に大麻頒布式が行われ、水城の十社の総代らが全て顔を描き、伊弉神宮大麻と合わせ、太宰府天満宮と各神社の神札が氏子に配布される。

名称 月次祭(水城地区の合同月次祭)

登録番号 60102 時代区分-

所在場所 通古賀5丁目 王城神社



月次祭は社頭神事(鼓神事)で、もとは「延喜式」神祇令に定められた祭礼。旧水城村には王城神社、老松神社、衣掛天満宮、関分天満宮、日吉神社、坂本八幡神社、鹿嶋神社、丸山神社、地祇神社、宝満宮・八幡宮の計十社があり、毎月1日に王城神社において月次祭を実施している。

名称 覆寺

登録番号 60132 時代区分-

所在場所 朱雀6丁目



太宰府市南部、菅原道真にゆかりの深い覆社は鎮座する地東の地名。覆社が安楽寺(太宰府天満宮)の末寺であった関係から、中世の安楽寺関連の古文書や記録に「覆寺」「覆木寺」の名を確認することができる。覆社は神串式の御旅所となっており、当日は多くの人出で賑わう。

## 名称 晴明の井と祠

登録番号 G0134 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目



平安時代の陰陽師安倍晴明が開いたと伝わり、涸れることなく、水を飲むと安産であるという信仰もあった。湧水量も多かったが、周りの竹藪が住宅地となり水量が減った。昭和40(1965～1974)年代までは井戸のほりに湧水池もあったが、豊に干上がり、梅雨時には水があるが、普段は涸れている。

## 名称 旗立石(菅原神社)

登録番号 G0136 時代区分 近代

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社にある一対の旗立石。村の氏子の人々によって明治11(1888)年に寄進されたもので、表面には「奉寄進」の銘が刻まれている。

## 名称 祠(菅原神社)

登録番号 G0138 時代区分-

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



祠に所在する祠。ブロック土台に木造トタン葺きの構架、幅83cm・奥行80cm・高さ100cm程の大きさの祠である。内訳は半壊らしき木像残欠がある。

## 名称 鹿嶋神社

登録番号 G0135 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社)



太宰府市朱雀4丁目に鎮座する神社。本殿は昭和13(1938)年、拝殿は20世紀中頃の建築である。現在(平成24年)も7月中旬には宮相摸が行われている。

## 名称 鳥居(菅原神社)

登録番号 G0137 時代区分 近代

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社参道の階段を登りきった場所にある石造鳥居で、大正10(1921)年4月に建立されたもの。書は吉野山によるもので、「天満宮」の扁額が掲げられている。

## 名称 センダン

登録番号 G0139 時代区分-

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社境内にあるセンダン(梅檀)の木。境内に、合わせて3本生育している。センダンはムクロジ目センダン科の植物の一種で、温暖な地域で見られる落葉高木である。

G地区(朱雀・通古賀・都府楼南・宰都)

名称 ムクノキ

登録番号 80140

時代区分-

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社境内にある樟(ムク)の木。本殿跡のそばに1本生育している。樟はニレ科ムクノキ属の落葉高木で、日本列島では関東地方以西の森林・山地に分布しており、菅原神社のように寺社地で見かけることも多い。また、毎年4〜5月頃には美しい淡緑色の小さな花を咲かせる。

名称 五輪塔残欠

登録番号 80142

時代区分-

所在場所 朱雀3丁目(覆納骨堂敷地内)



限屋の墓祠の後方にある五輪塔残欠。高さ58cm程のもので、建立年代など詳細は不明である。

名称 般若寺跡(はんにゃじあと)

登録番号 80144

時代区分 古代

所在場所 朱雀2丁目(般若寺跡)



般若寺は聖徳太子のことを記した『上宮聖徳法王帝説』の裏書に、筑紫大宰藤原日向が白雉5(654)年に孝徳天皇の病氣平癒を祈って建立したと記されている。所在地や由緒など諸説ある。朱雀2丁目(旧名般若寺)一帯が比定地の一つとして考えられている。

名称 六弁の梅

登録番号 80141

時代区分 現代

所在場所 朱雀3丁目(覆納骨堂敷地内)



限屋の墓傍の梅の木。戦前は一斗五升の実が採れ、区が購入し収入とした程の大木で、六弁の花も数多くつけていたが、樹勢が衰え昭和30(1955〜1964)年代に枯れたという。現在の梅は、墓のお世話をされている菊武氏が、先代の種から育て若木を植え直したもの。六弁の花を1割程度つけるという。

名称 菅原道真漢詩碑

登録番号 80143

時代区分-

所在場所 朱雀3丁目(覆スポット公園内)



菅原道真が詠んだ「秋夜」(漢詩集「菅家後集」より)が記されている石碑。高さ101cm程の御影石に、漢詩を記した銅版が貼りつけてある。この漢詩は、901年道真と共に太宰府にやってきた幼子限屋が、翌年病を得て急逝したため、道真がその落胆を著したものである。

名称 塔心礎石(般若寺跡)

登録番号 80145

時代区分-

所在場所 朱雀2丁目(般若寺跡)



般若寺跡に所在する塔心礎石。心礎とは塔の心柱の礎石のこと。中心に柱を受ける座や孔のあるものが多くみられる。般若寺跡の心礎は幅140cm・奥行165cm・高さ51cm程の大きさがあり、中央には直径72cm・深さ15cmの彫りこみが確認できる。

## 名称 般若寺(はんにゃじ)

登録番号 B0146 時代区分-

所在場所 朱雀2丁目



太宰府市の地名の1つ。古代寺院の般若寺があったとされる地域で、現在も塔心礎石や七重石塔が所在している。大宰府政庁から南南東へ約1.3kmの丘陵地域であり、古代は大宰府を一望できる地であったと考えられる。現在は西鉄二日市駅に近い利便性から一帯は住宅地となっている。

## 名称 鳥居(鹿嶋神社)

登録番号 B0148 時代区分近代

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社の参道に位置する鳥居。大正8(1919)年9月に氏子から寄進されたものである。

## 名称 石燈籠(鹿嶋神社)

登録番号 B0150 時代区分近代

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社境内にある石燈籠。昭和17(1942)年5月に奉獻されたもので、本殿に向かって右220cm、左225cmの高さである。建立以後、度重なる修理を受けながら現在(平成24年)に至る。

## 名称 旗立石(鹿嶋神社)

登録番号 B0147 時代区分近代

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社参道)



鹿嶋神社の参道入り口にある旗立石。大正10(1921)年3月に氏子から寄進されたものである。

## 名称 板碑と五輪塔残欠

登録番号 B0149 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社境内には板碑や五輪塔残欠と思われるものが多数祀られている。表面は磨耗しており銘文などは判別出来ず、それぞれの由来など詳細は不明である。

## 名称 御大典記念碑

登録番号 B0151 時代区分近代

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社境内にある高さ70cm程の御大典記念碑。御大典とは天皇即位の儀式を意味しており、この石碑は昭和3(1928)年に行われた昭和天皇即位を記念して、氏子により建立されたものである。

G 地区 (朱雀・通古賀・都府楼南・宰都)

名称 イチョウ

登録番号 80152 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社の拝殿脇に位置するイチョウの木。『太宰府市景観樹木調査報告書』によると樹高は17.70m・周囲2.32mの大きさである。毎年晩秋になると黄色く色づいて神社境内を彩り、遠くからも認められ、鹿嶋神社の秋を演出している。

名称 献木碑

登録番号 80154 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社境内に所在する献木碑。石碑の表面には「献木 けやき 大正五年」の銘があり、裏面には「昭和五十二年建之 献木者 八十三才翁 菊武賢太郎」と銘が彫られている。

名称 台座・旗立石残欠

登録番号 80153 時代区分-

所在場所 朱雀2丁目(菅原神社境内)



菅原神社境内にあるセンダンの木の根元には、台座や旗立石の残欠が1ヶ所にまとめられている。もともとは菅原神社境内に所在していたものと思われ、台座残欠には「奉寄進」、旗立石残欠には「明治三歳」の銘が確認される。

名称 手水鉢(鹿嶋神社)

登録番号 80155 時代区分-

所在場所 朱雀4丁目(鹿嶋神社境内)



鹿嶋神社の拝殿前に所在する手水鉢で、中は長方形に影られている。銘などは確認できず、由来など詳細は不明である。



隈廬公の墓(奥都城)と六弁の梅



# H地区① (吉松・青葉台・長浦台・向佐野・大佐野)

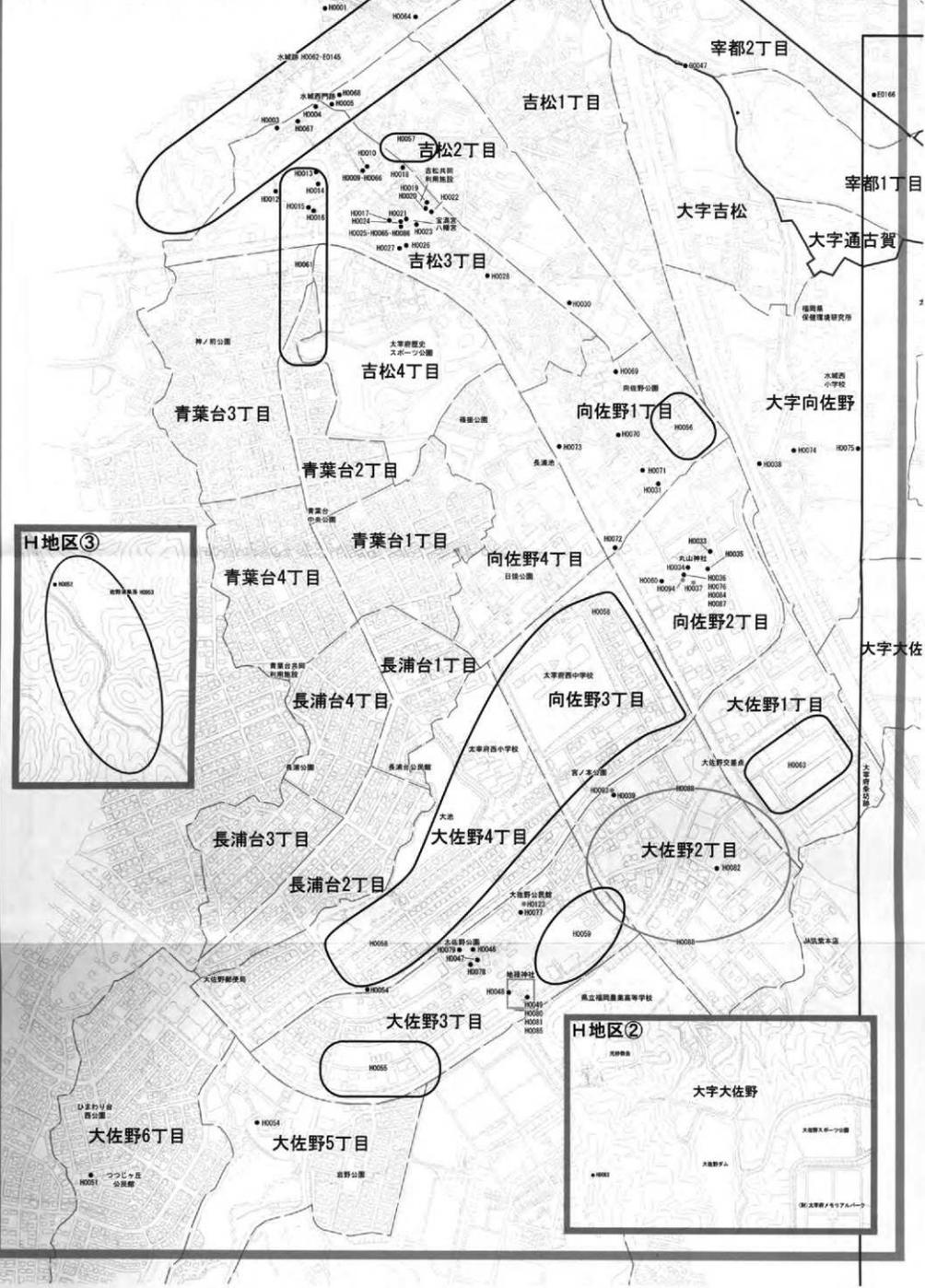




図 24. 地祿神社境内文化遺産配置図



名称 千手観音堂

登録番号 H0037 時代区分-

所在場所 向佐野2丁目(丸山神社境内)



千手観音と伝えられている石造十一面観音坐像、石造阿弥陀如来坐像、自然石の3体が祀られている。昔は観音講が行われており、札打ちの打ち始め所々安産祈願の神として賑わったという。御堂は昭和42(1967)年に寄進されたもので、平成15(2003)年の工事に際して解体移築を行っている。

名称 猿田彦大神

登録番号 H0093 時代区分-

所在場所 大佐野2丁目



大佐野2丁目に所在する大日如来堂の横で祀られている猿田彦大神。高さ112cm程で、正面左横には銘が残されている。大佐野には6体の庚申様(猿田彦大神)の石碑があったといわれ、この碑は字馬場で祀られていたものである。平成11(1999)年、区画整理に際して現在地へと移されている。

名称 鳥居(地祇神社)

登録番号 H0095 時代区分近代

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社境内に所在する石造鳥居。刻銘から明治9(1876)年に村民が協力して建立したものであることが分かる。平成14(2002)年、区画整理に伴い、当初の位置から現在地へと移設されている。

名称 おこうじんさま(おこうしんさま)

登録番号 H0088 時代区分-

所在場所 大佐野2丁目



大佐野で行われている庚申講。かつては大佐野の各組で行われていたが、平成22(2010)年現在は大佐野2丁目地区のみで行われているのみである。庚申の日に当番の家に集まり、庚申の掛け軸を掛け参拝した後、宴を始める。宴が終わった後、次の当番への申し送りを行っている。

名称 本殿(丸山神社)

登録番号 H0094 時代区分近代

所在場所 向佐野2丁目(丸山神社境内)



向佐野の産土神である丸山神社の本殿は幅・奥行が約1a程の正方形、高さが約2m程の石祠である。北北東に面して建つ祠の背面には「明治二十三年庚寅八月吉日建築 氏子中」の銘文が刻まれており、明治23(1890)年に氏子によって建立されたことが分かる。

名称 本殿の囲い(地祇神社)

登録番号 H0096 時代区分近代

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社本殿の周囲には明治38(1905)年11月に奉獻された玉垣が造られていたが、区画整理に伴う改築の際に失われてしまい玉垣は現存していない。現在、本殿は玉垣に代わり、金属製のフェンスで囲われている。

## 名称 花立(地祇神社)

登録番号 H0097 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社本殿前にある二基一対の石製の花立。本殿東側のものには「献」、西側のものには「奉」の銘が刻まれている。

## 名称 狛犬(地祇神社)

登録番号 H0098 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社拝殿前に位置する二基一対の狛犬。台座には大きく「奉献」の銘があるが、その他にも刻銘が残っており、大佐野に住んでいた古川氏が昭和14(1939)年12月に寄進したものであることが分かる。

## 名称 忠魂碑

登録番号 H0099 時代区分現代

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



神社境内に所在する忠魂碑。第二次世界大戦で戦没された方々の冥福を祈念し遺徳を後世に伝えるため、昭和55(1980)年に大佐野区長によって建立されたもの。碑文の書は太宰府天宮宮で神職を勤めた御田水月(御田良清)によるものである。

## 名称 石幟(地祇神社)

登録番号 H0100 時代区分近代

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社参道に位置する石製の幟。右柱には「神威輝四海 社堂 鶴崎尚 石工 久門堂一二」、左柱には「皇徳普万民 祝六一歳小島長吉 昭和三年十月建之」の銘が記されており、昭和3(1928)年10月に建立されたものであることが分かる。

## 名称 村社昇格記念碑(地祇神社)

登録番号 H0101 時代区分近代

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社境内に所在する石碑。無格社から村社への昇格を記念して、地元区長をはじめ古川氏・宮原氏によって昭和3(1928)年10月に建立されたことが分かり、境内の石幟と同時に建立されたものである。

## 名称 石燈籠(地祇神社)

登録番号 H0102 時代区分近代

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社拝殿前、参道に沿うように位置している二基一対の石製の燈籠。残された刻銘から、昭和3(1928)年吉日に村山氏が寄進したものであることが分かる。

H地区（吉松・青葉台・長浦台・向佐野・大佐野）

名称 石垣階段寄進碑(地祇神社)

登録番号 H0103 時代区分-

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社境内に所在する自然石を利用した寄進記念碑。残されている刻銘から、宮原氏が地祇神社へ石垣階段を寄進したことを記念して建立されたものであることが分かる。

名称 石垣階段寄進碑(地祇神社)

登録番号 H0104 時代区分近代

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社本殿へ登る階段脇に所在する石碑。花崗岩製の四角柱だが上部が欠落してしまっている。残されている刻銘から、大正15(1926)年12月に宮原氏・庄山氏が地祇神社へ石垣階段を寄進したことを記念して建立されたものであることが分かる。

名称 ムクの大木

登録番号 H0105 時代区分-

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社境内にあるムクの大木。幹周りが2.3m(2011年3月計測)程ある大きなものだが、落雷によって幹の途中から割れている。

名称 旗立石(地祇神社)

登録番号 H0106 時代区分-

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社境内にある石造鳥居の前面に、二基一対で建立されている旗立石。自然石を加工したもので、「奉寄進」の刻銘が現在でも読み取れる。

名称 狛犬(地祇神社)

登録番号 H0107 時代区分現代

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社鳥居の前面に所在する狛犬。個人の旭日小艇車受車を記念して、平成19(2007)年に建立・寄進されたものである。

名称 手水鉢(地祇神社)

登録番号 H0108 時代区分-

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社境内にある自然石を加工して造られた手水鉢。銘などは確認できない。現在は新しい手水鉢が設けられたため使用されていない。

## 名称 手水鉢(地祇神社)

登録番号 H0109 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社境内に所在する手水鉢。自然石を加工したもので、蓋が設けられている。この新しい手水鉢は、大佐野在住の原氏の寄進によるもので、手水鉢の傍らには銘が刻まれた石牌が建立されている。

## 名称 拝殿の絵馬(地祇神社)

登録番号 H0110 時代区分近現代

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社拝殿内)



かつて地祇神社拝殿には色彩豊かな22枚の絵馬が掛けられていた。現在も拝殿内部には明治10(1877)年、大正13(1924)年に奉納されたものが掲げられている。また、明治45(1912)年に行われた御国礼打(集団で巡礼)を記念して撮影された写真なども掲げられている。

## 名称 猿田彦大神

登録番号 H0111 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社境内で祀られている猿田彦大神。高さ115cm程の自然石で、正面左にも銘が残されている。

## 名称 恵比寿社

登録番号 H0112 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社本殿東側に所在する恵比寿社で、地祇神社の末社ともいわれている。石製の祠は高さ43cm・間口41cm程の大きさで、内部には御神体として自然石が祀られている。

## 名称 金毘羅社

登録番号 H0113 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



神社本殿西側に所在する金毘羅社。『筑前国統風土記附』や『福岡縣地理全誌』には末社として「金毘羅社」が記されている。石製の祠内には木祠があり、金毘羅社の木札が祀られている。また、祠内には小さな恵比寿像も併せて祀られている。

## 名称 龍塚

登録番号 H0114 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社本殿西側に位置する石祠で、地区の方々は「龍塚」と呼んでお祀りしている。以前は聖職音堂と共に個人宅敷地にあったが、区画整理により、平成15(2003)年に現在地に移転。気性の荒い神様という言い伝えがあり、移転の際は宮司が白布で丁寧に包み、背負って移動させたという。

H地区(吉松・青葉台・長浦台・向佐野・大佐野)

名称 潮井台(地祇神社)

登録番号 H0115 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社境内)



地祇神社境内に位置する潮井台。以前は年に2回、箱崎の浜や天祥山へタライを持って「お潮井」を探りに行き、地祇神社に奉納していた。その後、地域の各家を回り、玄関先に置いてある手籠に入れていき、家人は外出する際にお潮井を身体にかけて出かけていたという。

名称 秋籠り(地祇神社)

登録番号 H0116 時代区分一

所在場所 大佐野3丁目(地祇神社)



台風の時期も終わり収穫の目処がついたことを祝う御願成の神事として行われている神事。宮司による御願いの後、神詞をあげ、神事終了後には拝殿にて直会を行っている。これらの神事は氏子会が担っており、平成21(2009)年時は社名で構成されている。

名称 『大佐野区の歴史』-白石徳美氏の寄稿-

登録番号 H0123 時代区分現代

所在場所 大佐野2丁目



故白石徳美氏が90歳の時、大佐野区の回覧板(月刊大佐野区だより)に平成14(2002)年12月号から7回にわたって寄稿されたもの。当時の区長の依頼で書かれたもので、昔の様子、伝統行事、開発による移り変わりなど大佐野区に関する様々な事柄が分かる貴重な記録である。





## 名称 四王寺村

登録番号 10006

時代区分 近世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



江戸時代に開拓が進み『筑前国続風土記拾遺』には「正保四(1647)年より漸田園を開き、民屋を立て村の名とせり」とある。昔からのたたずまいを残しており、特に主城原の下に広がる一帯は古代大野城時代からの面影を伝えてくれる。毎年1月3日の「毘沙門天詣り」は住民をあげて運営されている。

## 名称 四王寺山三十三石仏 第19番札所

登録番号 10008

時代区分 近世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第19番札所は、小石垣の北西に位置している。高さ75cm程の凝灰岩に千手観音菩薩立像が彫られており、刻銘から江戸時代の寛永17(1640)年に宇美の人により建立されたことがわかる。

## 名称 四王寺山三十三石仏 第21番札所

登録番号 10010

時代区分 ー

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 屏風岩)



四王寺山三十三石仏の第21番札所は、四王寺山北部にある屏風岩の近くに位置している。高さ75cm程の花崗岩に聖観音菩薩立像が刻まれており、刻銘から太宰府の人により建立されたことがわかる。

## 名称 毘沙門堂への道

登録番号 10007

時代区分 ー

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)・太宰府市・大野城市



四王院の跡地の1つである「毘沙門」には毘沙門天を祀る御霊があり、古来より毘沙門天詣りの人々で賑わった。毘沙門天へは太宰府・坂本・国分・水城・大野城・宇美など周辺から道が通じており、太宰府口から四王寺村へ至る旧太宰府街道の途中には「毘沙門天」扁額のある鳥居が建立されている。

## 名称 四王寺山三十三石仏 第20番札所

登録番号 10009

時代区分 ー

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 鮎返り滝)



四王寺山三十三石仏の第20番札所は四王寺山北部の鮎返りの滝にあり、三宅荒神が祀られている。岩屋城合戦の死者を弔うため久留米地方の信者が建立したといわれている。滝の上には千手千眼観音菩薩坐像が祀られており、三十三石仏建立時はこちらが第20番札所だったのではと考えられている。

## 名称 四王寺山三十三石仏 第22番札所

登録番号 10011

時代区分 ー

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 百間石垣)



四王寺山三十三石仏の第22番札所は、四王寺山北部にある百間石垣のそばに位置している。高さ77cm程の花崗岩に十一面千手千眼観音菩薩立像が彫られており、刻銘から上須恵の人により建立されたことがわかる。現在も常にお花やお酒が供えられ、信仰の対象としてお参りする人が絶えない。

Ⅰ地区(四王寺山)

名称 四王寺山三十三石仏 第23番札所

登録番号 10012 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第23番札所は、四王寺山北部の四王寺林道沿いに位置している。高さ73cm程の花崗岩に十一面千手千眼観音菩薩立像が彫られており、刻銘から宰府の古川孫次をはじめとする人々によって建立されたものと分かる。

名称 四王寺山三十三石仏 第24番札所

登録番号 10013 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 八ツ波礎石群)



四王寺山三十三石仏の第24番札所は、四王寺山西部にある八ツ波礎石群の近くに位置している。高さ78cm程の花崗岩に十一面千手千眼観音菩薩立像が彫られており、刻銘から宰府の人により建立されたことがわかる。

名称 四王寺山三十三石仏 第25番札所

登録番号 10014 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門堂)



四王寺山三十三石仏の第25番札所は、四王寺山西部にある毘沙門堂の近くに位置している。高さ75cm程の凝灰岩に十一面千手観音菩薩立像が彫られており、刻銘から国分村の人々によって建立されたことがわかる。

名称 四王寺山三十三石仏 第29番札所

登録番号 10015 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山三十三石仏の第29番札所は、四王寺山南西に位置している。高さ101cm程の凝灰岩に聖観音菩薩坐像が彫られている。

名称 四王寺山三十三石仏 第33番札所

登録番号 10016 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 四王寺集落内)



四王寺山三十三石仏の第33番札所は、四王寺集落内に位置している。高さ91cm程の花崗岩に十一面観音菩薩立像が彫られており、刻銘から連歌屋の人々によって建立されたことがわかる。

名称 毘沙門堂

登録番号 10018 時代区分 中世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門堂)



応永11(1404)年に建立されたと伝わっており、中世の頃は一尺八寸の毘沙門堂の石像が本尊であったという。現在は江戸時代の寛保年間(1741~44)頃に制作された木像を御本尊としている。毎年1月3日に行われる「四王寺毘沙門堂詣り」は、多くの参詣者で賑わっている。



名称 四王寺毘沙門天詣り

登録番号 10019 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門天)



毎年1月3日、家内安全と商売繁盛を願う「四王寺毘沙門天詣り」が賑やかに行われている。賽銭台のお金を借り受けて持ち帰り、次の年に倍返しをすると1年間お金に不自由しないという。現在(平成22年)、行事は四王寺区民全戸6件の人々により行われ、宇美町の無形民俗文化財に指定されている。

名称 四王寺跡(四王院跡)

登録番号 10021 時代区分古代

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



宝亀5(774)年、新羅の呪詛を祓うために高麗浄地に仏像4体を造立し、僧4人に日夜読誦させることが大宰府に命じられており、これが四王寺(四王院)の創建を示すとされる。現在でも四天王の呼称である持国天・増長天・広目天・毘沙門天の地名が、山中の四つの峰に残っている。

名称 タバコ田

登録番号 10024 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 大谷)



江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」に記されている地名。四王寺の小字「大谷」地区に広がる田園地帯で、現在は四王寺地区の方が稲作を行っている。

名称 四王寺山の井戸 4 毘沙門天ノ井

登録番号 10020 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門天)



毘沙門堂階級下の鳥居近くにある石組みの井戸。昭和40(1965~1974)年代までは掃除が行われ、毘沙門様の水として釣瓶で汲んで使用していたという。その後、米軍の子供達が4~5段程ある長方形の井戸枠を全部内へ落としてしまったという。現在は危険なため手洗用の大石が被せられている。

名称 大日ノ塔

登録番号 10022 時代区分近世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



山中に祀られている高さ102cm程の石碑で「大野城太宰府旧蹟全図北」には「大日ノトク」と記されている。表面には大日如来を表す梵字があり、「享保二(1717)年十月吉日」「當村中」等の銘が残る。五穀豊穡の神として祀られ、7月27日には碑の前で火を焚き、ガメシバ万十を食べていたという。

名称 ホウシ田・ブウシ田

登録番号 10025 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 大谷)



江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」に「ホウシ田」と記されている地名。現在の小字「大谷」地区に広がる田園地帯であり、地元の方々は通称「ブウシ田」と称している。

I 地区（四王寺山）

名称 ヒヤケ谷・ヒヤケ

登録番号 10026 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 大谷)



江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」に「ヒヤケ谷」と記されている地名。現在の小字「大谷」地区に広がる田園地帯の南端にあたり、地元の方は通称「ヒヤケ」と称している。

名称 茶臼山・チャウスヲ・チャウン

登録番号 10029 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 茶臼山)



江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」に「チャウスヲ」と記されている地名。現在でも小字は「茶臼山」であり、地元の方は「チャウン」と呼んでいる。

名称 中谷(ナガタニ・長谷)

登録番号 10031 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 長谷)



「大野城太宰府旧蹟全図北」に「中谷」と記されている地名。地元の方は「ナガタニ」（長谷）と呼んでいる。現在は、隣接する大谷地区と併わせて、四王寺村における稲作の中心地である。

名称 モチ谷、ラクノ谷(オクダン)

登録番号 10028 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 村上)



「大野城太宰府旧蹟全図北」に「モチ谷」「ラクノ谷」と記されている地名の1つ。現在も地名として残っており、「ラクノ谷」は「オクダン」とも呼ばれている。場所は尾花磯石群から村上磯石群に至る地域の山並み一帯で、広く深い谷は名の通り「奥の谷」を表している。

名称 キウヤノ山

登録番号 10030 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



「大野城太宰府旧蹟全図北」に「キウヤノ山」と記されている地名。四王寺村の北側に位置し林道に向かって延びている尾根を、地元の方は現在も「キウヤノ山」と呼んでいる。以前は山間の奥まで田が開けていたが、水害により崩れている。現在は村落付近が作地として利用されている。

名称 石材切り出場

登録番号 10032 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 猫坂)



四王寺山中に所在する石材切り出場。大きな岩場であり、現在も巨石が点在している。地元の方によると、太宰府口城門跡上方にある尾沙門天の鳥居はこの岩場から切り出して作られたものだという。

## 名称 ドンドン原・ドンドンオトシ

登録番号 10033 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 前田)



四王寺山に残る地名の1つ。江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」には「ドンドン原」という地名の記載がある。現在、四王寺地区の方々はその下方の平地部を「ドンドンオトシ」と呼んでいる。

## 名称 ヒノマル

登録番号 10037 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山に残る地名の1つ。「大野城太宰府旧蹟全図北」には記されていないが、地元の方々が呼称している地名である。「タバコ田」「ホウシ田」「ヒヤケ田」などがある大谷地区に位置している。

## 名称 由来不詳の石造遺物(5)

登録番号 10039 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺集落の入り口に所在する石造遺物で、60cm・43cm程の大きさである。形状から何かの台座かと思われるが、詳細は不明である。

## 名称 ビシャモン田

登録番号 10034 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 ハツ波)



地元の方によると、昔より「ビシャモン田」と呼ばれている場所があり、毘沙門奉納や収穫祭などが行われていたという。「大野城太宰府旧蹟全図北」には「ヤツナミガ原」の近辺に「田」や「島」と記されている場所があり、これらが「ビシャモン田」と考えられる。

## 名称 四王寺山のビューポイント 7

登録番号 10038 時代区分現代

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 北石垣)



北石垣の上部はぼ中央、修復された石垣の東側、「主城原へ小石垣へ・北石垣へ」の標識より西へ約30mの所、杉林が途切れている間から博多湾が一望できる。手前には井野山と工場群があり、福岡市街地へと続いている。視界は右から立花山、海の中道、玄界島、左端に能古島と広がっている。

## 名称 由来不詳の石造遺物(6)

登録番号 10040 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 ハツ波礎石群)



四王寺山三十三石仏24番札所で祀られている十一面千手千眼観音菩薩立像の横に所在する石造遺物。並ぶように置かれていることから何らかの碑とも考えられるが、由来など詳細は不明である。

I 地区（四王寺山）

名称 境界石

登録番号 10041 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



毘沙門天への登り石段の途中にある石造遺物。底辺の幅が36cm・奥行が30cm程のもので、表面には「山」と彫られている。地区の方によると、私有林と県行造林との境界を示す境界石であるという。

名称 由来不詳の石造遺物(7)

登録番号 10043 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



四王寺山山中に所在する石造遺物。人工的に加工された跡が残されている。

名称 クロガネ岩

登録番号 10045 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



「大野城太宰府田賦全圖北」に「クロカ子岩」と記されている地名。屯水跡から約50m上った尾根の右側には、高さ約10m・長さ約30mに亘って大きな岩壁が続いている。この崖地が、図に描かれている地点及びその形状から「クロカ子岩」又は「エンゲウ岩」ではないかと推定されている。

名称 井戸柱の台石

登録番号 10042 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門天)



毘沙門天堂の近くにある石造遺物。縦70cm・横90cm程のもので中央には正方形の穴がある。地区の方によると、以前使われていた毘沙門天の井戸の柱を建てた台石であったという。

名称 由来不詳の石造遺物(8)

登録番号 10044 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



「ケイサシの井」の側に所在する石造遺物。高さ27cm・幅45cm・奥行22～30cm程のもので、人工的に加工された跡が残っている。

名称 出水推定地

登録番号 10046 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 毘沙門天)



「大野城太宰府田賦全圖北」には、四王寺山北西部の土塁跡付近に「出水アリ」と記載がある。付近では昭和53(1978)年に大野城で初めて水門跡と思われる遺構(屯水)が確認されており、湧き出る水に関連してここに水門施設等があった可能性がある。

名称 **ハツナミカ原、ヤシキアト**登録番号 **10047** 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 ハツ波)



「大野城太宰府旧蹟全図北」に記されているハツ波磯石群付近の地名。「五三津和帝ノ比ニヤ ヤス郡ミナミ村ノ辺ニハツナミ長者ト云アリシカ四王寺ノ城ニ出動駿ヲウタレシ故四王寺ヲツツミノ岳ト云」と注記がある。筑前町大字三並に「ハツ波」の地名があり、ハツナミ長者の出所とも考えられる。

名称 **ヤシキアト**登録番号 **10049** 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 ハツ波)



「大野城太宰府旧蹟全図北」のハツ波磯石群付近に記されている地名。ハツ波磯石群が段造成状を呈しており、年代は不詳ながら幾つかの石垣もみられることから、何らかの「屋敷跡」ではないかと考えられる。

名称 **主城ヶ原**登録番号 **10051** 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺)



調査でも主城原礎石群には14棟の建物があり、3×7間の長棟の官衙風の摺立柱建物も確認されている。「大野城太宰府旧蹟全図北」に「主城ヶ原」と記され、「三ノ丸石スエ」や「此処主殿職ノ居処」とあり、主城司が居を構えたことが伝えられていたことが分かる。

名称 **勝田方面からの道**登録番号 **10048** 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺・原田)



宇美町勝田方面から四王寺山へ向かう道の1つ。宇美町は三浦勝田鉱業所をはじめとする数多くの炭鉱で栄えた町であり、その当時から多くの人達がこの道を登って四王寺山や毘沙門堂を目指したと思われる。

名称 **チゾウ**登録番号 **10050** 時代区分-

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 村上)



「大野城太宰府旧蹟全図北」で四王寺村の東に記されている地名。大正15(1926)年の『史跡名勝天然記念物調査報告書』では、「地蔵辻と称し土人は『ソウガ原』と云う、此の所、主城司の遺跡と伝う、丘陵平らかなる地多く、いたる所に礎石を残せり」と記録されている。

名称 **百間石垣**登録番号 **10052** 時代区分近世

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 百間石垣)



江戸時代に描かれた「大野城太宰府旧蹟全図北」では、「長百間高サ二丈」と百間石垣の様子を描いている。現在は広く知られ見学者も多い百間石垣であるが、江戸時代後期には、既に長さ百間(約180m)高さ二丈(約6m)の大きさが確認されていた事が、この記録から判明する。

I 地区（四王寺山）

名称 宇美口城門跡

登録番号 I0053

時代区分 -

所在場所 市外(糟屋郡宇美町四王寺 百間石垣)



「大野城太宰府旧蹟全図北」に百間石垣より「十二間下 門ノ石スエ」とある。これは宇美口城門の門礎と考えられ、百間石垣が途切れる現在の林道を跨ぐ付近に城門があり、門礎が残っていたと思われる。現在は礎石の一つが県民の森センター内、もう一つが宇美町歴史民俗資料館に置かれている。

名称 クロガネ岩城門跡

登録番号 I0055

時代区分 古代

所在場所 市外(糟屋郡宇美町)



特別史跡大野城跡で9ヶ所目に確認された城門跡。近世の絵巻や文献史料にみえる「クロカ子岩 門ノ石スエ」などの記載と一致しており、城門名も史料に基づいて命名された。調査によって、城門の両側の石積み・唐居敷の石材・須恵器や土師器の破片などが確認されている。



岩屋城からの眺め

## 附編

## 1. 文化遺産調査ボランティアの活動

## (1) 平成24年度の文化遺産調査ボランティアの活動概要

この活動の開始にいたる経緯については、『太宰府市文化遺産情報 1』（太宰府市の文化財第115集、太宰府市教育委員会、平成24年）に詳しく記されています。ここでは、平成24年度の活動内容について紹介します。

## (2) 文化遺産調査ボランティア勉強会

本年度は、毎月第2金曜日午前中に開催しました。ここでは、これまでの活動について、いくつかのポイントにしばって一緒に考えていくことをめざしました。

ひとつは、それぞれの地域で行われている鎮守さまのお祭りや神事といった行事について学んでみることです。森弘子氏（福岡県文化財保護審議会委員、太宰府発見塾々長）の監修のもとで作成されたDVD映像を見ながら、森氏本人の解説も交えて、行事の様子をより具体的に知ってもらおうという試みでした。こうした行事は季節ごとに行われますので、その時期に適った映像を見て、実際に参加してみることもできるようにしました。

もうひとつは、昨年度も行ったところですが、史料の講読です。これはもともと、文化遺産調査のなかでボランティアのみなさんが調査されたモノ・コトが、これまでどのように伝えられ、守られてきたかを追いかけてみようというものでした。本年度は、奥村玉蘭の『筑前名所図会』を講読しました。今回は、写本を用いることによって、くずし字や変体仮名に親しんでみることも意図しました。その点では少し難しかった面もあったかもしれませんが、ちょうど、始まりが宝満山でしたので、ここでも宝満山研究の第一人者である森氏による詳細な解説を交えて読み進めることができました。

## (3) 文化遺産調査ボランティア活動の現状

本年度は、新たな活動として日田街道班による調査が始まりました。この調査においては、単に太宰府市域を通過する日田街道のみならず、筑紫野市域、福岡市域にまで調査範囲を広げて、道としての日田街道の全体像を把握することが行われています。さらに道筋に所在する文化遺産についても拾い上げを行い、新たな文化遺産も見いだされています。また、それを地図上に落としてみるという試みもなされています。こうしたことを通じて、これまでに把握されていた文化遺産についても街道という視点から新たな位置づけが可能なのではないか、と考えています。

また本年度は、文化遺産調査の地域への還元ということもひとつの成果としてあげることができると思います。これまで各小学校班を中心に行われてきた調査成果を地域にお住まいの方々に広く知らせることをめざしたものです。このことによって、地域の方々に、身近に存在する文化遺産の存在に気づいてもらい、それらを守り育てる意識を共有できるようにすることが重要だと考えたからです。こうした活動がすでに実を結



文化遺産調査ボランティア勉強会の様子

びつつあります。

たとえば、国分小学校校区班では、「水城・国分地区文化遺産巡り-太宰府市文化遺産調査-」という散策マップを作成し、これを用いて、地域の方々との文化遺産巡りを計画されました。一度は雨のため中止となりましたが、12月9日(日)に実施されました。この日も、あいにく雪の舞う天候でしたが、それでも地域の方々を中心に16名が参加されて、その関心の高さをうかがうことができました。今年の春にもリベンジ



国分小学校校区の文化遺産巡りのようす

を期して開催される予定になっています。またたとえば、地域の文化祭などの場を借りて、文化遺産調査の成果を広く知ってもらおうという活動も行われています。

本年度は、太宰府西小学校校区の合同文化祭「くくりん祭」において、昔と今の写真を用いて地域の移り変わりを示した展示が行われ、また会場では「市民遺産」の広報活動も行われました。さらには、水城西小学校校区班では、地域にお住まいの方々を中心となって、文化遺産調査ボランティアの方々も加わり、太宰府市教育委員会文化財課の協力のもと、月に1回の勉強会が開催されていました。これに参加されていた方々が母体となって、「水城跡(西地区)周辺歴史の散歩」という散策マップが作成され、また史跡・文化遺産の案内板、名称板、道標の現地設置も行われています。いずれも手作りで作成されたものです。

さらに、太宰府市民遺産第3号「かつてあった道「四王寺山の太宰府町道」」の提案団体である四王寺山勉強会によって、『四王寺山三十三石仏(観音札所)現況調査報告書』が作成されました。これまでの三十三石仏に関する調査研究を踏まえて、それらに現地踏査を重ねた成果を加えて、充実した内容の報告書として完成しました。これも、数年にわたって四王寺山班として実施された調査成果が見事な形で結実したものといえます。

このような調査のまとめは、各小学校区班等を中心に、随時進められています。これらの成果をどのような形で広く市民のみなさんに知っていただくか、あるいはまた、日常のおこない、行事などに関する情報の収集、追加の文化遺産情報の収集ならびに調査、また新規文化遺産の調査、



「くくりん祭」で展示された昔と今の航空写真

および文化遺産に関するその後の追跡調査なども、今後の課題として考えていかなければならないと思います。(財)古都大宰府保存協会 重松)



## 2. 基本文献一覧

文化遺産調査に際して、参考となる文献を記載しています。手引き的なものから専門的なものまで記しています。また、太宰府の文化遺産を知る上で必要となる資料は、これだけではありません。ここに記した書物・資料から広げていくなり、探索していただきたいと思います。

なお、ここに記した資料は、下記機関にて保管しています。ご覧になりたい方は、事前にご連絡いただき、所蔵施設内で閲覧いただきたく御願いたします。これらの資料の外部貸出は行っておりません。ご注意ください。

### ■所蔵機関

太宰府市史資料室（太宰府市文化ふれあい館 2階）

電話：092-921-2322

太宰府市教育委員会文化財課調査研究室（太宰府市文化ふれあい館 2階）

電話：092-924-8533

## 基本文献一覧

### ■古典

『**太宰府旧蹟全国**』北園・南園 作者不詳 1812(文化9)年写

六度寺の僧船買法印の書と推定され、制作年代は不詳ながら文化3年の可能性が高い作品。古代の大宰府の範囲を描き、その内外の地名、旧蹟を知ることができる絵画資料。北園は大野城から二日市あたりまで、南園は二日市から基山(佐賀県基山町)までを描く。

『**筑前国統風土記**』貝原益軒 1709(寛永6)年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。

『**筑前国統風土記 附録**』加藤一純 1806(文化3)年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。先の『筑前国統風土記』を編纂する際に収集された諸情報の中で、『統風土記』に記載されなかったものを編纂。

『**筑前国統風土記 拾遺**』青柳種信 1835(天保6)年

旧筑前国の旧蹟、風土について記されており、江戸期における太宰府を知ることができる。先の『筑前国統風土記』を編纂する際に収集された諸情報の中で、『統風土記』ならびに『同 附録』に記載されなかったものを編纂。

『**太宰管内志**』上中下巻 伊藤常足 1841(天保12)年

本書が著されるまでに記された歴史書、地理書などを網羅した辞書。旧大宰府管内の九国二島に関する史料が記述されている。

『**筑前名所図会**』奥村玉蘭 1821(文政4)年

筑前国に起こった様々な事件を歴史絵図として後生に伝えようとして描かれたもの。江戸期の太宰府を知る上で貴重な絵画資料。(1985年文献出版より復刻)

### ■通史

『**太宰府史鑑**』高原謙次郎・江島茂逸 1903(明治36)年 菅公会

明治35年、菅公一千年大祭に際して編纂された太宰府史で、太宰府の歴史、旧跡までの記述が行われている。(文献出版より昭和50年に復刻)

『**太宰府小史**』太宰府天満宮 1952年

昭和27年、菅公一千五十年大祭に際してまとめられた太宰府史で、上代(古代)、中世の太宰府史ならびに伝説・史跡についての記述が見られる。(西高辻信貞氏により昭和55年復刻)

『**福岡県史**』第1～4巻 福岡県 1962～1965年

福岡県の通史として編まれたもの。

『**福岡県の歴史**』福岡県 1981年

福岡県史編纂を前に普及版として刊行。

『大宰府の歴史』全7巻 (財)古都大宰府を守る会 1984～1987年

昭和58年4月から昭和60年3月まで、第一線の研究者を講師として開催された「太宰府アカデミー」の講義録

『太宰府市史』全13巻 太宰府市 1992～2005年

太宰府市の自然・歴史・美術・民俗・建築など、太宰府を知る上で重要な書。

『太宰府紀行』(財)古都大宰府保存協会 2011年

太宰府にある様々な文化遺産について分かりやすく解説。太宰府にある「今」を意味とともに伝える書。

#### ■時代史・地域史・分野史

『大宰府都城の研究』鏡山猛 1968年 風間書房

大宰府条坊の存在を平安時代の文献と歴史地理学的手法を用いて論証。その後の大宰府条坊研究の基礎を築く。

『古代の大宰府』倉住靖彦 1985年 吉川弘文館

大宰府前史から大宰府成立までの歴史を概説的に解説。

『古代を考える 大宰府』田村圓澄 1987年 吉川弘文館

大宰府前史から大宰府成立までの歴史を概説的に解説。

『遠の朝廷 大宰府』杉原敏之 2011年 新泉社

太宰府における埋蔵文化財調査成果を踏まえ、太宰府の歴史を紹介。

『邪馬台国と大宰府』長沼賢海 1968年 太宰府天満宮文化研究所

長沼賢海氏の論著を集めたものだが、筑前国府所在地に関する論考などを所収

『大宰府と観世音寺』高倉洋彰 1996年 海鳥社

観世音寺の歴史を大宰府との関係を併せて解説。

『菅原道真と太宰府天満宮』上下巻 太宰府天満宮文化研究所編 1975年

昭和52年、菅公一千七百五十五年大祭に際して記念事業として刊行された書。御祭神である菅原道真公から太宰府天満宮に関する論文を集録。

『天神さまと二十五人』太宰府天満宮文化研究所編 2002年

太宰府天満宮の御祭神菅原道真に纏わる人々を取り上げ解説する。

『宝満山の地宝』小田富士雄編 1982年 太宰府天満宮文化研究所

宝満山を舞台に行われた学術調査の成果報告書

『宝満山歴史散歩』森弘子 2000年 葦書房

宝満山に残された文化遺産を解説

『宝満山の環境歴史学的研究』森弘子 2009年 岩田書院

宝満山の学術的研究成果、文献・考古など幅広い分野からの分析と論考が記されている。

『大宰府発見 歴史と万葉の旅』森弘子 2003年 海鳥社

万葉集をはじめとする万葉の世界を覗きながら、大宰府(太宰府)の歴史を解説。

『大宰府万葉の世界』前田淑 2007年 葦書房

大伴旅人、山上憶良等による大宰府を中心に形成された「筑紫歌壇」を中心にまとめた書。

『太宰府天満宮連歌史』I～IV 川添昭二・棚町知彌・島津忠夫編著 1980～1987年

文道の神として室町時代から崇敬された菅神のもとで執り行われた連歌の神事、その時歌われた連歌資料を集成。

『福岡県碑誌』筑紫之部 荒井周夫 1929年

福岡県内にある歌碑・句碑などを集成。

『福岡県の文学碑』近・現代編 大石實編著 2005年 海鳥社

福岡県内にある歌碑・句碑など文芸作品を普及する目的で建てられた碑を集成。作者、所在地、

碑文に至るまで細かく解説されている。

『わがまち散策 太宰府への招待』太宰府市総務部企画課編 1990年

昭和49年1月から広報ださいふに連載された文化財シリーズの内、13年分をまとめて編集したものの。

『太宰府伝説の旅(改訂版)』大隈和子 2010年 (財)古都大宰府保存協会

太宰府に残る昔話、言い伝えを分かりやすく解説。

『福岡県農地改革史』農地委員会福岡県協議会 1950年

福岡県の農業に関する通史。農業を視点として記しており、地主制度など詳細に記されている。

『筑紫の歴史と農業』白水昇 1975年 筑紫の歴史と農業刊行会

原始から現代に至るまでを農業史の観点から記述。

『郷土読本』水城尋常高等小学校 1937年

旧水城村の郷土史を記した書。時の記念日の行事や、史跡などが記されている。

『おのこが風土記』太宰府市通古賀区 2003年

地域史を地域の住民がまとめた書。自らの歩みも記され、一般書には決して記されることのない、受け継いできた「生の歴史」がある。

『学院物語』矢木信男 2006年 (株)梓書院

学院中学校について、その起こりから今に至る歴史を記す。

『太宰府一人と自然の風景-』太宰府市文化ふれあい館 2002年

太宰府の自然や風景を、写真・絵画資料を使って概説。特に絵画資料は、各時代の太宰府への印象・姿を知る上で参考になり、手引き書として活用できる。

『福岡県史 民俗資料編』福岡県 1988年

太宰府市新町・北谷についての民俗調査成果を記載。

『福岡県の地名』平凡社 2004年

福岡県にある地名、旧跡、遺跡などを記載。

『福岡県百科事典』上下巻 西日本新聞社 1982年

福岡県における歴史、産業、文化など23分野にわたる事項について記している。

『日本建築史図集』日本建築学会編 1949年 彰国社

日本における建築物に関する概説書。堅穴住居から現代建築までを記載。

#### ■史料・年表

『福岡県史資料』第1～10輯 続第1輯 続第4輯 福岡県 1932～1943年

福岡県に関わる様々な史料を抽出し掲載。文化年間伊能忠敬測量日記や田畑石高帳、伝記など多岐にわたる史料が掲載されている。

『大宰府・太宰府天満宮史料』太宰府天満宮 1964～2006年

大宰府及び太宰府天満宮に関する文献史料を網羅。太宰府を研究するための基本史料集。

『大宰府古代史年表』重松敏彦編 2007年 吉川弘文館

536年から1156年までの大宰府で起きた出来事を年表形式で集成。また大宰府に関わった官人一覧も附記。

『日本古典文学大系』I～100巻 岩波書店 1957～1967年

万葉集、風土記、日本書紀などを掲載した大系書

#### ■調査報告書

『福岡県地理全誌』福岡県 1880(明治13)年

新政府によって明治初期に行われた地誌編纂で編まれた書。福岡県の農産物、地理、歴史が記されている。(『福岡県史』近代資料編に再録)

『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第1輯～第16輯 福岡県 1925(大正14)～1952(昭

和27)年

大正から昭和にかけて調査された史跡や天然記念物、名勝の有り様を知る上で重要。

『太宰府史跡 発掘調査年度概報』九州歴史資料館 1971～1999年  
太宰府市内の史跡指定地内で行われてきた埋蔵文化財の学術調査概要の報告書

『太宰府史跡発掘調査報告書』Ⅰ～Ⅵ 2001～2010年継続  
市内の史跡で行われている埋蔵文化財学術調査の報告書

『太宰府政庁跡』九州歴史資料館 2002年  
特別史跡大宰府跡の中心的位置にある大宰府政庁跡で行われてきた学術調査の報告書。

『観世音寺』全5冊 九州歴史資料館 2006年  
史跡 観世音寺で行われてきた学術調査の報告書

『水城跡』上下巻 九州歴史資料館 2009年  
特別史跡水城跡で行われてきた学術調査の報告書

『大宰府政庁周辺官衙跡』Ⅰ・Ⅱ 九州歴史資料館 2010・2011年  
大宰府政庁前面城(南城)で行われてきた学術調査報告書。

『太宰府条坊跡 - 太宰府市の文化財 -』ほか 太宰府市教育委員会 2012年継続  
太宰府町ならびに市として行ってきた文化財調査の報告書。市域に所在する大宰府条坊跡をはじめ筑前国分寺跡、水城跡などを報告。

『中世墓資料集成 - 九州・沖縄 -』中世墓資料集成研究会 2004年  
2004年までの福岡県内の中世墓制に関する論文、資料を集成

『中世墓資料集成 - 補遺編 -』中世墓資料集成研究会 2007年  
2007年までの福岡県内の中世墓制に関する論文、資料を集成

『太宰府の民俗』第1・2集 太宰府市史編集委員会 1990・1992年  
太宰府市史編纂事業にともない実施された民俗調査に関する報告書。集録地域：水城・国分・坂本・大佐野・向佐野・吉松、その後は太宰府市史 民俗資料編として続括掲載。

『太宰府の民俗』Ⅰ 太宰府市文化ふれあい館 2011年継続  
市内のお宮で行われている宮座ならびにワラ鞠い技術に関する調査報告書

■論文・機関誌

『筑紫史談』第1集～90集 筑紫史談会 1914～1945年  
筑紫に関する歴史・地理の論文集。大正から昭和前期にかけての歴史的な関心事や、当時の太宰府の様子を多様な視点で知る上で貴重な史料。

『太宰府古文化論叢』上下巻 九州歴史資料館編 1983年 吉川弘文館  
九州歴史資料館開館10周年を記念して発行された大宰府(太宰府)に関する論文集

『九州歴史資料館 研究論集』1～36 1975～2011年継続中  
太宰府を中心に九州をフィールドとして、文献・考古・工芸など多分野の論考を集録。

『都府楼』1～43号 (財)古都大宰府保存協会 2011年継続  
昭和61年から発刊されている古都大宰府保存協会の機関誌で、その時々々の話題や、文化遺産に関する論考などを多彩に掲載する。

『年報 太宰府学』1～6 太宰府市 2007～2011年  
太宰府市史資料室の編集になる紀要。太宰府に関わる様々な論考、文献目録、資料目録等を掲載する。

■史跡保存史

『古都大宰府保存への道』(財)古都大宰府保存協会 1994年  
大宰府保存運動について江戸時代から現代までの歩みを記す。

注 索引は、本書掲載分とともに『太宰府市文化遺産情報1』に掲載したのもも別記しています。

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
水城跡	みずきあと	H0062	1	131
水城跡	みずきあと	F0145	1	77

1. 『文化遺産情報1』掲載ページ  
2. (本書)

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
■あ行				
東渡山梅宮待從誕生之碑	あいでのむらやまのむじごうせいじのう	H0164	2	18
青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色	あおやまどおりとあしがひがひらどおりこうまてみかみのけしき	D0039	2	26
青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色	あおやまどおりとあしがひらどおりこうまてみかみのけしき	D0040	2	26
青山通りと東ヶ丘通り交差点からの景色	あおやまどおりとあしがひらどおりこうまてみかみのけしき	D0041	2	26
秋鹿(地祇神社)	あきこも	H0116	2	92
秋鹿神社	あきこじんじや	A0015	1	17
浅川家墓	あさかひのぼろ	H0015	1	125
朝日地蔵堂	あさひぢぞうどう	F0115	1	104
朝日橋	あさひはし	H0043	1	31
朝日橋開運石三本	あさひはしひらくせんせちさんぽん	H0044	1	31
朝日山遺跡石仏塔群	あさひやまのいせきせきぶつたぐん	F0116	1	104
天宮山安楽寺大宰府天満宮 校坊校墓所	あまがはらやまのあんらくじだまがはらてんまんぐう けいぼうけいぼ	H0009	1	26
阿蘇陀三尊梵字板碑	あそださんぞんぼんじばん	F0248	2	56
育成会・子孫会(東ヶ丘区)	いづみせいごんごほ	D0035	2	25
池(成瀬院)	いけ	F0307	2	66
池ん谷の池	いけのたにのいけ	H0083	1	135
石臼	いしうす	F0298	2	65
石臼	いしうす	F0300	2	65
石垣(個人宅)	いしがき	D0015	1	55
石垣延長記念碑	いしがきえんじやきねんいせき	G0079	2	76
石和路段峯産神(地祇神社)	いしがきだてみんさんじん	H0103	2	90
石和路段峯産神(地祇神社)	いしがきだてみんさんじん	H0104	2	90
石和段峯之碑	いしがきだてみんさんじん	F0188	2	46
石こづん(ばい伝説地)	いしこづん(ばいでんせつち)	H0067	2	18
石籠(秋葉神社)	いしごろう	A0184	2	12
石籠(坂本八幡神社)	いしごろう	F0165	2	43
石籠(オカッテンサン)	いしごろう	F0186	2	46
石籠(オカッテンサン)	いしごろう	F0189	2	47
石籠(日吉神社)	いしごろう	F0198	2	48
石籠(日吉神社)	いしごろう	F0199	2	48
石籠(日吉神社)	いしごろう	F0203	2	49
石籠(観世音寺)	いしごろう	F0258	2	58
石籠(成瀬院)	いしごろう	F0292	2	64
石籠(成瀬院)	いしごろう	F0293	2	64
石籠(王城神社)	いしごろう	G0076	2	76
石籠(王城神社)	いしごろう	G0084	2	77
石籠(王城神社)	いしごろう	G0091	2	78
石籠(龍馬神社)	いしごろう	G0150	2	83
石籠(地祇神社)	いしごろう	H0102	2	89
石灯籠	いしどうろう	H0018	1	27
石灯籠	いしどうろう	F0042	1	93

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
石燈籠(常夜燈)	いしどうろう	F0047	1-	93
石のある風景	いしのあるふうけい	F0007	1-	88
石蔵(坂本八幡神社)	いしのくら	F0162	2-	42
石蔵(日吉神社)	いしのくら	F0197	2-	48
石蔵(王城神社)	いしのくら	G0085	2-	77
石蔵(熊塚神社)	いしのくら	H0100	2-	89
板碑	いたび	F0205	2-	49
板碑	いたび	F0288	2-	63
板碑	いたび	H0027	1-	127
板碑	いたび	B0006	1-	25
板碑	いたび	B0084	1-	38
板碑	いたび	B0100	1-	39
板碑と五輪塔残欠	いたびとごりんとうざんけつ	G0095	2-	79
板碑と五輪塔残欠	いたびとごりんとうざんけつ	G0149	2-	83
一字一石	いちじつせき	D0003	1-	54
一のイデ(小野井干または一番井干)	いちのいで	A0004	1-	11
市ノ上遺跡	いちのうえいせき	G0019	2-	73
市ノ上橋碑	いちのうえはし	G0016	2-	73
イチョウ	いちょう	H0152	2-	84
イチョウ・ケヤキの街路樹	いちょうけやきのがいりくじゅ	G0020	2-	74
一丁街道拡張工事記念碑	いちぢょうかいどうかくちこうじこうしきねんひ	A0050	1-	17
井戸(戒壇院)	いど	F0295	2-	64
井戸	いど	A0032	1-	15
井戸跡	いどあと	G0097	2-	79
井戸住の台石	いどばしらのだいし	I0042	2-	100
稲子稲	いなこむね	E0115	1-	76
井上哲次郎生誕地碑	いの上てつじろうせいだんち	C0018	1-	49
今工地蔵ほか	いまのうぢざらほか	D0011	1-	54
イナノ浦	いなのうら	A0010	1-	12
岩窟	いわほら	B0165	2-	18
「岩路川」の石柱	いわみちがわのいしむすう	B0028	1-	30
岩路橋	いわみちばし	B0037	1-	30
岩屋城跡	いわやしろあし	B0015	1-	27
岩屋城合戦 関連石造物 1	いわやしろあしせん かんれんせきぞうぶつ	B0071	1-	36
岩屋城合戦 関連石造物 3	いわやしろあしせん かんれんせきぞうぶつ	F0121	1-	105
岩屋城合戦犠牲者追悼法要	いわやしろあしせんげんせいしゆつじうほう	B0077	1-	37
岩屋城址の碑	いわやしろあしのひ	B0156	2-	17
岩屋遺跡石塔群	いわやしろいせきとうぐん	B0103	1-	40
岩屋山	いわやま	B0160	2-	18
庚の薬師(インノヤクシ)	いんのやくし	F0006	1-	87
宇佐八幡宮祠	うさはちまんどうげん	C0006	1-	47
内山牟野遺跡	うちやまのむのいせき	A0077	1-	21
有智山城跡	うちやまじょうあと	A0099	2-	14
宇美口城門跡	うみやまぐちじょうもんあと	I0053	2-	102
梅大路の道標	うめおぢのちのみしるべ	C0005	1-	47
梅々枝餅	うめはなもち	B0099	1-	39
浦ノ城跡	うらのじょうあと	E0166	2-	18
浦之城公園	うらのじょうこうえん	B0028	1-	29
浦之城標	うらのじょうはし	B0041	1-	31
浦之城標石柱	うらのじょうはしせきむすう	B0140	1-	30
裏ノ田地(裏の田・浦の田)	うらのちのけ	E0161	1-	80
裏ノ田地下道	うらのちのけかみち	E0160	1-	80
ウランカワイデ	うらんかひいで	A0020	1-	14
漆川	うるしがわ	G0021	2-	74

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
覆寺	おのきでら	G0132	2-	80
恵比寿神	えびすかみ	B0019	1-	27
恵比寿神	えびすかみ	B0095	1-	39
えびす様	えびすさま	B0108	1-	40
えびす様(恵比寿神)	えびすさま	F0015	1-	89
恵比寿社	えびすしゃ	H0112	2-	91
恵比寿神	えびすじん	E0206	2-	32
恵比寿神	えびすじん	G0092	2-	78
恵比寿神	えびすじん	G0093	2-	79
恵比寿像(線刻)	えびすざう	B0109	1-	41
恵比寿像	えびすざう	C0022	1-	50
恵比寿像	えびすざう	C0024	1-	50
恵比寿堂	えびすどう	F0044	1-	93
恵比寿堂(宍府地区)	えびすまつり	B0140	2-	17
恵比寿祭(通古賀)	えびすまつり	G0039	1-	117
エビスまつり	えびすまつり	F0009	1-	88
老松神社	らうしょうじんじや	E0026	1-	62
老松神社のぼんげんきょう	らうしょうじんじやのぼんげんきょう	E0169	1-	81
老松園	らうしょうえん	E0176	1-	82
追分石(道標 花屋敷字付)	おひわけいし	E0126	1-	105
追分石(道標 四王寺園分)	おひわけいし	E0104	1-	88
四王寺園分	しやうおうじやうぶん	G0034	1-	116
王城神社本殿及び拜殿	おんぎんじやまへ ほんだんおひびなひ	G0053	1-	119
王城神社本社	おんぎんじやまへ	G0098	2-	78
大石垣(大野城跡)	おおいしがき	F0134	1-	106
大城山(四王寺山)	おおいしやま	F0143	1-	108
大佐野川	おおいのがわ	H0051	1-	130
『大佐野地区の歴史』-白石徳美氏の寄稿-	おおいのけのれきし しらいしとくみしのきこう	H0123	2-	92
大佐野地区のぼんげんきょう	おおいのけのれきし	H0079	1-	134
大谷	おおに	B0120	1-	42
大谷川から流れてくる赤路(後出付近)	おおにがわからながれてくるあかぢ	F0034	1-	92
大西宮広相向敷	おおにみやうぢあむぢ	F0287	2-	63
大野城跡	おおいのじやうあと	E0143	1-	77
大野城跡	おおいのじやうあと	E0015	1-	62
大木足形(オオヒノアシガタ)	おおいのあしがた	B0127	1-	43
大木足形石垣	おおいのあしがた	A0019	1-	14
道真印出土地の碑	おおいのあしだてのひ	F0054	1-	95
オカテンサン 鬼子母神堂	おかつてんさん	F0018	1-	89
奥園遺跡	おくのゑんせき	B0124	1-	43
奥ノ池	おくのいけ	E0104	1-	74
オクノタニ	おくのたに	F0161	2-	42
おこうじんさま	おこうじんさま	H0088	2-	88
落合橋	おちあひばし	G0001	F-113	
オコギヤのイデ	おこぎやのいで	A0099	1-	12
お家(加藤音堂)	おけ	H0048	1-	129
お家跡(推定地)	おけあと(推定地)	E0117	1-	76
鬼瓦	おにがわ	E0151	1-	78
鬼ノコシカケ	おにのこしかけ	B0121	1-	43
帯塚碑	おびづかひ	F0075	1-	98
お山の見える場所	おやまのみえるばしょ	E0123	1-	77
■か行				
戒壇院	かいだんいん	F0104	1-	102
戒壇院跡(戒壇院)	かいだんいんあと	F0282	2-	62
学業院社神(学校院社)	がくぎょういんあとし	F0086	1-	100

太宰府市文化遺産情報  
 行【がくぎょういん〜】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
学院中学校	がくぎょういんちゅうがっこう	F0057	1-	96
厳道久地下道(太郎冠子-06)	がくぎょういんちどう	F0166	1-	81
善鳴神社	かしまじんじや	G0135	2-	81
善鳴神社 本殿と拜殿	かしまじんじや ほんでんとはいでん	G0052	1-	119
善鳴神社の宮相模	かしまじんじやのみやまがら	G0036	1-	116
学校法人 英華女子学園	がっこうほうりてん へいけいじようがくえん	G0027	1-	50
藤田方面からの道	ふじのはうめんからのみち	I0048	2-	101
金換大講堂(水神・大黒天・天満宮)	かねかへだいこうどう	G0015	1-	49
歌碑(三条美実)	かたは	G0050	2-	22
歌碑(幸はえ〜)	かたは	A0066	1-	19
龍門神社	かみでじんじや	A0072	1-	20
龍門神社新宮(北谷通祈所)	かみでじんじやしんぐう	A0013	1-	13
上ノ池をのぞむ風景	かみいけのぞむけいざい	E0163	1-	74
神ノ前築路	かみのまへまきじ	H0061	1-	131
神原ノ(坂本八幡神社)	かみはらじ	F0177	2-	45
カヤノ遺跡	かやのいせき	H0055	1-	130
ガランさま(坂本八幡神社)	がらんさま	F0169	2-	43
菖草大橋	かむかやおほはし	I0016	1-	93
菖草の隠居の碑	かむかやのかくいのかた	I0040	1-	92
菖草橋	かむかやばし	G0065	1-	113
川原地下道(太宰府市-07)	かみはらちどう	E0059	1-	68
龍真和尚供養五輪塔	りゅうしんおしょうごうごりんとう	F0290	2-	63
観世音寺	かみせおんじ	F0277	2-	61
観世音寺	かみせおんじ	F0163	1-	102
観世音寺大橋	かみせおんじおほはし	F0094	1-	101
観世音寺伽藍絵図	かみせおんじがらんえず	F0264	2-	59
観世音寺区のほんげんぎょう	かみせおんじくわのほんげんぎょう	F0142	1-	108
観世音寺参道の巨石	かみせおんじさんどうのおおいし	F0226	2-	53
観音像	かんのんぞう	F0220	2-	52
観音堂	かんのんだう	A0067	2-	12
観音堂	かんのんだう	F0217	2-	33
観音堂	かんのんだう	F0124	1-	105
観音堂	かんのんだう	H0009	1-	124
観音堂	かんのんだう	E0013	1-	61
観音堂と観音像	かんのんだうとかんのんぞう	F0037	1-	92
護国堂(花まつり)(成増院)	かみこくどう	F0313	2-	67
キウナノ山	きうなのやま	I0030	2-	98
北谷口橋	きたたにぐちばし	A0051	1-	17
北谷地藏堂	きたたにじぞうどう	A0024	1-	14
北谷ダム	きたたにだむ	A0001	1-	11
北谷地区の井川	きたたにのいかわ	A0075	1-	21
北谷の道標	きたたにのみちしるべ	A0014	1-	13
寄附記念碑(坂本八幡神社)	かみまねんい	F0168	2-	43
貴船神社	きふねじんじや	A0021	1-	14
旧唐合輪渡柱	きゅうたうあいはしごけいじり	G0050	1-	119
旧唐合輪渡宝珠門柱	きゅうたうあいはしごけいじりごんじゆもんちゆう	G0049	1-	118
旧河川	きゅうかへん	E0074	1-	70
旧小字石碑「カヤノ」	きゅうこあざいせき かやの	H0078	1-	134
「旧小字 田中」の石碑	きゅうこあざいたなかのいせき	G0009	1-	114
旧小字橋 油田	きゅうこあざひやう あぶらでん・あぶらだ	F0146	1-	108
旧小字橋 垣添	きゅうこあざひやう かいぞえ	G0043	1-	117
旧小字橋 鶴畑	きゅうこあざひやう つるはた・つるはた	G0057	1-	120
旧小字橋 西ノ後	きゅうこあざひやう にしのちのり	G0056	1-	120
旧小字橋 朝日	きゅうこあざひやうせき あさひ	F0114	1-	104

太宰府市文化遺産情報  
 行【〜くようとう】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
旧小字橋石 安養寺	きゅうこあざひやうせき あんやうじ	F0100	1-	102
旧小字橋石 油田	きゅうこあざひやうせき あぶらだ	F0022	1-	90
旧小字橋石 石橋	きゅうこあざひやうせき いしはし	F0038	1-	92
旧小字橋石 今道	きゅうこあざひやうせき いまみち	F0106	1-	102
旧小字橋石 瀧山	きゅうこあざひやうせき たにやま	F0019	1-	89
旧小字橋石 エリカ下	きゅうこあざひやうせき えりかだ	F0033	1-	91
旧小字橋石 福屋敷	きゅうこあざひやうせき ふくやまじき	G0080	2-	76
旧小字橋石 大物	きゅうこあざひやうせき おおつぐ	F0059	1-	95
旧小字橋石 大正府	きゅうこあざひやうせき おおしょうふ	F0029	1-	99
旧小字橋石 字葉	きゅうこあざひやうせき じよば	F0082	1-	99
旧小字橋石 北ノ橋	きゅうこあざひやうせき きたのばし	G0024	1-	115
旧小字橋石 衣洞	きゅうこあざひやうせき いるまほら	I0024	2-	31
旧小字橋石 廣引	きゅうこあざひやうせき ひろひき	F0060	1-	96
旧小字橋石 小正府	きゅうこあざひやうせき こしょうふ	F0030	1-	91
旧小字橋石 御所ノ内	きゅうこあざひやうせき ごしよのうち	F0107	1-	103
旧小字橋石 玉反田	きゅうこあざひやうせき たんだ	F0085	1-	99
旧小字橋石 佐ヶ元	きゅうこあざひやうせき さがもと	F0080	1-	99
旧小字橋石 間瀬	きゅうこあざひやうせき せせや	F0043	1-	93
旧小字橋石 大糞	きゅうこあざひやうせき おほくそ	F0122	1-	105
旧小字橋石 月山	きゅうこあざひやうせき つきやま	F0079	1-	99
旧小字橋石 辻	きゅうこあざひやうせき つじ	F0025	1-	90
旧小字橋石 霞切	きゅうこあざひやうせき せききり	F0111	1-	103
旧小字橋石 土居ノ内	きゅうこあざひやうせき どいのうち	G0091	1-	100
旧小字橋石 象塚	きゅうこあざひやうせき ぞうづか	F0102	1-	102
旧小字橋石 東蓮寺	きゅうこあざひやうせき とうれんじ	G0040	1-	117
旧小字橋石 西浦	きゅうこあざひやうせき にしうら	F0021	1-	90
旧小字橋石 花屋敷	きゅうこあざひやうせき はなやしき	F0017	1-	89
旧小字橋石 林崎	きゅうこあざひやうせき はやしざき	F0020	1-	89
旧小字橋石 半田	きゅうこあざひやうせき はんた	G0003	1-	113
旧小字橋石 日吉	きゅうこあざひやうせき ひよし	F0078	1-	98
旧小字橋石 広久	きゅうこあざひやうせき ひろひさ	F0058	1-	95
旧小字橋石 不丁	きゅうこあざひやうせき ふちやう	F0061	1-	96
旧小字橋石 前	きゅうこあざひやうせき まへ	F0023	1-	90
旧小字橋石 松ヶ浦	きゅうこあざひやうせき まつがうら	F0123	2-	41
旧小字橋石 松倉	きゅうこあざひやうせき まつくら	F0031	1-	91
旧小字橋石 山ノ井	きゅうこあざひやうせき やまのい	F0105	1-	102
旧小字橋石 末木	きゅうこあざひやうせき すえき	F0056	1-	95
旧太宰府町道	きゅうたさいふちどう	B0072	1-	36
境界石	きょうがいせき	I0041	2-	106
共同井戸	きょうどうい	A0015	1-	13
共同井戸	きょうどうい	A0030	1-	15
共同井戸 手押しポンプ式井戸1〜7	きょうどうい ておしポンぷしきいど	G0062	1-	120
共同井戸 表洞風呂跡	きょうどうい へうどうふうよ	A0034	1-	15
京ノ尾遺跡	きょうのおしせき	H0059	1-	131
巨石	きよせき	F0254	2-	57
清原御重石	きよはらのみどうい	F0234	2-	54
空堀表大姉地蔵菩薩	くうぼりあはだしじぞうぼさつ	F0242	2-	55
クスの大木	くすのおおき	G0058	1-	120
久保田井堰	くぼたにげき	F0045	1-	91
熊田勇吉の墓	くまたゆうきちのかぶ	H0016	1-	125
隈嶽公衆都城	くまのこうかくづき	G0027	1-	115
ダミの大木(桜並木)	だみのおおき	G0022	1-	55
区民旅行(東ヶ丘区)	くみんりょこう	G0037	2-	25
供養塔	くようとう	F0183	2-	46

太宰府市文化遺産情報  
か行【くようとう～】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
供養塔	くようとう	E0153	1-	78
供養塔の桜	くようとうのさくら	E0154	1-	79
蔵田 福富堂	くらたふく ちかひどう	F0285	1-	91
くりはい(著)(くりあい著)	くりはい	B0098	1-	39
黒岩稲荷神社	くろいわた稲りんじや	B0013	1-	27
久那利遺跡	くんなりいせき	H0656	1-	130
クログネ岩	くろがねいわ	I0945	2-	100
クログネ岩城門跡	くろがねいわじょうもんあと	I0055	2-	102
船八等古塚寿人の碑	くねはつとうこづかじゆわいのひ	F0196	2-	48
クイサンノ井	くいさんのかい	E0006	1-	60
敬善会(東ノ丘区)	けいぜんかい	E0006	2-	25
結界石(成増院)	けいがいせき	F0283	2-	62
結界石(成増院)	けいがいせき	F0302	2-	65
結界石(成増院)	けいがいせき	F0304	2-	66
「けやき」の水	けやきのみづ	H0024	1-	127
鎌倉寺橋	かまくらにせう	B0045	1-	31
玄清法印之墓	げんせいほういんのかぶら	F0014	1-	89
玄清法印墓所の御世話	げんせいほういんのかぶらのおせわ	F0221	2-	52
順道園記念碑	じゆんどうえんきねんひ	A0059	1-	18
玄昉供養堂(東山印塔)	げんぼうくようどう(とうざんいんとう)	F0278	2-	61
玄昉の墓	げんぼうのかぶら	F0147	1-	108
玄昉の墓標石	げんぼうのかぶらいし	F0280	2-	62
玄昉墓入口の石柱	げんぼうむらひぐちのいしちゆう	F0279	2-	61
観木碑	かんぼくひ	G0154	2-	84
観・ハヤ等の生息地	かん・はやなどのせいそくち	B0017	1-	55
高針砲跡地跡	たかはりはうちんちあと	B0013	1-	125
甲城寺(口上谷)	こうじょうじ	F0137	1-	107
庚申尊天	こうしんそんてん	F0259	2-	58
庚申尊天	こうしんそんてん	A0076	1-	21
庚申尊天	こうしんそんてん	B0085	1-	38
庚申尊天	こうしんそんてん	B0118	1-	42
庚申尊天	こうしんそんてん	D0663	1-	68
庚申天	こうしんてん	C0028	2-	21
庚申天	こうしんてん	F0193	2-	47
庚申天	こうしんてん	F0099	1-	101
庚申天	こうしんてん	A0017	1-	13
庚申天	こうしんてん	B0008	1-	26
幸神天(庚申天)	こうしんてん	B0032	1-	29
庚申天	こうしんてん	B0047	1-	32
庚申塔(庚申天)	こうしんとう	H0033	1-	128
庚申塔	こうしんとう	B0031	1-	29
庚申塔	こうしんとう	F0677	1-	98
庚申塔	こうしんとう	F0681	1-	99
更正道路碑	こうせいどうろひ	G0032	1-	116
講堂・本堂(観世音寺)	こうどう(くわんぜいおんじ)	F0236	2-	54
講堂跡(観世音寺)	こうどうあと	F0352	2-	68
河野静雲句碑	こうのせいぐんくひ	F0246	2-	56
河野静雲句碑	こうのせいぐんくひ	F0013	1-	88
弘法大師・地藏様	こうぼうだいし・じざうさま	B0107	1-	40
弘法大師堂	こうぼうだいしどう	F0184	2-	46
光明寺石庭	こうみょうじいせきてい	B0086	1-	38
公民館建築記念碑	こうみんかんけんちくきねんひ	F0007	1-	101
クワフゾノマイ	くわふぞのまい	B0159	2-	18
国鉄鹿児島本線赤塚瓦造架橋	こくてつかごしませんあかづかひざうがきょう	H0038	1-	128

太宰府市文化遺産情報  
か行【〜こりんとう】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
国分瓦窯跡	こくぶんかわがまあと	E0113	1-	75
国分区のぼんげんぎょう	こくぶくのぼんげんぎょう	E0099	1-	73
国分小学校裏山の日の出が見える場所	こくぶんしょうがうらやまのひのいで見えるばしょ	E0031	1-	63
国分小栗山より見る四王寺山(秋の風景)	こくぶんしょうがうらやまよりみるしゅうおうじやま	E0162	1-	80
国分小学校下の風景	こくぶんしょうがうらやまのふけい	E0044	1-	65
国分天満宮	こくぶんてんまんぐう	E0078	1-	71
国分天満宮境内の石柱	こくぶんてんまんぐうけい内のいしちゆう	E0079	1-	71
国分天満宮の宮屋	こくぶんてんまんぐうのみや	E0170	1-	81
国分 思妙門堂	こくぶんしめうもんどう	E0097	1-	73
国分松土橋の石	こくぶんまつどよしのいし	E0121	1-	76
国分松木遺跡	こくぶんまつきでいせき	E0185	1-	86
国分寺史跡指定境界線(1)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょう(1)	E0091	1-	73
国分寺史跡指定境界線(10)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょう(10)	E0072	1-	70
国分寺史跡指定境界線(2)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょう(2)	E0086	1-	72
国分寺史跡指定境界線(3)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょう(3)	E0087	1-	72
国分寺史跡指定境界線(4)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょう(4)	E0070	1-	69
国分寺史跡指定境界線(5)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょう(5)	E0069	1-	69
国分寺史跡指定境界線(6)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょう(6)	E0100	1-	74
国分寺史跡指定境界線(7)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょう(7)	E0099	1-	74
国分寺史跡指定境界線(8)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょう(8)	E0081	1-	71
国分寺史跡指定境界線(9)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょう(9)	E0071	1-	70
国分寺西側境界線の土壘	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょうのどし	E0082	1-	71
国分寺西側境界線の延長になる道	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょうのえんじやうになるみち	E0064	1-	69
国分寺西側道の土塁にあるコンクリートの構(1)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょうのどしにあるこんくりーとのかま(1)	E0068	1-	69
国分寺西側道の土塁にあるコンクリートの構(2)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょうのどしにあるこんくりーとのかま(2)	E0077	1-	70
国分寺西側道の土塁にあるコンクリートの構(3)	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょうのどしにあるこんくりーとのかま(3)	E0101	1-	74
国分寺西側道の名残をとどめる道	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょうの名のこをとどめるみち	E0083	1-	71
国分寺西側道と北側の境界線が交わる所	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょうのきたがわりのけいせんがまじわるところ	E0065	1-	69
国分寺東側境界線の小道	こくぶんじしきせきしていきょうかいひょうのひがしがわりのけいせんのみち	E0094	2-	30
国分寺前石製燈籠	こくぶんじまへいせきとうろう	E0155	1-	79
国分寺南側の道路	こくぶんじまへみながわりのどうろ	E0058	1-	68
五穀神	ごこくしん	A0057	1-	18
五穀神	ごこくしん	C0042	2-	21
九重原のビューポイント	ここのえはらのびゅうぽいんと	A0092	2-	14
五重塔跡(観世音寺)	ごじゅうのとうあと	F0210	2-	55
五重塔心礎(観世音寺)	ごじゅうのとうしんそ	F0239	2-	55
五条遺跡	ごじょういせき	C0020	1-	49
五条公民館建築記念碑	ごじょうこうみんかんけんちくきねんひ	C0047	2-	22
五条小橋	ごじょうこばし	C0004	1-	47
五条橋	ごじょうはし	F0112	1-	103
御神井碑	ごしんい	E0213	2-	33
古代官道跡の名残	こたかみんどうあとなどのなごり	H0071	1-	133
ゴタンダイデ	ごたんたいで	A0041	1-	136
五反田塚	ごんだんづか	F0090	1-	100
御大典記念碑	ごんだんてんきねんひ	G0151	2-	83
古浪大明神	こなげだいめいじん	H0014	1-	125
古窟(自然石)	こくほ	A0078	1-	21
狛犬(観世神社)	こまいぬ	A0083	2-	12
狛犬(王城神社)	こまいぬ	G0086	2-	77
狛犬(増城神社)	こまいぬ	H0098	2-	89
狛犬(増城神社)	こまいぬ	B0107	2-	90
五輪塔	ごりんとう	A0068	1-	20
五輪塔残欠	ごりんとうざんけつ	F0204	2-	49
五輪塔瓦次	ごりんとうわじ	G0142	2-	82

索引

索引

太宰府市文化遺産情報  
か・さ行【ころもかけ～】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
衣掛神社(衣掛神社)	ころもかけじんじや(きかけじんじや)	E0050	1-	66
衣掛神社(衣掛神社)の参道(改修)	ころもかけじんじやのさんどう	E0156	1-	79
衣掛神社(衣掛神社)地蔵堂	ころもかけじんじやのぢようのうぢやう	E0052	1-	67
衣掛神社(衣掛神社)のぼんげんぎょう	ころもかけじんじやのほんげんぎょう	E0175	1-	82
衣掛神社(衣掛神社)の宮座	ころもかけじんじやのみやざ	E0173	1-	82
衣掛神社(衣掛神社)のヨド	ころもかけじんじやのよど	E0171	1-	82
金剛兵衛井戸	こんごうのひやうゑいど	A0070	1-	20
金堂(観世音寺)	こんどう	E0235	2-	54
金毘羅社	こんぴらじや	H0113	2-	91
紺野地下道(太宰府市-05)	こんまろちみちどう	E0163	1-	80
■さ行				
西成権再興神(成増院)	さいしやうけんさいこうじん	F0284	2-	62
祭事(因分天満宮)	さいじ	E0197	2-	30
祭事(衣掛天満宮・衣挂天神)	さいじ	E0291	2-	31
賽の神・小夜神	さいのかみ	E0041	1-	65
小夜神(賽神)の手洗鉢	さいのかみのてのうすざひ	E0183	2-	30
宰府の講(1)ふれあい広場	さいふのこう(1)	B0113	1-	41
宰府の講(2)	さいふのこう(2)	B0114	1-	41
宰府の講(3)小島原小路	さいふのこう(3)	B0115	1-	42
宰府の講への取水池	さいふのこうへのとりづゐ	B0117	1-	42
坂本城のぼんげんぎょう	さかもとぎのほんげんぎょう	F0141	1-	108
坂本のダブリュー	さかもとのだぶりゆう	F0128	1-	106
坂本八幡宮	さかもとばちまんぐう	F0025	1-	96
坂本方面への近道	さかもとはうのちかみち	F0001	1-	87
サカモト道・車道	さかもとみち・くるまぢ	F0145	2-	41
坂本村	さかもとむら	F0135	1-	107
糞田川	さかむたがわ	G0014	2-	73
糞田川更正工事之碑	さかむたがわのしるし	G0096	2-	79
糞田川の鯉のたまり場	さかむたがわのこゝろのたまりば	G0017	2-	73
糞田橋神社	さかむたがわのしんじや	G0054	1-	119
桜の大本跡	さくらのはもとあと	H0094	1-	124
座頭の塔(玄清法師印)	ざどうのとう	B0088	1-	38
佐野浦集落	さのうらしゅうらく	H0053	1-	130
佐野集落	さのうらしゅうらく	H0060	1-	131
傘の元弁取水路跡	さのうらもとひらきみづいりあと	B0005	1-	25
猿渡池跡	さるわたゐぢ	E0261	2-	59
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	E0215	2-	33
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	F0167	2-	43
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	G0094	2-	79
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	H0093	2-	38
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	H0111	2-	91
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	H0022	1-	126
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	H0031	1-	128
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	H0051	1-	129
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	H0052	1-	130
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	H0082	1-	135
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	H0082	1-	137
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	H0016	1-	62
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	H0030	1-	63
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	E0088	1-	72
猿田彦大神・大行事跡ほか	さるたひこおほいのみ・だいぎょうしるしほか	D0012	1-	35
猿田彦尊	さるたひこおほいのみ	H0028	1-	127
申彦彦尊	さるたひこおほいのみ	H0077	1-	134
猿田彦尊	さるたひこおほいのみ	A0069	1-	20

太宰府市文化遺産情報  
さ行【～しおуж】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
猿田彦尊	さるたひこおほいのみ	B0035	1-	30
猿田彦大神	さるたひこおほいのみ	G0060	1-	120
猿田彦大神碑	さるたひこおほいのみ	G0031	1-	116
三十三観音(観世音寺)	さんじゅうさんざんがんののみ	F0225	2-	53
三条・天満宮方面への仕事道	さんじょう・てんまんぐうはうのしごとみち	B0059	1-	34
三條橋	さんじょうばし	B0036	1-	30
山門礎石(成増院)	さんもんいし	F0311	2-	67
沙井川	さいけいがわ	H0017	1-	125
藤井台(坂本八幡神社)	さいけいだい	F0173	2-	44
藤井台(日吉神社)	さいけいだい	F0207	2-	50
藤井台(王城神社)	さいけいだい	G0088	2-	78
藤井台(地蔵神社)	さいけいだい	H0115	2-	92
藤井台(願首台)	さいけいだい	F0048	1-	94
四王寺跡(四王院跡)	しおうじや跡	I0021	2-	97
四王寺提沙門天宮り	しおうじやていさつもんてんぐう	I0019	2-	97
四王寺村	しおうじやむら	I0006	2-	95
四王寺山 三十三石仏	しおうじやさん さんじゅうさんざんぶつ	B0119	1-	42
四王寺山三十三石仏 第1番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいいちばんふだしよ	H0012	1-	26
四王寺山三十三石仏 第2番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0060	1-	34
四王寺山三十三石仏 第3番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	H0088	1-	35
四王寺山三十三石仏 第3番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	H0074	1-	36
四王寺山三十三石仏 第3番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	I0016	2-	96
四王寺山三十三石仏 第3番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0073	1-	36
四王寺山三十三石仏 第3番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	F0002	1-	87
四王寺山三十三石仏 第3番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	H0065	1-	35
四王寺山三十三石仏 第11番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	I0008	1-	33
四王寺山三十三石仏 第15番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0058	2-	95
四王寺山三十三石仏 第15番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0055	1-	33
四王寺山三十三石仏 第15番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	G0053	1-	33
四王寺山三十三石仏 第15番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0051	1-	32
四王寺山三十三石仏 第12番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	H0057	1-	33
四王寺山三十三石仏 第18番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0050	1-	32
四王寺山三十三石仏 第18番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0061	1-	34
四王寺山三十三石仏 第14番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0056	1-	33
四王寺山三十三石仏 第16番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0052	1-	32
四王寺山三十三石仏 第16番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	H0067	1-	35
四王寺山三十三石仏 第21番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	I0010	2-	95
四王寺山三十三石仏 第29番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	I0015	2-	96
四王寺山三十三石仏 第26番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	I0014	2-	96
四王寺山三十三石仏 第23番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	I0012	2-	96
四王寺山三十三石仏 第27番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	F0005	1-	60
四王寺山三十三石仏 第22番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	I0011	2-	95
四王寺山三十三石仏 第28番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	E0007	1-	60
四王寺山三十三石仏 第20番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	I0009	2-	95
四王寺山三十三石仏 第24番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	I0013	2-	96
四王寺山三十三石仏 第26番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	E0001	1-	60
四王寺山三十三石仏 第28番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0064	1-	34
四王寺山三十三石仏 第28番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0063	1-	34
四王寺山三十三石仏 第1番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0066	1-	35
四王寺山三十三石仏 第6番札所	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0069	1-	35
四王寺山の井戸 持国天ノ井	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	B0075	1-	33
四王寺山の井戸 増長天ノ井	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	E0054	1-	36
四王寺山の井戸 4 毘沙門天ノ井	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	I0020	2-	97
四王寺山の井戸ポイント1	しおうじやさんじゅうさんざんせきぶつ だいにばんふだしよ	E0002	1-	60

太宰府市文化遺産情報  
さ行【しおじ〜】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
四王寺山のビューポイント 2	しおうじやまのビューポイント 2	E0008	1-	61
四王寺山のビューポイント 3	しおうじやまのビューポイント 3	E0009	1-	61
四王寺山のビューポイント 4	しおうじやまのビューポイント 4	B0155	2-	17
四王寺山のビューポイント 5	しおうじやまのビューポイント 5	B0070	1-	35
四王寺山のビューポイント 6	しおうじやまのビューポイント 6	B0062	1-	34
四王寺山のビューポイント 7	しおうじやまのビューポイント 7	10038	2-	39
四王寺林道開設記念碑	しおうじりんどうかいせいきんひ	F0003	1-	87
しかけ水路	しかけすいろう	A0007	1-	12
四季桜	しきざくら	G0012	1-	114
式部橋下宮	しきぶひげみや	A0063	1-	19
軸穴のある石	しきくちあなのあるいし	F0201	2-	49
軸穴のある礎石	しきくちあなのあるいそ	F0244	2-	56
軸穴のある丸石	しきくちあなのあるまるいし	F0299	2-	65
号字碑(觀世音寺)	ごうじのい	F0224	2-	62
史蹟大宰府院界碑	しせきだざいふちんかいせいはん	F0069	1-	97
史蹟大宰府院(界碑)	しせきだざいふちんかいせいはん	F0076	1-	98
史蹟大宰府院碑	しせきだざいふちんかいせいはん	F0064	1-	96
史蹟真福院分霊(児童公園内)の石柱	しせきまふくゐんぶんりやう(じやうどくわんない)のしやうち	E0089	1-	72
史跡の公有地境界石柱(1)	しせきのこうゆうぢきやうがいせいきちゆう(1)	E0076	1-	70
史跡の公有地境界石柱(2)	しせきのこうゆうぢきやうがいせいきちゆう(2)	E0066	1-	73
史蹟水城跡境界(1)	しせきみづきあときやうがいせい(1)	E0043	1-	65
史蹟水城跡境界(2)	しせきみづきあときやうがいせい(2)	E0046	1-	66
史蹟水城跡境界(3)	しせきみづきあときやうがいせい(3)	E0048	1-	66
史蹟水城跡境界(4)	しせきみづきあときやうがいせい(4)	E0172	1-	82
史蹟水城跡境界(5)	しせきみづきあときやうがいせい(5)	E0035	1-	64
自然石	しぜんいし	A0011	1-	12
地藏堂	じぞうどう	G0072	2-	75
地藏堂	じぞうどう	B0010	1-	124
地藏堂	じぞうどう	A0064	1-	19
地藏堂	じぞうどう	A0065	1-	19
地藏菩薩	じぞうぼさつ	A0071	1-	20
地藏菩薩(板碑)	じぞうぼさつ	A0073	1-	20
慈母観音(子安観音)	じぼくわんのん	B0027	1-	28
島本遺跡	しまもとせき	B0018	1-	126
清水谷トンネル	しみずたにとんねる	C0023	1-	60
注連打ち(坂本八幡神社)	しめずち	F0179	2-	45
下大阿彌	しもおほいあみ	E0014	1-	62
下川原橋	しもがわらばし	G0047	1-	118
十一面観音群	じゅういちめんくわんのんぐん	B0002	1-	54
十三仏堂	じゅうさんぶつどう	G0071	2-	75
十三仏堂	じゅうさんぶつどう	F0036	1-	92
集水橋	しゅうすいせう	E0168	1-	81
土城ノ原	つちじょうがはら	T0051	2-	104
小学校移転記念碑	しょうがっこういんてんきんねい	F0155	2-	41
小学校設備費寄付者芳名碑	しょうがっこうせうびひきりふきやうほうめい	F0156	2-	41
顕徳碑	けんとくひ	F0157	2-	41
少式資能顕彰碑	しょうしきすけのりあきしょう	F0219	2-	52
少式資能墓	しょうしきすけのりのかぶ	F0150	1-	109
小祠、仏堂の信仰行事(古松)	しょうじやうほら、ぶつどうのしんこうぎやうじ	B0066	1-	132
鐘楼(戒壇院)	しょうろう	F0312	2-	67
白川橋	しろがわばし	C0061	1-	47
「白川橋」の石柱	しろがわばしのしきちゆう	C0062	1-	47
新池(窪の池、窪の池、瓦葺の池)	しんいけ	F0110	1-	75
新池土堤	しんいけどて	F0111	1-	75

太宰府市文化遺産情報  
さ行【～せきやばし】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
新池 墓石	しんいけはかいし	E0112	1-	75
神牛塚	しんぎゅうづか	C0025	1-	50
新雷池・新池	しんらいのうみ / しんいけ	A0006	1-	11
神威改竄念碑(主権神社)	しんゐかへんねんひ(しゅけんじやうぢ)	G0098	2-	79
神田碑(日吉神社)	しんたのい	F0202	2-	49
陣ノ尾ノ号墳	じんのおしごうぼん	E0144	1-	77
陣ノ尾川沿いの道	じんのおしがわのちのみち	E0056	1-	67
陣ノ尾川の側溝	じんのおしがわのせうこう	B0089	1-	67
新町	しんまち	B0073	1-	133
新向佐野地下道	しんかうさのちかどう	A0012	1-	12
真覚観下墓	しんしやうくわんげ	F0216	2-	51
瑞雲塔(横原隆福寺)	ずいじゆんとう	E0114	1-	75
水車点	すいじゆんてん	B0067	1-	132
水城院への参詣道	すいじやういんへのさんぎだう	E0214	2-	33
水神	すいじん	F0021	1-	62
水路(旧日田街道沿いの水路)	すいろう	E0049	1-	66
寛見の井	かんみのい	B0143	1-	82
菅野道清浄土碑	すがのちやうじやうど	F0089	1-	100
朱雀大橋	すざくおほはし	F0241	2-	55
清水記碑	しみずのい	G0134	2-	81
清明の井と祠	せいめいのいとのほら	G0038	1-	117
清明井のオノキ	せいめいのいのおのき	F0152	1-	109
ゼウケンノハカ	ぜうけんのはか	10032	2-	98
石材切り出場	せきざいぎりだうじやう	A0079	2-	12
石造弘法大師坐像	せきぞうこうぼうだいしだうざう	A0089	2-	13
石造弘法大師坐像	せきぞうこうぼうだいしだうざう	A0091	2-	14
石造弘法大師坐像	せきぞうこうぼうだいしだうざう	G0073	2-	75
石造弘法大師坐像	せきぞうこうぼうだいしだうざう	A0086	2-	13
石造地藏菩薩坐像	せきぞうじぞうぼさつざう	F0296	2-	64
石造地藏菩薩坐像	せきぞうじぞうぼさつざう	A0088	2-	13
石造釈迦如来坐像	せきぞうしやうきやうらいしだうざう	B0087	2-	13
石造修行大師立像	せきぞうしゆぎやうだいしだうざう	A0090	2-	13
石造不動明王立像	せきぞうふどうめいおうだうざう	B0087	1-	28
石塔	せきとう	F0255	2-	58
石塔群	せきとうぐん	F0286	2-	63
石塔群	せきとうぐん	F0170	2-	43
石塔残欠	せきとうざんけつ	G0036	2-	66
石塔残欠	せきとうざんけつ	C0049	2-	22
石碑	せきひ	F0290	2-	48
石碑	せきひ	F0209	2-	50
石碑	せきひ	F0227	2-	53
石碑	せきひ	B0019	1-	126
石碑	せきひ	B0023	1-	126
石碑	せきひ	F0041	1-	92
石碑	せきひ	F0249	2-	57
石碑	せきひ	F0297	2-	64
石碑	せきひ	F0053	1-	94
石碑	せきひ	G0048	1-	118
石碑(神楽式)	せきひ(かみりかた)	F0160	2-	42
石碑	せきひ	F0130	1-	166
石碑	せきひ	F0049	1-	94
石碑	せきひ	F0050	1-	94
石碑	せきひ	G0004	1-	113



太宰府市文化遺産情報  
さ・た行【せきや〜】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
開原橋の碑	せきやばししのひ	F0052	1-	94
線刻地蔵菩薩像	せんくつじぞうぼさつぞう	F0247	2-	56
善五郎稲荷祠(中宮)	ぜんごろういぬりほくら	B0011	1-	26
千手観音(筑紫四国第九十五番札所)	せんじゆがわんのん	IO045	1-	65
千手観音堂	せんじゆがわんのんどう	B0037	2-	88
善正寺ヤシキ	ぜんしようしき	F0136	1-	107
センダン	せんだん	G0139	2-	81
ソライデ	そらいで	A0038	1-	16
ソライダ5号橋	そらいだごうばし	A0042	1-	17
ソライダ3号橋	そらいださんごうばし	A0035	1-	15
ソライダ2号橋	そらいだにごうばし	A0026	1-	15
ソライダ橋	そらいだばし	A0037	1-	16
ソライダ4号橋	そらいだよんごうばし	A0036	1-	16
僧房跡(観世音寺)	そうぼうあと	F0262	2-	59
創立百周年記念碑	そらりひゃくしゅうねんきねんひ	F0158	2-	41
礎石	そせき	F0257	2-	58
礎石(伝分尼寺の礎石)	そせき	G0059	1-	120
染川(藍染川)	そめがわ	E0146	1-	77
村辻昇格記念碑(地祇神社)	そめしやしょうかくきねんひ	B0080	1-	37
		B0101	2-	89
<b>■た行</b>				
大行事塔(東蓮寺)	たいぎょうじとう	G0055	1-	119
大行事塔	たいぎょうじとう	A0056	1-	18
大行事碑	たいぎょうじひ	F0140	1-	107
大行事碑	たいぎょうじひ	E0120	1-	76
大因神社	たいいんじんじや	B0110	1-	41
熊綱橋	たいくわばし	G0042	1-	31
台座・旗立石段穴	たいざ・はたていしだんあな	G0153	2-	84
大師橋	たいしきばし	C0026	1-	50
大師堂	たいしどう	C0044	2-	21
大師堂	たいしどう	F0168	1-	103
大師堂	たいしどう	A0025	1-	15
大師堂	たいしどう	A0052	1-	18
大師堂	たいしどう	B0034	1-	29
大師堂	たいしどう	B0049	1-	32
大乗妙典一字一石塔	たいじょうみょうてんいちじついつせきとう	F0281	2-	62
大日堂	たいにちどう	B0030	1-	29
大日堂	たいにちどう	B0033	1-	29
大日如来	たいにちにょらい	A0039	1-	16
大日如来像	たいにちにょらいぞう	B0039	1-	129
大日ノ塔	たいにちのとう	IO022	2-	97
戒壇院大般若新舎寺・御船風見養	たいはんにんぎやとうしや ぎふねまきやう	F0314	2-	67
大麻湊布式亭(王城神社)	たいまほふしきや	G0100	2-	80
平重盛の墓	たいらのしげもりのはか	B0046	1-	31
大隆山 水城院(室寺跡)	たいりやうざん すいじやういん	H0012	1-	125
高尾川四辺の豊かな自然(1)	たかおがわしよへんのゆたかなしぜん(1)	IO006	1-	54
高砂橋	たかさごばし	B0003	1-	25
高橋橋口跡	たかはしはしかぐち	C0021	1-	49
高橋口橋	たかはしごうのばし	F0113	1-	103
高橋祖運公墓道碑	たかはしじゆんこうむちどうひ	F0095	1-	101
高橋祖運墓(願塚)	たかはしじゆんこうむち	F0004	1-	87
高須彦子歌碑(夜郡府樓館に行む...)	たかひこしよこたか	F0062	1-	96
大宰府跡(大宰府政府跡、都府楼跡)	たさいふちあと	F0133	1-	106
大宰府址碑	たさいふちあしひ	F0073	1-	98

太宰府市文化遺産情報  
た行【〜つか】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
太宰府安養院第五輪塔残欠	たさいふあんどういごだごんごとうざんけつ	F0125	1-	105
太宰府白城門跡	たさいふしろじやうもんあと	B0090	1-	39
大宰府金坊跡	たさいふしやうぼうあと	F0153	1-	109
大宰府金坊の名残	たさいふしやうぼうの名残り	B0074	1-	133
大宰府金坊の名残	たさいふしやうぼうの名残り	B0075	1-	133
大宰府金坊の名残 2	たさいふしやうぼうの名残り 2	G0041	1-	117
大宰府金坊の名残 3	たさいふしやうぼうの名残り 3	G0046	1-	118
大宰府正門礎石(朱紫門礎石)	たさいふしやうもんそせき	F0063	1-	95
大宰府天満宮(宮夜燈)	たさいふてんまんぐやうのぢやうちやう	A0060	1-	18
大宰府碑	たさいふひ	F0071	1-	97
多々良井堰	たたらいせき	G0028	1-	115
多々良橋碑	たたらばしひ	G0081	2-	77
たな池	たないけ	A0016	1-	13
田中の森(西の段)	たなのもり	G0008	1-	114
田中橋	たなかばし	G0010	1-	114
田甲橋碑	たなかばしひ	G0099	2-	80
惟田の景観	たのたのけいかん	F0008	1-	88
七夕籠り(日吉神社)	たなばたごもり	F0210	2-	50
沓池	たがいけ	A0008	1-	12
タマノ田	たまただ	IO024	2-	97
玉石塚(観世音寺)	たまいしがき	F0245	2-	56
玉石班丈社とトウカエダ	たまいしがきばんぢやうとうかえだ	F0070	1-	97
玉瓶(王城神社)	たまがき	G0078	2-	76
瀧池「奥ノ池」の木路	たみのいけ「おくのいけ」のきぢやう	B0165	1-	74
瀧池「奥ノ池」の木路	たみのいけ「おくのいけ」のきぢやう	B0166	1-	75
太郎宮近社	たろうきんじや	C0019	1-	49
たらんばす	たらんばす	B0038	2-	26
たらんばすのむかしのみち	たらんばすのみち	E0023	1-	62
たらんばす	たらんばす	C0017	1-	49
らくししくだいていぢやうにばんふだしよ	らくししくだいていぢやうにばんふだしよ	D0016	1-	55
らくししくだいていぢやうにばんふだしよ	らくししくだいていぢやうにばんふだしよ	D0001	1-	54
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	E0053	1-	67
らくせんこくふにひのみがむかひのみち	らくせんこくふにひのみがむかひのみち	E0055	1-	67
らくせんこくふにひのみがむかひのみち	らくせんこくふにひのみがむかひのみち	E0054	1-	67
らくせんこくふにひのみがむかひのみち	らくせんこくふにひのみがむかひのみち	E0075	1-	70
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	E0195	2-	30
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	E0080	1-	71
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	C0013	1-	48
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	C0046	2-	22
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	IO050	2-	101
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	IO029	2-	98
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	F0039	2-	65
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	B0009	2-	89
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	F0172	2-	44
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	F0208	2-	50
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	F0294	2-	64
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	G0089	2-	78
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	G0155	2-	84
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	H0108	2-	90
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	H0109	2-	91
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	H0049	1-	129
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	H0085	1-	135
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	H0085	1-	72
らくせんこくふにこふ	らくせんこくふにこふ	F0093	1-	101

太宰府市文化遺産情報  
た・な行【つきなみ〜】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
月次祭(水城地区の合同月次祭)	つきなみまつり	G0102	2-	80
手押しポンプ	ておしぼんぷ	G0074	2-	75
父子島	てこじま	H0001	1-	124
出水権定地	でみすずいぢ	J0016	2-	100
伝衣塔	でんえとう	D0081	1-	37
徳福	とくふく	F0256	2-	58
伝北門礎石(観世音寺)	でんきたんそせき	F0238	2-	55
天神の森	てんじんのもり	H0030	1-	127
天宮院(観世音寺)	てんみやん	F0229	2-	53
天智塔	てんちとう	F0251	2-	57
伝「鶴の窟」の石	でんつるのほらいし	G0025	1-	115
天王寺屈満了奉供養塔	てんのうじくまんりょうほうきやうとう	F0289	2-	63
天祥橋	てんげいし	A0062	1-	19
天満宮一の鳥居(閑原の鳥居)	てんまんぐわいのとり	F0051	1-	94
伝薬師加美坐像(国分宮寺)	でんやくしにかみざざう	E0198	2-	30
天龍閣	てんりゆうかく	F0182	2-	45
塔心礎石(般若寺跡)	とうしんそせき	G0145	2-	82
導水トンネル(新山の井池〜上方・朝日水路)	どうすいどんねる	F0117	1-	104
導水トンネル(新山の井池導水トンネル入口)	どうすいとんねる	F0120	1-	104
導水トンネル(安の浦から安養寺地区)	どうすいとんねる	F0144	1-	108
導水トンネル(安の浦池から字野地区へ)	どうすいとんねる	F0148	1-	109
東蓮寺橋	とうれんじはし	G0006	1-	113
道路更正碑	どうろこうせいひ	F0166	2-	43
道路更正碑	どうろこうせいひ	F0096	1-	101
道路造成(田中-松本線)記念碑	どうろぞうせいきねんひ	E0066	1-	69
時の記念日の行事	ときのおねひのぎやうじ	F0127	1-	105
土地寄贈碑	ちまきぞうひ	G0048	2-	22
土地寄贈碑	ちまきぞうひ	F0159	2-	42
都督府古趾	ととくふこせき	F0072	1-	98
「上のくらの」の名称表示	ののくらのめいし	G0015	1-	118
飛梅の原木	とびうめのはらばく	G0036	1-	115
都府楼教員住宅	とふろうきやうじゆうたけ	G0022	1-	114
都府楼旧道通記	とふろうじゆうだうき	F0003	1-	115
都府楼道路通記記念碑	とふろうじゆうだうききねんひ	G0066	1-	97
都府楼之礎は長史宅跡	とふろうのそこのちりょうじゆうひ	F0065	1-	96
都府樓橋	とふらうはし	F0088	1-	100
都府樓橋跡	とふらうはしひ	F0087	1-	100
「都府楼前駅前通り」の表示塔	とふらうぜんえきまへどおりのひょうじゆう	G0018	2-	73
鳥居(秋葉神社)	とりい	A0085	2-	13
鳥居(坂本八幡神社)	とりい	F0163	2-	42
鳥居(日吉神社)	とりい	F0192	2-	47
鳥居(日吉神社)	とりい	F0195	2-	48
鳥居(王城神社)	とりい	G0075	2-	76
鳥居(菅原神社)	とりい	G0137	2-	81
鳥居(鹿嶋神社)	とりい	G0148	2-	83
鳥居(地祇神社)	とりい	H0095	2-	88
ドロックサンヤネのセンダン	どろくさんやねのせんたん	G0051	1-	119
どろんこ祭り	どろんこまつり	E0171	1-	81
どんどぼき(東ヶ丘区)	どんどぼき	H0042	2-	26
ドンドン原・ドンドンオトシ	どんどんばら・どんどんおとし	H0053	2-	99

■な行

長濱遺跡	ながはらゐし	H0069	1-	132
中谷(ナガタニ・長谷)	なかつたに	H0031	2-	98
長塚節歌碑	ながつたにのせき	F0233	2-	54

太宰府市文化遺産情報  
な・は行【〜はんどの】

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
夏の日道(オカッテンサン)	なつひのちみち	F0191	2-	47
夏祭り	なつまつり	D0029	1-	56
成泉形遺跡	なりやまのたけいせき	E0147	1-	78
成泉形遺跡出土箭式石棺	なりやまのたけいせきしゅうつたけしきせつかん	E0212	2-	33
成泉形古墳	なりやまのたけいせき	E0211	2-	32
成泉形地下道(太宰府市-01)	なりやまのたけいせき	E0159	1-	79
ナンキンハゼの林	なんきんはぜのはやし	F0253	2-	57
前大鳥居石(観世音寺)	まへたいりゆうせき	F0228	2-	53
西島伊弉諾鳳皇(宝満山)西(船越)	にしじまのいせなづけ	D0099	1-	54
西ノ池	にしのみ池	E0060	1-	68
西ノ池の景観	にしのみ池のけいかん	E0196	2-	30
日中不戦橋樹の碑	にちゅうふせんしきとくじゆのひ	F0285	2-	62
二のイデ	ふたのいで	A0005	1-	11
日本経済大学	にほんけいぎだいがく	C0011	1-	48
ヌノハエ石(推定)	ぬのはえいし	B0076	1-	36
野口地下道(太宰府市-03)	のぐちらふだう	F0165	1-	80
ノダフジ	のだふじ	F0250	2-	57
織(坂本八幡神社)	オリ	F0176	2-	44

■は行

華香地区の夏祭り	はなごころえんくのなつまつり	D0033	2-	25
拝観(老松神社)	はいてん	E0208	2-	32
拝観(坂本八幡神社)	はいてん	F0213	2-	51
拝観の給馬(増録神社)	はいてんのたま	H0110	2-	91
旗立石	はたていし	C0045	2-	22
旗立石(坂本八幡神社)	はたていし	F0164	2-	42
旗立石(王城神社)	はたていし	G0077	2-	76
旗立石(王城神社)	はたていし	G0083	2-	77
旗立石	はたていし	G0103	2-	80
旗立石(菅原神社)	はたていし	G0136	2-	81
旗立石(鹿嶋神社)	はたていし	G0147	2-	83
旗立石(地祇神社)	はたていし	H0106	2-	90
旗立石(日吉神社)	はたていし	F0151	1-	109
旗立石	はたていし	H0083	1-	37
八幡宮通拝所	はちまんぐうすうはいじよ	H0026	1-	127
八潮の平嶋	はつさくのひらしま	H0079	1-	37
八反田イデ	はつたんだい	A0043	1-	17
八反田地下道(太宰府市-04)	はつたんだらふだう	E0149	1-	78
八反田橋	はつたんだはし	A0044	1-	17
花立(秋葉神社)	はなたて	A0082	2-	12
花立(衣掛天満宮・衣掛天神)	はなたて	E0200	2-	31
花立(坂本八幡神社)	はなたて	F0174	2-	44
花立(日吉神社)	はなたて	F0206	2-	49
花立(王城神社)	はなたて	G0087	2-	78
花立(地祇神社)	はなたて	H0097	2-	89
はな石	はないし	A0018	1-	13
原道跡	はらのみち	B0105	1-	40
原野古太郎記念碑	はらのひやうこたろうきねんひ	F0194	2-	47
原八坊中堂跡	はらはちばうちゆうだうあと	H0101	1-	39
原八坊本堂跡	はらはちばほんだうあと	D0020	1-	28
半田橋	はんたはし	G0002	1-	113
香櫃による御除香(オカッテンサン)	ばんちゆうによるおのり	F0190	2-	47
香櫃による灯明香	ばんちゆうによるとうみやうばん	F0222	2-	52
観度(の礎)	はんどのそ	F0149	1-	109
観度の滝行堂表札(オカッテンサン)	はんどのたきぎやうどうじやうばし	F0187	2-	46

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
般若寺	はんじゃじ	G0136	2-	83
般若寺跡	はんじゃじあと	G0134	2-	82
般若寺跡 石造七重塔	はんじゃじあと せきぞうななじゅうのとう	G0030	1-	116
東ヶ丘広域	ひがしのかみ	G0028	1-	56
東ヶ丘増殖鳥糞処理場の開設	ひがしのかみのふかひつりひがしきよくのからいせり	G0030	1-	56
東谷口堤堰	ひがしだに	F0139	1-	107
東の段(東蓮寺跡、薬師山)	ひがしので	G0007	1-	114
引陣地蔵	ひきちぞう	E0116	1-	76
ピシヤモン田	ひしやもんた	G0034	2-	99
毘沙門天の鳥居	ひしやもんてんのとりい	B0111	1-	41
毘沙門天祠	ひしやもんてんほら	G0061	2-	74
毘沙門堂	ひしやもんどう	G0018	2-	96
毘沙門堂	ひしやもんどう	H0034	1-	128
毘沙門堂	ひしやもんどう	B0025	1-	28
毘沙門堂への道	ひしやもんどうへのみち	G0067	2-	95
毘沙門まいり	ひしやもんまいり	E0148	1-	78
毘沙門詣りの道(現在の道)	ひしやもんまいりのみち(現在の道)	E0182	1-	83
毘沙門詣りの道1(田道から)	ひしやもんまいりのみち1(田道から)	E0177	1-	82
毘沙門詣りの道2(裏ノ田地下道〜裏ノ田地)	ひしやもんまいりのみち2(裏ノ田地下道〜裏ノ田地)	E0178	1-	83
毘沙門詣りの道3(裏ノ田地〜みどり公園)	ひしやもんまいりのみち3(裏ノ田地〜みどり公園)	E0179	1-	83
毘沙門詣りの道4(水城道地内に残る道)	ひしやもんまいりのみち4(水城道地内に残る道)	E0180	1-	83
毘沙門詣りの道5(登山口)	ひしやもんまいりのみち5(登山口)	E0181	1-	83
日田街道	ひたかいどう	E0033	1-	63
日田街道(博多往還)	ひたかいどう	E0047	1-	66
ヒトフタゴ	ひとつたご	B0125	1-	43
ひともつこ山(跡)	ひともつこやま	E0034	1-	64
火の尾跡(推定)	ひのおし	E0011	1-	61
ヒノマル	ひのまる	G0037	2-	99
ひまわり会(東ヶ丘区)	ひまわりかい	G0034	2-	25
日笠遺跡	ひがしづき	B0070	1-	133
ヒヤケ谷・ヒヤケ	ひやくえにひやくえ	G0026	2-	98
百間石垣	ひゃくまいしぎ	G0052	2-	101
日吉神社経塚	ひよしじんじやまきつづか	F0212	2-	50
福岡県立太宰府病院	ふくおきたまざいふくおきびやういん	G0009	1-	48
福岡女子短大・福岡国際大学 フク遊跡	ふくおほにょしたんたいふくおこくさいだいがく ふくいづき	G0007	1-	48
普賢道跡修験會費表	ふけんどうろしゅうげんかいふひょう	B0021	1-	28
普賢橋	ふけんばし	B0002	1-	25
古川家発祥の地碑	ふるかわけはつしやうのち	G0043	2-	21
文庫部	ぶんぶ	G0024	1-	55
文明館(八角堂梵字板碑)	ぶんめいかん(はちがくどうばんじばんてい)	G0029	2-	21
別所2号橋	べつしよごうはし	A0022	1-	14
弁財天	べんざいてん	F0005	2-	66
奉香遺跡	ほうきんじ	G0082	2-	77
宝篋印塔	ほうきやういんとう	F0230	2-	53
宝篋印塔	ほうきやういんとう	F0291	2-	63
宝篋印塔	ほうきやういんとう	F0301	2-	65
宝篋印塔	ほうきやういんとう	F0308	2-	66
ホクシ田・ブシ田	ほくしだふしだ	E0025	2-	97
坊上山	ほうやま	F0200	2-	58
宝満宮・八幡宮	ほうまんぐう・はちまんぐう	H0025	1-	127
宝満宮・八幡宮の年間講祭	ほうまんぐう・はちまんぐうのねんかんしよさい	H0065	1-	132
宝満宮旗立石	ほうまんぐうはたていし	H0021	1-	126
宝満山	ほうまんざん	A0080	1-	21

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
宝満山雄	ほうまんざんぶ	A0003	1-	11
宝満山を繞めるビューポイント	ほうまんざんをめぐめるビューポイント	B0047	2-	26
宝満神社の宮庭	ほうまんじんじやのみやま	H0086	1-	135
鉢ノ浦池築造之碑	はちのうらたけぞうのいし	C0010	1-	48
祠(菅宿神社)	ほら	G0138	2-	81
ボダイジュ	ぼだいじゆ	F0003	2-	65
法華寺	ほっけじゆ	G0069	2-	75
法華寺系願取碑	ほっけまんがらいたい	B0154	2-	77
梵字板碑	ばんじばんてい	G0068	2-	74
梵字岩	ばんじいわ	G0067	2-	74
梵鐘(観世音寺)	ぼんしやう	F0243	2-	56
本殿(秋葉神社)	ほんでん	A0081	2-	12
本殿(老松神社)	ほんでん	E0207	2-	32
本殿(坂本八幡神社)	ほんでん	F0175	2-	44
本殿(丸山神社)	ほんでん	H0094	2-	88
本殿跡台座(菅原神社)	ほんでんあとだざ	G0033	1-	116
本殿の階(地社神社)	ほんでんのかい	H0096	2-	88
本殿拝殿(日吉神社)	ほんでんはいのうら	F0109	1-	103
本堂(成福院)	ほんどう	F0310	2-	67
ポンツ式井戸	ほんぶしきいど	H0047	1-	129
■ま行				
前田公園地下道跡	まへだこうえんちかみせき	H0035	1-	128
街角と高台からの眺望	まちかどとたかひからのていぼう	G0025	1-	56
街角と高台からの眺望	まちかどとたかひからのていぼう	G0026	1-	56
街角と高台からの眺望	まちかどとたかひからのていぼう	G0027	1-	56
松ヶ浦池からのトンネル導水	まつうらいけからのとんねるみず	F0223	2-	52
松川貯水池(松川ダム)	まつこうづみ	A0074	1-	21
松川橋	まつこうづし	A0061	1-	19
松川道	まつこうづへのみち	B0102	1-	40
マシシの生息地	まししのみせぢ	G0044	1-	118
丸山神社	まるやまじんじや	H0036	1-	128
丸山神社の年間講祭	まるやまじんじやのねんかんしよさい	H0084	1-	135
丸山神社の宮庭	まるやまじんじやのみやま	H0087	1-	135
万葉歌碑 山上健良(しろがねもろ)	まんやうかひ さんじやけんら(しろがねもろ)	F0185	2-	46
万葉歌碑 沙弥清賢(しらぬり)	まんやうかひ しゃみやけい(しらぬり)	F0252	2-	57
万葉歌碑(緑が見し)	まんやうかひ いろはみし	B0048	1-	32
万葉歌碑 娘小児島・大納言伴柳	まんやうかひ めいこじま・おのごんごんやなぎ	E0167	1-	81
万葉歌碑 大伴旅人(世の中は)	まんやうかひ おほのともちか(よのなかは)	F0024	1-	90
万葉歌碑 大友紀綱(正月立ち)	まんやうかひ おほのともたけ(しんげたち)	F0027	1-	91
万葉歌碑 大伴旅人(やすみし)	まんやうかひ おほのともちか(やすみし)	F0067	1-	97
万葉歌碑 小野老(あをよし)	まんやうかひ おののら(あをよし)	F0068	1-	97
万葉歌碑 山上健良(子等を思ふ歌)	まんやうかひ さんじやけんら(こををを思ふ歌)	F0083	1-	99
万葉歌碑 大伴旅人(わが岡に)	まんやうかひ おほのともちか(わがおか)	F0171	2-	44
三浦南井碑	みつうらみない	B0004	1-	25
三浦の碑(五条)	みつうらのいし(ごじやう)	G0003	1-	47
三浦橋	みつうらばし	B0001	1-	25
御笠遺跡	みかさゆき	G0006	2-	74
御笠川のゴム敷井堰	みかさがわのごむ敷いづき	E0122	1-	76
御笠北島等小学校之跡の碑	みかさきたしまらうがっこうのあと	G0055	1-	95
御笠印山土地用遺跡	みかさだんさんちどうりゆいせき	F0131	1-	106
身代地蔵菩薩(胎藏神)	みしろじぞうぼさつ	E0062	1-	68
水板山(雲龍神)祠と石	みずかのやま(うんりゅうじん)ほら	B0010	1-	26
水板山道標	みずかのみちざし	B0026	1-	28
水城	みづき	E0205	2-	31

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
水城跡	みずきあと	H0062	1	131
水城跡	みずきあと	E9145	1	77
水城跡(東門跡)	みずきあと (ひがしもんがわ)	E9026	1	64
水城跡・御路切り通し	みずきあと・せうろきりとうし	H0064	1	132
水城跡石碑及び関連施設	みずきあとせきいしおひわかんれんせつし	E9037	1	64
水城瓦葺跡	みずきあわらぎあと	E9049	1	65
水城跡屋	みずきまよらう	H0068	1	132
水城大堤の壁	みずきたいでいのかべ	E9042	1	65
「水城址」平成16年7月夜由菰古跡	みずきていいひせいのりゅうこねんしちゆふここうりひのりゅう	H0003	1	124
水城展望台(水城南西方向を見る)	みずきてんぼうだい	E9032	1	63
水城西門跡	みずきにしもんあと	H0005	1	124
水城の隈(水城東門の礎石)	みずきのさかい	E9051	1	66
水城の渡し跡	みずきのわたしあと	E9027	1	63
水城堀	みずきぼり	E9029	1	63
水城東門跡	みずきひがしもんあと	E9199	2	31
水城村からの道	みずきむらからのみち	E9164	1	80
「水城」跡 熊蓋土器発見場所	みずき跡のぼくしよどきばつげんばしよ	E9039	1	64
水城木樋跡(東門)	みずききもくひあと	E9038	1	64
水手(今、田アリ)	みずて	H0112	1	41
水ハコミミチ・太宰府町道	みずはこみみち・たさいふちうどう	H0158	2	17
緑台区の年中行事	みずのたいぐわいのねんちゆうぎぎょうじ	H0632	2	25
宮座(老松神社)	みやざ	E9210	2	32
宮座(日吉神社)	みやざ	F0211	2	50
宮座・真魚宮神事(王城神社)	みやざ・まなほしんじ	G0101	2	80
宮座記録(衣掛天満宮・衣挂天神)	みやざきらく	E9202	2	31
宮座記録(老松神社)	みやざきらく	E9209	2	32
宮座祭	みやざさい	H0081	1	134
宮座祭	みやざさい	H0080	1	134
宮ノ本遺跡	みやのほんのいせき	H0058	1	131
宮原御作金剛形碑	みやはらみんがくおんぎふけんぎょうひ	H0046	1	129
ミョウカクイデ	みよかくい	A0040	1	16
妙見岡(阿方)	みよけんがはら(あほう)	E9152	1	78
妙見岡(村方)	みよけんがはら(むらほう)	E9010	1	61
民家の敷地を造る道	みんかのしきちをたづねるみち	E9061	1	68
向佐野地下歩道	むかしよのちかほどう	H0072	1	133
向佐野地区小祠・仏堂の信仰行事	むかしよのちかほどうしょうほら・ぶどうらのしんこうぎぎょうじ	H0076	1	134
菅の水路(トンネル入口)	むかしのすいり	E9157	1	79
菅の水路(トンネル出口)	むかしのすいり	E9158	1	79
菅の洗濯場(岩窟川)	むかしのせんたくば	H0116	1	42
ムクノキ	むくのき	G0140	2	82
ムクノキの巨木3本	むくのきのきほけさんぼん	H0095	1	73
ムクの大木	むくのたいぼく	H0105	2	90
武藤経資供養塔	むとうつねすけきやうとう	F0217	2	51
武藤経資顕彰碑	むとうつねすけけんしやうひ	F0218	2	51
ムマノセ	むまのせ	H0123	1	43
ムラの宮座(坂本八幡神社)	むらのみやざ	F0178	2	45
明治百年記念碑	めいしひゃくねんきねんひ	H0084	1	72
水道観音菩薩立像	みくどうくわんのぼつぎやうぞう	F0269	2	60
水道観音菩薩立像	みくどうくわんのぼつぎやうぞう	F0353	2	68
水造吉祥天立像	みくどうきやうじやうてんりゅうぞう	F0275	2	61
水造地藏菩薩半跏像	みくどうじざうぼんがきやうぞう	F0272	2	60
水造地藏菩薩立像	みくどうじざうぼつぎやうぞう	F0273	2	60
水造因天王立像	みくどうしやうてんりゅうぞう	F0271	2	60
水造十一面観音立像	みくどうじゅういちめんくわんのんりゅうぞう	F0266	2	59

名称	読み仮名	登録番号	号	頁
木造十一面観音立像	みくどうじゅういちめんくわんのんりゅうぞう	F0267	2	59
木造十一面観音立像	みくどうじゅういちめんくわんのんりゅうぞう	F0268	2	60
木造大黒天立像	みくどうだいこくてんりゅうぞう	F0276	2	61
木造馬頭観音立像	みくどうばとうくわんりゅうぞう	F0270	2	60
木造毘沙門天立像(毘沙門天立像)	みくどうびしゃもんてんりゅうぞう(びしゃもんてんりゅうぞう)	F0274	2	61
木造空明神観音立像	みくどうくうめいしんくわんりゅうぞう	F0265	2	59
セツ子、ツボ子(ツボヤダン)	せつこ、つぼこのたに	H0028	2	98
もちの木	もちのき	G0042	1	117
もんじのすま	もんじのすま	F0138	1	107
■や行				
薬師堂	やくしどう	G0040	2	21
薬師堂	やくしどう	G0070	2	75
薬師堂	やくしどう	E9142	1	77
薬師如来・伝教大師・弘法大師	やくしにょらい・でんきょうだいし・こうぼうだいし	H0196	1	40
薬師如来石像	やくしにょらいせきざう	F0181	2	45
薬師如来堂	やくしにょらいどう	H0022	1	28
ヤシキヤ	やしきや	H0049	2	101
安武八馬門碑	やすたけやうまかど	F0231	2	54
野島のねぐら	やしろのねぐら	G0015	2	73
八ツツミカ娘、ヤシキヤ	やつづみかぢやう、やしきや	H0047	2	101
山崎鼓歌碑	やまざきうたかひ	F0232	2	54
山の井池石塔群	やまのいけいせきどうぐん	F0118	1	104
山の神	やまのかみ	A0002	1	11
山伏鬼(玉条)	やまぶしおに	G0014	1	38
やんぶの墓(山伏塚)	やまぶしのむら	F0012	1	88
涌水取水口	ゆむすいけいぐち	E9023	1	14
湧水	ゆむすい	F0237	2	55
由来不詳の石造遺物(3)	ゆらいふしやうのいせきぞうぶつ(3)	H0157	2	17
由来不詳の石造遺物(5)	ゆらいふしやうのいせきぞうぶつ(5)	H0039	2	99
由来不詳の石造遺物(6)	ゆらいふしやうのいせきぞうぶつ(6)	H0040	2	99
由来不詳の石造遺物(7)	ゆらいふしやうのいせきぞうぶつ(7)	H0043	2	100
由来不詳の石造遺物(8)	ゆらいふしやうのいせきぞうぶつ(8)	H0044	2	100
由来不詳の石造物(1)	ゆらいふしやうのいせきぞうぶつ(1)	H0012	1	61
由来不詳の石造物(2)	ゆらいふしやうのいせきぞうぶつ(2)	H0126	1	43
由来不詳の石造物(4)	ゆらいふしやうのいせきぞうぶつ(4)	H0003	1	60
彦作所碑	ひこしよせい	E9216	2	33
横岳造碑	よこたけぞうひ	F0214	2	51
横岳山崇福寺(勝福寺跡)	よこたけさんぞうじ(かたふくじ)	F0129	1	106
横岳崇福寺(勝福寺跡)庭園	よこたけさんぞうじ(かたふくじ)ていえん	F0215	2	51
吉松木造碑	よしかまつくも	H0057	1	130
夜波き石地藏堂	よなばいしじぞうどう	H0016	1	27
■ら行				
藤原尊坐像	ふじわらみんぎやう	F0315	2	67
龍上げの道	りゅうあげのみち	H0014	1	27
龍様	りゅうさま	H0114	2	91
龍神祠	りゅうじんほら	F0180	2	45
龍頭不動明王院	りゅうとうふどうみんぎやういん	A0058	1	18
達夜風屋	たつやかやし	H0039	1	30
六舟の櫓	ろくしゆのりゆう	G0111	2	82
■わ・を				
わかみやま	わかみやま	H0020	1	126
わかみやまじんま	わかみやまじんま	E0098	1	73
をまなし	をまなし	F0005	1	87

太宰府市の文化財 第119集

**太宰府市文化遺産情報 2**

—文化遺産からはじまるまちづくり—

平成25(2013)年3月

**発行** 太宰府市教育委員会

〒818-0198

福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号

**印刷** (有) システム・レコ

〒813-6591

福岡市東区多の津1丁目14番1号